マンガ大賞
Cartoon grand prize

2015 マンガ読みが選ぶ2014年の一推!!

マンガ大賞2015決定！
選考員コメント掲載！

マンガ大賞 Cartoon grand prize 2015 マンガ読みが選ぶ2014年の一推!! マンガ大賞決定！ 選考員コメント掲載！

マンガ大賞2015 大賞受賞作品

Cocohana/ 集英社

「かくかくしかじか」東村アキコ

選考員コメント・1次選考

■ 毎巻読み終えてジワジワきます。

ネビュラプロジェクト / 小森和博

■ 東村先生の自伝。語り口調がとても染みます。大バカな自分、ふがいない自分、それでも今こうして生きてる自分。わかるなぁ・・・。

フリーアナウンサー / 松尾翠

■ 身勝手でぐうたら、勘違いしていて傲慢で、でも必死。そんな主人公の若さとバカさと、「先生」の破天荒ぶりにゲラゲラ笑い、笑っているうちに泣かされる。急転直下の展開は苦しくてたまらないし、続きを読みたいけど結末は想像すると切なくて本を閉じたくなる。熱くて苦くて甘い、キリキリする思いが勝手に蘇ってくる青春の書です。

馬場企画 / 島影真奈美

■ 何でも思い通りになる、後回しにしたことも何とかフォローできる、取り返しのつかないことなんてないと思っていた思春期の愚かさ、傲慢さが染みる。厳しい言葉の裏にある強がりや、優しさやさびしさを見抜けるようになった頃には、もう全てが終わっていることもある。「先生」に語りかけることで増幅されるどうしようもない後悔と謝罪と、自分の夢を叶えていくまでの面白おかしい紆余曲折のバランスがいい。つらいけれど読んでしまう。

アニメガ新宿マルイアネックス店 / 小田真弓

■ 数年前から話題になっていたのに、何で今まで読まなかったんだろう！と後悔。号泣した 4 巻の続きを読むのがつらいけど、日高先生の美しい生き様を見届けたい。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

■ 東村アキコ二冊目でごめんなさい（笑）ご存知、東村アキコの自伝本。話がどんどん悲しい方に向かってます。そんな伏線がバシバシ張り巡らされていて胸が締め付けられるような 4 巻でした。どう、終止符をつけていくのか。切ねえです。

主婦 / 柴 架衣

選考員コメント・2次選考

■ イラストとかマンがとかをマネして描けば、それなりな形になって雰囲気も出ていて、絵なんて簡単簡単と思ってい頃があったし、今だってスケッチブックを買ってきて、鉛筆でも走らせれば、風景だってサラサラと描けてしまうんじゃないかと思わないこともない。でも、そんな浮かれた気分を東村アキコの『かくかくしかじか』というマンガが木っ端微塵に吹き飛ばしてくれた。　マンガ大賞の候補に違う作品で何度も候補になって来た人気マンガ家で、そのうちの１作『海月姫』はアニメになって映画にもなった。そんな東村アキコが高校生のころに通っていて、美大を出てからもしばらく講師をしていたらしい絵画教室で、とてつもなく厳しい先生から、どれだけの厳しい指導を受け、どれだけの苦行難行を重ねて美大に受かるくらいの技術を身につけたかが『かくかくしかじか』にはつづられている。　その先生の指導はもうとてつもないスパルタぶり。そばで竹刀を振り回され先端でつつかれ、自信満々に描いたデッサンを面前でダメ出しされ、そして１日に何時間も１０何時間もデッサンを続けされられる。そうやって描けるようになっても、世界のみんなを、というより自分自身を納得させるものを描くまでには至らないという、絵描きの人たちの厳しい現実を見せつけられて、安易に絵なんて目指すべきじゃないと思わされるかというと、それは違う。　逆に、この教室に通って指導を受けながら、描くことの楽しさを感じてみたいとさえ思えてくる。ただ巧くなりたいという目的のためだけなら、こんなに厳しい教室に行く必要はないし、それが良い思い出になることもない。東村アキコが今になってマンガに描くこともなかっただろう。けれども描いた。振り返って辛かった気分や、憎かった思いも消さずにペンに乗せて描いていった。　その絵画教室には、ただ技術を厳しく仕込むだけに止まらない、何かがあったのだろう。だから通り過ぎたまま、振り返らずに終えることが出来なかったのだろう。どうやって描くのか。どうしたら描けるのか。そうした指導ももちろん有り難い。それに加えて、何のために描くのか。誰のために描くのか。そんなことを後になってしっかりと、思い出させてくれるだけの指導を、その絵画教室の先生がしてくれたからこそ、今にこうやって振り返り、良い思い出としてマンガにつづっていけるのだ。　それはとても羨ましいこと。それはとても素晴らしいこと。だったら今、同じような思いを味わいに、その海のそばにあって、木々に囲まれた絵画教室に通いたくても、それは出来ない。先生ももういない。だから。マンガとしての『かくかくしかじか』を読んで、そこに描かれた東村アキコさんの体験を通して、その熱くて激しい指導を受けよう。そこに浮かべられる東村アキコさんが抱いた感情をたどって、絵を描くことに限らず、マンガ家を目指すことに止まらず、自分が何をしたいのかということ、何ができるのかということ、そして何かを成し遂げるまで頑張り続けるということの大切さを、自問して自答してみよう。　そうすることで、海のそば、木々に囲まれた絵画教室は蘇る。　指導を受けた人たちの中に思い出として生きていたものが、東村アキコのマンガによって新しい命を吹き込まれ、マンガとして読みつがれることによって、今もそこにあるかのように輝いて大勢を導く。個人にとっては思い出の振り返りだったかもしれない『かくかくしかじか』だけれど、大勢いにとってそれは熱い指導の再臨なのだ。受け止めて僕たちは、何をしようか。　とりあえず鉛筆を取って、スケッチブックに向かってみようか。

書評家 / タニグチリウイチ

■ 話が始まった頃は、いつもの東村さん作品のようにギャグなオチがついて先生は今でも生きているという終わりだと思ってました。モノローグが切ないです

bar 図書室　店主 / 岡部愛（のん

■ 東村さんの実体験をタイムマシンで一緒に戻って、見ているような感覚になりながら読み続けます。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

■ 人と人のつながりの大切さ、もろさが描かれていて、「人とは何か」を意識してしまう。読後にいろいろ考えさせられる希有な作品で、恩師のことを思い出す人もいるのでは。

まんたんウェブ副編集長 / 河村成浩

■ 自分の若い恥ずかしい頃と重ね合わせてジタバタしたり。もちろん、そればかりではなくハッとさせられたり爆笑したり。確実に悲しい方向に向かっているのが切ない。東村アキコは描くことによって昇華できたのかな。

主婦 / 柴 架衣

■ 正直！人に見せるものをつくろうとすると、「お金が儲かったらうれしい」とか「前向きな努力をしていたからいい結果につながった」みたいな、理解しやすくて、でも意外性のないものごとのつながりを積み重ねて、ものを作ってしまいがちです。あったこと、感じたことを、先入観とはまったく関係ない感想を、実際の事態に遭遇した人間は抱くもの。それが、生々しくみられるのが、実話をマンガで描く価値でしょう。どんな気持ちを抱えて美大受験生は絵を書き続けているのか。すごく好きなタイプの男性と出会っでしまったときに、女性マンガ家さんはどうリアクションするのか。マンガがヒットしたときに、ATM の前でどんな気持ちを抱くのか。そして、厳しくもどこかとぼけている先生との生活から、なにを思うのか。この生々しい気持ちが織りなすものが、笑いと、芯をくらった暖かさだなんて。一生懸命やるって、いいですよね。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

■ 現在から、２０数年前の高校生～デビュー後当時を恩師との関係を縦軸として振り返るという構成で、１話目から既に死別を匂わせており、ギャグタッチの漫画にシリアスで暗めのモノローグを重ね、あざといくらいに切なさを際立たせているが、不思議と嫌味はない。極私的な自分の過去をバカ話風にして描いているだけなのに、誰もが若い頃に体験する全能感や無能感、自分の欲望に忠実な刹那的な生活など普遍性もあり、漫画を読みながら、ふと自分の若い頃の事も思い出す瞬間がある。それは多分に作者と私がほぼ同年代という部分も大きいとは思うが、それだけではないとも思う。中学生ぐらいが読んだらまた違う感想を持つのかもしれないけれど。３０歳以上くらいの方には、文句なしにお薦めです。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

■ 若さ故の甘酸っぱさと今の作者目線の突っ込みとの加減が絶妙。笑えて泣ける、このジャンルの金字塔になると思う。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

■ 作者の個人的な思い出が、なぜか懐かしく、共感できる。

公務員 / 東くるみ

■ 泣いて笑える東村先生の赤裸々で直球な自伝です。受験の苦労や絵を描く事への葛藤の日々と恩師日高先生との出会い。ひとつひとつのエピソードは面白くて泣ける話ばかりです。素朴でぶっきらぼうで全力で応援してくれる日高先生。大切な恩師に感謝しながらも時には正面から向き合えなかった若い頃の東村先生。不器用なふたりの強くて温かい絆に涙が出ました。大切な人や事から目を背けてしまった苦い思いやその時はわからなかったけど今ならわかる事など誰もが経験する様な心情が飾らずに描かれています。また読み返したい、人にも薦めたい作品です。

有隣堂店売事業部仕入販促グループ係長 / 徳永あけみ

■ それにしても、東村さんは、いつも傑作が同時進行しすぎる。たぶん過去にも、ばらけた票を足したら一番、という年度もあったかもしれないです。タラとレバーの擬人化とか、相変わらずフード作家の面目躍如。東京でオリンピック開催のニュースに、すわっと脊髄反射してこの作品が描けるってすごい。１００m 走しながら碁を打ってる感覚か？ 「東京タラレバ娘」や「メロポンだし！」と今年も票が割れそうな悪寒が的中。どうか、票をまとめて足してください！的な懇願。？してみた甲斐あり、とりあえず二次では「かくかくしかじか」に一本化されたのが念願。（ちょっと韻を踏みました） 作家とは、ってだけじゃなく、どんな仕事をしているひとであろうと共感できる普遍性がある。

お菓子研究家 / 福田里香

■ エモい。新境地。

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

■ 傑作誕生。雑誌掲載分で最終回を読んでしまい、本来はそこに関しては選考対象外だと思いますが、これはもう推さずにはおれない！「描いて」生きていくとはどういうことか、人生をかけて何かをするとはどういうことなのかが真摯につづられていて、胸をうたれる。エッセイという個人的な話のはずが、ものすごく普遍性のあるものになっている。全働く人、必読。

漫画ライター / 門倉紫麻

■ 東村アキコ先生のまんが道。　日高先生と言う東村先生に多大な影響を与えた恩師　と、主人公　林明子のやりとりの中で　林明子が思っている心の中が、若き日の自分と重なり、 あそこまでの偉大な恩師はいないものの、こういう青々しさあったなと、自分を重ねながら読んでしまう。あと、現在の東村先生の「振り返り」に心抉られます。ＮＨＫの朝ドラみてるみたい。

株式会社アニメイト 販促部 / 鈴木寛子

■ とても心に沁みました。若い頃の後悔は、ひりひりするような痛さ。どれだけ悔やんでも、もうやり直せない、戻れない。一生懸命で、ぐだぐだで、自堕落で、愚かだった、むしょうに懐かしいあの頃。笑えて切ない自伝です。

主婦 / 安田奈緒美

■ 切ない感じがいいですね。

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

■ とにかくおもしろいけど、その後ろにずっと切なさが漂っていて、泣く。人生ってこういうことだよなあ。って思ったけど、こんな人生そうそう無い。無いよ！

金海堂イオン隼人国分店　コミック担当 / 園田美智子

■ いつまででも読んでいられる作品。

医師 / 岸本倫太郎

■ この作品をひとことで説明するのであれば、東村さんの自伝マンガってことになるんだろうけれど、単なる自伝マンガにあらず。マンガにここまで自分をさらけ出した東村さんを先ず尊敬。だからといってそれが嫌みにならず、重すぎず、絶妙なさじ加減でストーリーがすすむ。なんだかすごく自然体な「人生の教科書」っていうのが、ぼくの感想です。

凸版印刷株式会社 / 紺野慎一

■ 当時軽くて今重いのが思い出！形は違えど、誰にでも振り返って悶絶する過去があるとしたら、こういうことだったりするのかな・・・と思わせてくれます。作者の東村先生は自分と同年代、よりか少し年上な方だと思います。個人的に向かった学校のジャンルや将来行きたい方向性などリンクする体験が多すぎたため参考になるかどうか分かりませんが（笑）

デザイナー / 佐藤優

■ バカだった自分への容赦ないツッコミと、先生への哀しい呼びかけが響き合って胸を打つ。

朝日新聞記者 / 小原篤

■ もはやこの賞の常連候補とも言える東村さんですが、今回の作品が一番いいと思いました。最大の武器である「笑い」を封印しても、これだけのものが描けるとは、作者の奥行きの深さに感嘆します。過去と現在を行き来する語り口も、一見ゆるっとしているけれど、この作品にはこれしかないという自信が感じられる。ハイテクニックだと思います。　ひょっとして東村さんの本質は「私小説マンガ家」なのだろうか？ この先の展開は、胸が痛くなりそうで、読みたいような読みたくないような……。

読売新聞東京本社　編集委員 / 石田汗太

■ ギャグ作家でシリアスも描ける人は多い。でもこんな繊細な抒情を描けるのか！ってスゲー驚き。

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 営業管理部 / 大山 敏樹

■ ライトな自伝風エッセイコミックかと思いきや、巻が進むにつれて普遍的な青春物語であり、師弟愛の話であり、ひとりの美しい生き方をした画家の記録でもあるのだと気づかされました。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

■ 先生との思い出といった話が懐かしさも含めて深く伝わる作品。作者の九州で育ち、そこで出会った絵の先生。そう、少なからず、九州には、頑固で優しいこんな人たちがいる気もさせてくれます。受験･就職･そしてマンガ家へ。東村アキコの自伝的マンガ。

デザイナー / 平沼寛史

■ コミックエッセイということもあってか、他の東村アキコさんの作品と比べてコメディ色がだいぶ抑えられていて、とても新鮮でした。美大受験を通じて知り合った「先生」との関係を中心に展開していくのですが、マンガ家として活動を広げていく著者の、「先生」への複雑な気持ちに自然と共感してしまいます。読み応えのある作品です。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

■ このマンガは作者が漫画家になるまでの自伝なのですが、自分のことを書くことを通じて、人を導く愛を注いでくれた作者の恩師宛に心を込めてとても丁寧に書いた感謝の手紙のように思えます。全体に懐かしさや感謝、慈しみといった、作者の恩師に対する想いに満ちていて、読み進めるほどに自分にもその想いが積もってきて、感動なしには読み進められません。今の自分はかかわってくれた人達のおかげでもあり、その人たちへの感謝を忘れてはいけないと。そう思わせてくれるマンガです。

システムエンジニア / 廣瀬 公将

■ 東村先生の血と肉になった先生とのエピソードの数々がこの漫画を通じて色んな人達に色んな影響を与えてゆくんだろうなぁと思います。先生に会いたいねってセリフが切ないですね。

バンドマン / ＴＡ－ＳＨＩ

■ 東村先生、お願いだから幸せになってください！と、現在のご活躍を忘れてハラハラして読んでおります。

Tokyo Otaku Mode Inc. / モリサワタケシ

■ 誰もが持っている“後悔”を淡々と描くマンガだと思います。でも暗くならないのは､東村先生の明るさとコメディセンスがあるから。楽しく、じっくりと、ハンカチを用意して読んでください。

会社員 / 金子幸恵

■ すごく考える作品ですね。何かを目指す人に読んで欲しいなあ。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

■ やっぱり、この作品が愛おしくてすきなんだなぁ。

フリーアナウンサー / 松尾翠

■ こういった作品を描くにはまだ若すぎるんじゃない？と余計なお世話ながら思ってしまいましたが、きっと先生への思いがあふれて、描かずにおれなかったんだろうと強く感じさせられました。人や物事との出会いがその時にはそれほど重要に感じられなくても、後でとても大切なことだったことに気づいたりします。作品自体も非常に面白いですが、読みながらそんなことを考えさせられる作品でした。

会社員 / 林礼春

■ 作者の自伝的な語り口で描かれる女子版・まんが道。なんだけど、あるいは、それだけに、作者のほかの作品に特徴的なハイパーなおしゃべりや、くすくす笑いを誘う小ネタの濃度は薄め。その分、１巻で描かれる美大受験の準備（スパルタ絵画教室通い）から合格までのくだりと、その中に織り込まれるモノローグに象徴されるように、まっすぐまじめなストーリー運びが印象的だ。しんみりさせられたり、前向きに元気にさせられたり。才能あるプロフェッショナルなマンガ家の自伝的作品という興味だけでなく、美術部にも受験にもマンガにも関係がなくて、１０代でもなくて、ましてや女子ですらない読み手にとっても、得るものがとても多い作品だと思う。描きたいことはきっとひとつだけなのだろう。「継続は力なり」（あ、言っちゃった）。コトバで書き出すといまさら陳腐にも思えるこの６文字が、どれだけ唯一無二の真実であることか。それを作者は伝えようとしているのだろう。それにしても、良き師と巡り合うことは人生にどれほど豊かな実りをもたらすことか、と、つくづくうらやましく思う。しかしその素晴らしさは当の教え子がその場でわかることではなくて、何年も経過してからでないとわからないのだ。せつないなあ。

日本経済新聞編集委員 / 天野賢一

■ 自伝的青春モノ、なんだけど…。すでに起こってしまったこと。過去に対して。ひどく実直な態度がとられているのがショックでした。生乾きの傷っつうか。漫画にできるぐらいだから昇華も決着もすべてついてはいるのだけれども。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

■ これがあるからマンガ大賞っていいんだよなと、読み終わって思いました。薦められなかったら読みませんでした。東村さんは、すごく巧いし器用な作家さんだなと思う反面で、だからこそ、いつ読んでも読まなくてもいいかなと思ってしまうところもあって（失礼）。読んで良かったです。面白かった。ただ、完結の仕方で感想も変わる気がするので、最後まで読んでから、また考えたい気持ちもあります。が、やっぱり読まされて面白かった、という点では図抜けてました。誰かに薦めてもらうって、すごいことだなあ。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

■ 主人公の身勝手さや、ぐうたらぶりに呆れたり笑ったり。対する「先生」の破天荒ぶりにゲラゲラ笑い、笑っているうちに泣かされる。急転直下の展開は苦しくてたまらないし、続きを読みたいけど結末は想像すると切なくて本を閉じたくなる。熱くて苦くて甘い、キリキリする思いが勝手に蘇ってくる青春の書です。

馬場企画 / 島影真奈美

■ 先生はある意味で真剣すぎて傍から見てると笑ってしまうような感じだし、読み始めはギャグマンガかと思ってた。しかし読み進めていくに従って、これは懺悔の書なのではないかと思いつつ読んでいる。状況は違うけど同じようなことを思うことはあって、心をえぐられつつも、もっと読みたいと思う作品。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

マンガ大賞2015 ノミネート作品

モーニング / 講談社

「子供はわかってあげない」田島列島

選考員コメント・1次選考

■ 終始ゆるーい温度感で読ませてくれる優しい絵柄やギャグのセンスも押し付けがましくなくてちょうど心地よい感じ。セリフの随所に作品のテーマ的なものが散りばめられているので一度読んでから読み返すとハッとすることも。名言多し。

醤油製造業 / 小野塚博之

■ 会話と間、人と人との関係が青春素晴らしさをばくはつさせているあ

書楽 阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田充

■ 思い出すと、ついにんまりしてしまう。それぞれの抱える事情は文字にしてみれば決して軽くはなく、しかめっ面で語ろうと思えばいくらでも物語にしてしまえるだろうはずのことばかりなのに、なぜかこの話の人々は驚くほど軽やかにそれを飛びこえて、お話を進めていく。爽快で痛快！上下巻という構成もほど良く、特に下巻後半からのスピード感はちょっと他ではお目にかかれない。誰かと向き合って嘘なくきちんと相手を大事にして進むこと。それって、こんなに簡単でこんなに難しいんだよって言われているようで。そのできるかぎりの全力さが、まぶしくて、くすぐったくて、きゅんとします。私の 2014、一番です。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

■ タイトルと、帯にあった「ボーイミーツガール」がいまいちつながらなかったのですが、それでかえって気になって読んでしまいました。初めて異性を好きになった頃の感覚が思い出される作品でした。2 回、3 回と読みたくなる作品でもあります。

会社員 / 林礼春

■ ほのぼの探偵ごっこものかと思ってたら実はキラキラした恋愛ものでした。泣いた。誰かをこういうふうに好きになれ t…（以下自粛

WEB デザイナー / 河本 智芳

■ 読後爽やかな気持ちになる、ど真ん中の青春ストーリー。老若男女、全ての人にお勧めできる快作。山下敦弘監督あたりが、映画化してくれないかな？

会社員 / 佐藤誠

■ 書店でタイトルに惹かれて上巻を買い、帰宅して読み終わった直後に下巻を買いに出かけた。早足で。音楽で言うところの、ひねくれ POP。でもそんな言葉でまとめたくもない。皆さま購入の際はセットがオススメ。必ず続きを買いに行くことになるので。

シンガーソングライター / 谷澤智文

■ どことなく懐かしい雰囲気がある作品。ほのぼのしているようで、そうでない独得なセンスと、会話の掛け合いがとても面白い。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

■ 上巻だけ買って様子見よう、はいりません。一気に上下巻の購入で問題なしです。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

■ 下巻のあとがきにある編集さんの一言が、私の感想に一番マッチしてる気がします。「甘酸っぱすぎて死にそう！」

三省堂書店そごう千葉店 係長 / 内野　智未

■ 失踪・新興宗教・超能力・探偵などなど胡散臭さ盛りだくさんな本書。暗い作品かと思いきや、実は甘酸っぱさ全開の青春漫画！読めばニヤけること間違いなし！

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋修一

選考員コメント・2次選考

■ ３０代がわかる元ネタがドンピシャはまって気持ちがいい、甘酸っぱい気持ちの青春感もあってすばらしです！

Hair Make Lounge tetote / tetote 代表 力丸真

■ マンガ大賞のおかげで毎年すばらしい作品に出会える。今年もまた、このマンガに出会ってそう思いました。ついついオトナの視点で見守ってしまう、子供たちの大冒険。

Tokyo Otaku Mode Inc. / モリサワタケシ

■ こういうマンガを、多くの人がいいと思って手に取る世界って素敵だなぁ、と思います。

WEB デザイナー / 河本 智芳

■ より広く、多くの人に読んでもらいたいとなるとこの作品になりました。飄々とした中に心の激しい動きが描かれていて、さわやかな読後感でした。

医師 / 岸本倫太郎

■ 雑誌掲載時、次が気になって、そして終わってほしくなかったマンガでした。コンパクトに上下巻にまとまっていて中身はというと、テンポのいい会話とストーリーとかわいい絵柄、そして最後は悶え殺す気か！とニヤニヤしながらつっこんでしまう本当に本当に素敵なボーイミーツガールなマンガでした！

恵文社バンビオ店　店長 / 宮川元良

■ 上下巻と 2 冊で巧くまとめられているのにもかかわらず、続きをずっと読んでみたいと思わせてくれる作品。懐かしい雰囲気と描写ですが、読んでいて微笑ましく読了感がとても良かったです。最後に自分の気持ちと向き合って良かったねと声掛けたくなります。あぁいうただのではないボーイミーツガール大好きです。

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西良昌

■ 子供たちだけでなく大人たちも等しく感情の動く人間として登場していてこのみでした。あまずっぱくて死ぬかと思いました。

大日本印刷 / 佐々木愛

■ 終始ゆるーい温度感で読ませてくれる優しい絵柄やギャグのセンスも押し付けがましくなくてちょうど心地よい感じ。セリフの随所に作品のテーマ的なものが散りばめられているので一度読んでから読み返すとハッとすることも。名言多し。

醤油製造業 / 小野塚博之

■ 書店でタイトルに惹かれて上巻を買い、帰宅して読み終わった直後に下巻を買いに出かけた。早足で。音楽で言うところの、ひねくれ POP。でもそんな言葉でまとめたくもない。皆さま購入の際はセットがオススメ。必ず続きを買いに行くことになるので。個人的には 2014 年最もおすすめしたい作品です。

シンガーソングライター / 谷澤智文 (SPACE LIKE CARNIVAL)

■ これぞ「マンガ」ならではの作品だなあと思ったので、1 位に選んだ次第です。高校生の夏のふんわり思春期作品だと思いきや、全力でハンドル切ってあちこち寄り道した挙句、やっぱり高校生の夏休みってこれこれ、この感じよね～っていう好感触の読後感。すごいね、気持ちのいい作品ですよね。全力でおすすめできるなあって思ってます！

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

■ 謎あり、恋愛あり、笑いあり、泣きありとすべてを揃えたオールマイティコミックス！そしてその甘酸っぱさに読めば必ずニヤけます。電車の中で読むことはオススメしませんが知人にはオススメしたいＮｏ．１

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋修一

■ 表紙の絵からほのぼの系かと思っていましたが、とんでもない。格好良かったです。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

■ つらいことの先に。かなしいことの先に。確かにある、大事なこと。マンガには救いがあってほしいと願うようになったのはいつの頃からか、でもとみに最近そう思うようになりました。人の感情の醜さや激しさ、どうしようもなさを描いたものも、大事です。でも私が好きなのは、それらの先にある何でもなさや、軽やかさ、どうしようもないことを受け止めて「大事にしたいものを大事にする」強さ、なんです。そういったものを、この作品はたった上下巻の紙の束の中に現わしてくれました。だから、ありがとうと言いたい。あなたたちの物語に救われる心があるんだよと、言いたい。この作品が、私の今年の一推しです。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

■ 軽い探偵譚を織り込んだボーイミーツガール――と書くと平凡に見えるが、全篇に漂う会話とユーモアのセンスが秀逸。著者の将来が楽しみだ。

書評家 / 福井健太

■ ほんわかとした絵柄で多面的な人間模様を描いて秀逸でした。

ライター / 縣丈弘

■ 甘酸っぱくもあり、懐かしくもあり、それでいてシュールでもある　読んでみると何故か優しい気持ちになれるこのマンガは何度でも読み返したくなる作品である

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部大介

■ 起こっていることは結構な大事件だけどなんか柔らかくゆるく解決。きっと登場人物はみんな優しくて、生きることに前向きだからなのかな？。どんな出来事より、恋愛の方が大事件。それが子供。それでよいのだ。そんな気持ちになります。

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川ゆかり

■ 緩いテンポと優しい絵で、重たいはずのシーンもさらりと読ませる作者の技術には脱帽。ほのぼのとした雰囲気でありながら達観したキャラクター達の発言が魅力。夏休みが終わってしまった時の気持ちを思い出させる読後感がさわやかである。

弁護士 / 長島・大野・常松法律事務所 / 三村量一

■ ノスタルジックでありながら現代的。ほんわかしてるのにネタ満載。昭和のようで平成のセンスがそこかしこに散りばめられている。「甘酸っぱさ」が取り上げられることが多い作品だけど、その甘酸っぱさを抵抗感なく読者が受け入れられるように昇華する技術とセンスがすばらしすぎる。赤面せずに 10 代の頃の気持ちだけ思い出せる作品なんてそうはない。きっと何度読み返してもこの作品は色あせない。

編集者 / 松浦達也

■ めちゃくちゃセンスのいい会話の青春マンガ。でも、全くきどっているわけじゃないし、かといって、暑苦しいとかわけではない。どんなに年取ってもこれ読んでキュンキュンする気持ちを忘れたくない。

書楽 阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田充

■ ボーイ・ミーツ・ガールから父娘の物語になって、そしてまたボーイ・ミーツ・ガールに戻ってくるというスイング具合が秀逸でした。上下巻という比較的短い話なんだけど、これほど豊かな読後感を与えてくれるとは正直読む前には思っていなかったです。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

■ 周囲への気配りに富んだキャラクターたちばかりで、読んでいて非常に温かい気持ちになる。デビュー作でここに名前が挙がるほどの躍進を見せた作家だが、この魅力は作者の人柄に通じているものだと思うので今後の作品にも大きな期待を寄せています。

往来堂書店コミック担当 / ミキユウタ

■ 説明は難しい。読む人を選ばない作品なので、とりあえず読んでみてほしい。

リブロ池袋本店　コミック売場担当 / 小池由記

■ 学校の屋上でアニメのヒロインを描いているようなオタク少年は、気持ちが悪い奴だと女子はもとより男子のクラスメートたちからも蔑まれて遠ざけられ、水泳部で選手になるような美少女と友だちになったり、ましてや恋仲になるようなことはない。そんなオタク少年の兄が前は兄であったのに、姉となって戻ってきて家を勘当され、飛び出してひとり、商店街の古書店の２階に居候をするようにして探偵の仕事を始めていれば、さらに胡散臭さを持って見られるというのが、旧態依然とした観念としての世間体というものを踏み台にして浮かぶ、偏見にも似た一方的な理解だろう。　もっとも、趣味でも嗜好でも多様であることが認められ、尊ばれるようになっている現代において、趣味がオタクであっても、性別が途中で変わったとしても、父親が母親の再婚相手であっても、いなくなった本当の父親が新興宗教の教祖だったとしても、おかしいことはまったくないし、違和感をもって眺めることもない。いや、現代においてもそうした差異をとがめ立て、あげつらっては糾弾に向かいたがる勢力はいたりする。けれどもそうした差異は、歯の並び方が違っているとか、色の好みが分かれているといった程度の小さな差異として、抑えることが可能だし差異とすら感じないようにだって出来る。物語の力で。　そう物語。田島列島による『子供はわかってあげない』に描かれた物語の力は、ともすれば大げさな問題として描かれがちなそうした差異を、ほんわかとした絵による平穏で優しげな日常描写の連続に紛れ込ませて、たいしたことだと感じさせないようにしてくれる。オタクに新興宗教に探偵に超能力まで加わって、ハードボイルドでサスペンスフルな展開がさぞや繰り広げられるかと思いきや、現れる人たちは誰もが淡々としていて親切で、優しさがあって慈しみを持って生きている。オタクであってももじくんは虐げられず、サクタさんは母親が再婚した父親からしっかり愛され、明は居候している古書店の店主からも、暮らしている商店街の誰からも必要とされて生きている。差別もなければ区別もない、ごくごく普通の日常として過ごされ、過ぎていく中で描かれるのは、知り合ってからだんだんと近づいていく、もじくんとサクタさんとの２人の関係。まだ若い２人だから、目の前のごくごく親しい関係が大切なんだという見方もできるけれど、そんな２人の青春する姿から、誰にでも大切なことがあって、その生き方に疑問なんて差し挟めないという思いも浮かんでくる。　世の中にはまだまだ偏見はあって、新興宗教といえば胡乱なものとして捉えられ、性別が変わった人への興味本位な視線は薄まらず、両親がそろっていない家庭をとらえて特別なものとしたがる古色蒼然とした観念を抱く輩もまだいたりする。実際に怪しげな動きをする新興宗教もあるし、差別や貧困が招く悲惨な事件も後を絶たない。けれども、だからこそそれらを特別と思わず、上にも下にも置かないで日常として受け止め、日常の中に溶け込ませていくことによってこの、「子供はわかってあげない」のような平穏で、優しげで、楽しげな日々というものが生まれてくる。　学びたいしあやかりたいその物語世界、その登場人物たちのライフスタイル。この物語が広まることによってそんな世界が訪れて、そんな人たちでいっぱいになることを願いたい。心から。

書評家 / タニグチリウイチ

■ ハートフル！そしてもじくんがかっこいい！！これからもっともっとうまくなって、面白いものが読めることを期待します。

bar 図書室　店主 / 岡部愛（のん

■ シンプルなタッチで表現力豊かに少年少女のピュアハートを描いていてグッときました。細かい小ネタもナイスでした。

マンガ研究 / 会田洋

■ どことなく懐かしい雰囲気がある作品。ほのぼのしているようで、そうでない独得なセンスと、会話の掛け合いがとても面白い。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

■ 絶対にこんな素敵な青春は送っていないはずなのに、かつて経験したことがあったかのごとく、懐かしくて恥ずかしくてこそばゆい気持ちになります。絵柄の感じからゆるふわな雰囲気かと思いきや、意外にもぐいぐい読ませるストーリー展開で、上巻を読み終えたあとすぐに下巻を手に取ってしまいました。

大学図書館司書 / 堀江千秋

■　読み始めから読み終わるまでに印象が変わっていった作品。人のつながりについて改めて考えさせられた作品。

自営業 / 小野ゆうこ

■　もう。　なんか。　気持ちいい。青空の下で読んで時がゆっくり過ぎる感じ。最近、どきどきマンガが多いのでこのテンポのマンガは本当にゆったりとして気持ちいい。

株式会社アニメイト 販促部 / 鈴木寛子

マンガ大賞2015 ノミネート作品

週間少年マガジン / 講談社

「聲の形」大今良時

選考員コメント・1次選考

■ 小学生の頃、転校させてしまうほどいじめた女の子に償う為に動く男の子のお話。年内に完結となりましたが、内容的にはキツい話もあったのに連載が終わりもう読めなくなるのかと思うと、かなりサビしい気持になります。読後の余韻を感じさせるエピソードが多々有ります。

バンドマン / TA-SHI

■ 題材も描法も挑戦的で実験的でスリリング。

朝日新聞記者 / 小原篤

■ 耳の聞こえない女の子と、小学校時代にその子をいじめてた男の子のそれからの話。過去への後悔はきっと誰もが多かれ少なかれもっているもの。後悔のまんまじゃなくて時をもう一度動かしていくのは自分の小さな勇気ひとつだったりするんだなぁ。ピュアで一生懸命な心に打たれました。

フリーアナウンサー / 松尾翠

■ ちょうど１２月で全７巻が完結したこともあり、今期これを外すわけにいきません。ろうの少女への苛烈ないじめで始まる本作、最初は読み切りで読んだが、「なんと難しい題材を！」と感心した。その後連載が始まって、この話、長く続けられるの？といぶかっていたが、実は本作の真のテーマは「障害」とか「健常」とかではなく、人間同士の根源的なコミュニケーションの難しさという、普遍的なテーマだとわかって、さらに感心した。全体的に重くてつらい話だが、安易なハッピーエンドに流れず、あのラストを用意してくれた作者（女性なんですね。最近まで知らなかった）にお礼を言いたい。あと、特筆すべきは、手話をする「手」の描写の美しさ。絵も隅々まで気合が入っていて、見事な作品だと思います。

読売新聞東京本社　編集委員 / 石田汗太

■ テーマが重い。快活でもお気楽でもない。愉快でもない。楽しくない。居心地が悪い。でも、この漫画が週刊少年漫画で連載されたことには大きな意味があったと思う。『マルドゥック・スクランブル』の冲方丁がこの才能に触れて自作を書き直したというもなるほどなと。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

■ 少年時代に特有の、言葉が足りずに気持ちをすなおに表すことができない葛藤と、打算をいさぎよしとしないまっすぐな感情が、なんの嫌みもなく読み手に届く。重いテーマを扱っていながら、重苦しい空気感にはなっていない。むしろ、しっかり前を向いて人と向き合うことをきちんと肯定したいという意志を感じさせる。多くの読者に支持されたのがよくわかる。少年マガジンの良いところが結晶した作品のように思う。

日本経済新聞編集委員 / 天野賢一

■ 本当に良い作品て男女問わず、大人にも子どもにも読んで欲しい、と心から思える作品だと思う。これは間違いなく自信を持って人に薦められる作品です。

三省堂書店そごう千葉店 係長 / 内野智未

■ 7巻で終わってしまいましたが、とっても素敵な作品です。読みきりもとても面白かったのですが、ちゃんと7巻まで、耳の障害以外の人間関係（特にヒロインとヒロイン以外の女性登場人物）が面白く、途中からは障害は物語の少しのエッセンスでしかなくなったところが、逆に好感が持てました。

メガマソ / 涼平

■ いじめられた子といじめた子が分かり合える事はそう多くないかもしれませんが、言葉や互いの過去を乗り越えて、生きることを手伝いながら生きて行けたらどれだけ素敵なんだろうと思わされます。

教師 / 持丸宏司

■ 切なくて苦しくて甘酸っぱく心に響きます。

PENICILLIN / HAKUEI

■ 切ない。後悔っていうのはほんとに後からどうしようもないときにやってきて、そしてずっと人を縛り続けるんだということを思い知らされる。いじめっ子もいじめられっ子もそして自分の後悔をおもいだしてしまった

株式会社スタジオフーズ / 小林智之

■ 一度（正確には二度）完結させた読み切りからよくぞここまで。マンガの表現手法が何かとやり玉に上げられるいま、とても繊細な部分にまで踏み込んだ表現の機微がちくちくと胸に刺さります。変に引き延ばさずにエンディングにまで到達したのも好印象。

編集者 / 松浦達也

■ 初掲載時、非常にショックを受けた作品。「障害」をあたかも個性の如く描いた独特の世界展開には脱帽。

本と文具ツモリ / 津守晋祐

■ 短いようで７巻。一気に駆け抜けた傑作。

Tokyo Otaku Mode Inc. / モリサワタケシ

■ 昨年は「絶対１次は通るから…二次で入れればいいとして、私が入れなくても大丈夫だよね！」で、失敗した甘えを存分に反省し、よし、今年こそ、投票しよう！と狙っていた矢先「このマン２０１５」で先に大々的に１位を取ってしまい、映像化も決定してしまい、泣くに泣けず、かといって昨年の決意と作品の面白さから、引くに引けず、今回、清き（？）１票を捧げることにいたったわけであります。はい。以上です。こんな物凄いエネルギーを注入しなきゃ描けないようなストーリーを描き続けるということは、とてつもないプレッシャーだったと思います。最後までいいマンガを本当にありがとうございました！不器用な登場人物達のこれからを応援してます。

JACK 鷲津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤沙織

■ もしかしたら対象ではないかもしれませんが・・・。自分が今、自分の闇と戦っているか？を問われているような感じ。最後はちょっと急ぎすぎたかも、でも大切にしたい作品。

会社員 / 金子幸恵

選考員コメント・2次選考

■ 悩みましたが、やっぱり一番に推したい漫画はこれでした。読むのが辛いエピソードもありましたがもうちょっと長く読みたかった、登場人物達のこれからの姿をもっと読みたかったです。

バンドマン / ＴＡ－ＳＨＩ

■ 聾唖者と普通の少年との話、と聞いてぼんやりと「きっとこんなカンジなんだろうな」と抱いていたイメージを見事に覆してくれた。きれいごとでまとめず、いじめや悪意や憎しみや、本人達すらもてあます、なんともやりきれない濁った感情がそのまま描かれていたところに「おお」と思った。混沌を混沌のまま、でもそれぞれが自分の位置で悩み考えている。どれが正解でもないし、どれもが正解でもある。それこそがこの物語の肝だと思う。

主婦 / 安田奈緒美

■ 少年誌を舞台に聴覚障害者といじめという題材を正面から描き切りました。マンガとしての表現力も冴えわたって見事です。

マンガ研究 / 会田洋

■ 題材も描法も挑戦的で実験的でスリリング。

朝日新聞記者 / 小原篤

■ 心を揺さぶられる作品。大賞をとって一人でも多くの方に読んでもらいたい。７巻で完結しているので、大賞をとるなら今年しかない！

フリーアナウンサー / 松尾翠

■ 今回は、この作品を超える候補があるか？　というのが個人的に最大の関心でした。で、かなりいろいろ心が揺らいだわけですが、結論としては、やはり今年度はこれが一押しかなと。　理由については、１次推薦の時にあらかた書いてしまいましたが、この作品がすでに完結しており、期待値でなく、全体像として評価できることは大きいです。後半の展開は、ちょっとやりすぎ感がないではないが、ここで終わらせたことが、この作品を美しくしたと思う。　あと蛇足で付け加えるなら、脇の友だちキャラの歪みっぷりが類型的でないこと。美人なのに性格が悪すぎる植野、だんだん笑顔が不気味になっていく真柴、反省を知らずマイウェイの川井など、へたに改心したりいい人になったりしないのが素晴らしい。西宮さんのこわい母親も大好きです。（一度はたかれてみたい。）　大今さんの、次の作品を早く読みたいです。

読売新聞東京本社　編集委員 / 石田汗太

■ 幼い頃の過ちはなかなか難しい。過ちに気づけるのはいつだろうか。中学？高校？それとも成人してから？気づいても省みたり改めたりするのはさらに難しい。相手がいればなおさら。誰にでもある色々な形の歪と、それに向き合うことの辛さと楽しさを思い出させてもらえる。７巻というサイズとテンポもとてもいいあつらえ。月並みですが、お子さんにも是非どうぞ。

めがねっ娘教団 大司教・教務部長 / 田中海渡

■ 失敗や過ちを経験しながら、それを乗り越えたときに大きな成長が待っている。つまずいたとしてもやり直すチャンスは誰の前にも平等にある。何度も何度も壁にぶつかって、それでもあきらめないで前を向き続けることの大切さを教えてもらいました。登場人物のひとりひとりに、自分の中にある醜いものと尊いものが投影されていたような気がする。多くの人々に読んで欲しい。心からそう思える、長く大切にしたい作品です。

三省堂書店そごう千葉店 係長 / 内野智未

■ 完結まで一気に読みました。いじめがどうのとか手話がどうのとかじゃなく、人間ドラマとしてとても面白かった。アニメ化・・・いや実写化するなら絶対見たい。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田淳

■ 登場人物たちの、声にならない、気持ちを考えて読みたくなるマンガでした。

明文堂書店金沢野々市店 1F フロアプランナー / 木村俊介

■ キャラクターの描き方が丁寧で、背景まで見えてくる。絵は優しいが、セリフや表情がとてもリアルで、全員がきちんと成長していく訳ではない、というのも妙にリアル。

サウンドデザイナー / Juvenile

■ 数年前の読み切り作発表で出会い、いままた読み終えてなお様々な視座を与えてくれているマンガだった。作者の中で醸成された問いかけもさることながら、その深みに負けず実際の作品として表現をしたということに敬意を払いたい。自分が変化すること、他人が変化することを受け入れる寛容さを忘れずにいたい。

往来堂書店コミック担当 / ミキユウタ

■ これだけ重くなりがちなテーマを扱っていながら、綺麗ごとやご都合主義で締めくくらなかったことに、大今先生のドラマメイクに対する並々ならぬ執念が感じられました。「めでたしめでたし」のように見えもしますが、きっとこのあとも石田や西宮、その周りの人たちはそれなりにしんどい人生を送っていくと思うし、そう思えるだけのキャラクターたちの厚みを全７巻という、決して長くないスパンで描ききったことに驚嘆します。

株式会社アニメイト / 岡ノ部亭 真泰

■ これをきっかけに読みました。思っていたよりも胸クソな描写はすぐに終わり、主人公に好感がもてました。若い子が最近漫画を読まなくなっているとよく聞くので、普段あまり漫画を読まない若い子にも読んで欲しいと思いました。

bar 図書室　店主 / 岡部愛（のん

■ いじめって、いじめる方にもいじめられる方にも、深い傷跡を残す行為。一方で、もしかしていじめって必要悪？こういうことがあってみんな成長してきたのでは、とも考えさせられるマンガです。ただ、いじめる方側が、本当にマンガのように考えてくれているといいのですが・・。

会社員 / 金子幸恵

■ 耳が聞こえず上手く話せない女の子と、過去に相手をいじめていた男の子。二人が、自分とも、相手とも、正しく向き合って、共に清々しく生きていく姿に救われました。

教師 / 持丸宏司

■ というか、やっと読了。いじめの経験がある私は、正直、問題作と言われているこの作品が読めるのか、物凄い不安でした。途中、過呼吸になるんじゃないかと思うほどきつかったけど（笑）←もう大人なのに…物語は終焉に向かうにつれてうまく昇華されていきます。でも、一緒に笑って良かったねと思えて良かった。ちゃあんと私も一緒に良かったと思えて良かった。マンガ大賞がなかったら、きっと読んでいなかった作品だと思います。ありがとうございました。

主婦 / 柴 架衣

■ テーマが重い。快活でもお気楽でも愉快でもなく、居心地が悪い。違和感。ちがう、そうじゃない。だが、だからこそ。にんげんが、とおりいっぺんとうであってたまるか、ざまあみろ。という一筋縄ではいかないことの気味の良さ。複雑さがもたらす妙味、は、絶対にあったと思う。なにより、この漫画が週刊少年漫画で連載されたことには大きな意味があったと信じたい。『マルドゥック・スクランブル』の冲方丁がこの才能に触れて自作を書き直したというのにも頷いた。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

■ つらい思い出を思い起こしつつも、なるほどこんな選択肢や未来もあったのかと気づかせてくれる作品。どんな過去も美しく、現在はもっと、そして未来はさらにそうなのだ、と。そんな風に思わせてくれるような、稀有な作品だと思います。

シンガーソングライター / 谷澤智文 (SPACE LIKE CARNIVAL)

■ 一次と二次と投票させていただきます。素晴らしい物語をありがとうございました。

JACK 鷲津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤沙織

■ 障害といじめという重いテーマに、真摯に誠実に取り組む姿勢にうたれました。意図的に説明を端折る描写にも、読者を信じている作者の気持ちが伝わります。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

■ 「いじめ」は自分には関係ないって思ってしまいがちですが自分では気づかないだけで人を傷つけているかもしれない。困っている人を見過ごしている事もある。コミュニケーションが苦手だったり卑怯で弱い自分にうんざりする事もある。辛いけど逃げずに前向きに進む事が大切なんだとこの作品を読んで感じました。

有隣堂店売事業部仕入販促グループ係長 / 徳永あけみ

■ １巻が衝撃的過ぎて、がつがつ読んでしまいます。　先日、完結してしまいましたが、いつも完結だと　もっと読みたい。まだまだ、続けて欲しい！と切に願うのですが　この作品はこの７巻完結がすごくいい。　主人公を取り巻くまわりの人たちも最初は「？？？」だったけど　いろいろと納得していき完結には、みんな各々好きになってしまう。週刊誌でやっていたのに本当に伏線の回収がきれいで感動しました。

株式会社アニメイト 販促部 / 鈴木寛子

■ 切ない。ただただ切ない。苦しい。痛い。

PENICILLIN / HAKUEI

■ かつてイジメをした者、された者達が再度信頼しあい、関係を築く姿に感動する。言葉を伝えるのは言葉だけではないと痛感。彼らの幸せな未来を願ってしまう。

うすいまりこ鍼灸治療院 / 碓氷麻里子

■ とりかえしのつかないことも、とりかえせる。ものすごい苦悩と努力が必要だが、それでも「可能性はある」とうことに励まされる。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口靖彦

■ 変に大人びた子どもが出てくるマンガばかり読んでいたせいか、この作品に登場する子どもたちの等身大な描かれ方は、新鮮でした。小学６年生で聴覚障害を持つ西宮硝子（しょうこ）への、無邪気で残酷ないじめ、それを持てあましている大人たち。そんな描かれ方はショッキングですが、高校生となった主人公たちが悩み苦しみながら少しでも前へ進もうとする姿は、真に迫るものがありました。きれい事を描いただけでは伝わらない、しかし救いがなさすぎるのもどうなのか。一読者として勝手に葛藤していました。しかし、その葛藤こそが大事なのだと気付きます。そうやって社会は成り立っているのですから。

衆議院議員政策秘書 / 三葛敦志

■ 心が痛くなるシーンもあるけど、これは読むべき。

シンガー / 山野井千佳

■ 人気のうちに連載終了。そして劇場版アニメにもなる話題作。それでもこの作品は外せない。作品に描かれた " 差別 " は誰の心にも、身の回りにもさまざまな形であるはずだ。なのに、そこに意識を向ける人は決して多くない。無知という暴力は加減ができず、無知こそが人を傷つける。子どもにこそ読んでほしい。ちなみに他の作品にも触れておくと、展開がノッている『ボールルームへようこそ』、異彩を放った『ドミトリーともきんす』にも迷わされた。『かくかくしかじか』に涙し、『BLUE GIANT』『僕のヒーローアカデミア』の今後には期待が膨らむばかり。14 作品とノミネート作の多かった今年は例年以上に新しく楽しめる作品に会うことができた。最後に『イノサン』。時節柄、誰にでもおすすめできるモチーフではなかったが、こうした作品を心置きなく友人にすすめられる世界がかえってくることを切に願う。

編集者 / 松浦達也

マンガ大賞2015 ノミネート作品

ヤングエース /KADOKAWA

「僕だけがいない街」三部けい

選考員コメント・1次選考

■ 年末に 5 巻が発売した僕だけがいない街。昨年も推薦させていただきましたが、今回も一押しです。最新刊ではついに犯人らしき人物の描写がありましたが、そろそろ完結するのかな。「誰が犯人なのか」というのももちろん読み続けた理由ですが、それよりも「物語をどう決着つけるのか」が非常に気になります。

派遣社員 / 栗田さやか

■ 先が全く読めないミステリー。ページをめくる手にじんわりと汗をかくこのドキドキ感を、もっと多くの人に味わっていただきたい！ 2 位だった昨年から、更にこの物語は加速度を増しています。読むなら今！だから、今年こそ、マンガ大賞をとってほしい！

会社員 / 佐藤誠

■ これは面白い・・！！リバイバルにより小学生に戻り、事件の謎を解いていく主人公と一緒になってあらゆる可能性を考えながら読んで楽しめる。 5 巻の最後のページ。真犯人はもしかして。。と思っていたのに、めくった瞬間に思わず声がでた。こわいーーーー！面白いーーー！

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

■ 昨年の選考でも票を投じました。今年も性懲りもなく票を入れさせて頂きます。去年「練りこまれた設定や展開に加えて、ページごと訴えかけてくるような強烈な臨場感と疾走感。小ネタに走らず、ごまかしもあざとさもない。」と書いたところから、最新刊で物語は一歩前へ。さてあれは本線か伏線か、それとも捨て線か。近年のマンガが失った " 何か " を取り戻してくれる一作かも！

編集者 / 松浦達也

■ 昨年に続いて推薦させていただきます。物語が核心に迫っていく雰囲気を感じる度にゾクゾク、ワクワクすると同時に「もし終わっちゃったらどうしよう、悲しいな」と思ってしまうぐらい楽しみに読んでいます。去年も言いましたが、今イチバン続きが気になるマンガです！！

ミュージシャン／他 / 杉本善徳

■ 特殊な能力を持った主人公がある日事件に巻き込まれる（事件は主人公のトラウマを呼び起こし、それに立ち向かうため、主人公は能力をつかって犯人を追跡する）。巻をおうごとにスリリングさが増し、次の展開を見ずにはいられない。毎巻ごとのラストが『！？』となり、興奮してしまう作品。テーマのベースに「犯罪」があるため、暗い一面もあるが、ネガティブだった主人公が立ち向かう様に勇気をもらえる。

うすいまりこ鍼灸治療院 / 碓氷麻里子

■ タイムリープっぷりがすごくリアル。ストーリーもキャラクターも素晴らしい。

PENICILLIN / HAKUEI

■ 2 年連続ですが、まだまだ面白い。これからも楽しみたい。期待度も込めてさらなる発展をみてみたい。

株式会社スタジオフーズ / 小林智之

■ 読感はミステリ小説に似ているかも。ミステリ好きにはたまらない一冊。続きが気になる！感は大。

リブロ池袋本店　コミック売場担当 / 小池由記

■ こんなに上質なサスペンスがあったであろうか！？アニメでなくドラマでもなく映画でもない。マンガであるからこそストーリーに人々を惹きつけ、想像を駆り立てる力がある事を分からせてくれた「僕くだけがいない街」

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部　大介

■ とにもかくにも先が気になる漫画！ ここ 2 年間で最も先が気になり続けている漫画だと言い切れます。無駄な描写もなく、それでいて終わりも見えないのが嫌味なく、むしろたまらなく楽しい漫画です。 読んでいる方は、まるでアドベンチャーゲームの世界に引き込まれたかのような感覚にされる漫画です。没入感 NO,1 ！

デザイナー / 佐藤 ユウ

選考員コメント・2次選考

■ 描写がリアルで人物が魅力的でグイグイ引き込まれる。

PENICILLIN / HAKUEI

■ 予測出来ない緻密に練られたストーリー展開が魅力なのと同時に、作者の作品に対する熱が感じられる。読者より作品の方が圧倒的に上にいる感じが、懐かしくも感じられる。エンターテインメント性とアーティスト性が両立している作品。

サウンドデザイナー / Juvenile

■ こんなに上質なサスペンスがあったであろうか！？アニメでなくドラマでもなく映画でもない。マンガであるからこそストーリーに人々を惹きつけ、想像を駆り立てる力がある事を分からせてくれた「僕くだけがいない街」

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部大介

■ 過去と現在を行き来する極上のサスペンス。読む旬はまさに今！今を逃すと後悔します（笑）

会社員 / 金子幸恵

■ これは面白い・・！！リバイバルにより小学生に戻り、事件の謎を解いていく主人公と一緒になってあらゆる可能性を考えながら読んで楽しめる。５巻の最後のページ。真犯人はもしかして。。と思っていたのに、めくった瞬間に思わず声がでた。こわいーーーー！面白いーーー！早く続きをーー！

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

■ この２年以前の生活をはるかに形態変化させ、特定の場所での仕事が少なくなり移動が異常に多くなった自分。バックパックに全てを詰めて休日のない自分としては、紙の媒体としてのマンガを極端に買わなくなりました。その中で、『僕だけがいない街』だけは見事に全館揃えている。謎ものなので読み返すときは１冊目からたびたび読んでしまうのですが、数少ない現物で買ってるマンガのためほんとに時折しか手に取りません。でもそれが逆にイイ！！時々だから尚いいです。ぜひ、完結した折には、時間を気にせず、自分に引きこもってゆっくりじっくり読みたい。そんな気持ちでまず投票しました。

株式会社スタジオフーズ / 小林智之

■「タイムスリップで人生をやり直す」というテーマをモチーフにした作品はドラマや文芸作品にも少なくない。だが、直面する現実の「重さ」、もがく思考の「深さ」、そして壁を乗り越えた時の「爽快感」において『僕だけがいない街』は何にも似ていない。使命感に燃える少年の心の機微は、いい年をした自分のなかにある " 少年 " をも高揚させる。１巻からていねいに張られている伏線は最新刊で大きく展開した。この展開はさらなる伏線へとつながるのか、それとも回収への道筋か。まさにいまが読み頃！　最新刊を読み終えるたび、次巻が待ち遠しくなる大傑作。

編集者 / 松浦達也

■ 圧倒的に面白いと言いますか……毎度同じコメントで申し訳ないのですが、続きが気になります（笑）続きを知りたいのに、続きを知ると終わりに近付いてしまうのか？……と思って悲しくなってしまうぐらいです。何回も最初から読み返してしまう作品だと思います。

ミュージシャン／他 / 杉本善徳

■ 昨年も投票して２位だったのにもかかわらず、またノミネートされていたら、やはり１位に選ばざるを得ない。というのも最新刊が、より面白い展開となっていたから・・・この作品のすごいところは、昨年からいろいろな人に貸し出して、そのほとんどがハマってしまったこと。私といつもなら趣味の合わない人までもとりこにしてしまう魅力。ストーリー展開の意外性や伏線、普段あまりマンガを読まないけどミステリ好き、という方にも楽しんでもらえるような気がする。

アニマックス広報 / 西尾美里

■ ここまで「目が離せない」感じもひさしぶり。引き込まれる。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口靖彦

■ まさに読むなら今！どんどん続きが気になり、ページをめくる手が早くなっていくミステリー

会社員 / 佐藤誠

■ マンガ大賞 2014 へのノミネートをきっかけに読み始めた作品でしたが、その後も新刊が出るたびにハラハラドキドキしっぱなしです。最新５巻を読んだ後は次巻を待ちきれずに掲載誌に手を伸ばしてしまったほどでした。犯人はやっぱりあの人！？と予想しながら読むも良し、流れに身を任せ、物語が新たな局面を迎える度に驚きながら読むも良し！とにかく、まとめ読み推奨です！

伊吉書院　類家店 / 中村深雪

■ 読み手の好き嫌いが分かれる絵柄のように思うし、クラスメイトの造形が小学生にしてはちょっと「できすぎ」なんじゃないの、と感じたりすることもある。なんだけど、いったんページを繰り始めればそんなことは細かいことだ、と、それよりもっと物語をくれ、と焦燥に駆られる圧倒的な吸引力がある。５巻の帯にある「スルーしていたのが恥ずかしい」という法月綸太郎氏のコメントに深く同意いたします。展開の骨格をなすミステリー、ＳＦの要素だけでなく、まるで映画「スタンド・バイ・ミー」で描かれる少年たちの交情のようなぐっとつかまれる場面や、母への思慕、大人になること、世の中を知って利害の対立する相手と折り合うことなど「成長する」ことへの関心と言外に滲む作者の考え方……小説的というか文学的な要素も含め、多彩な顔を見せられて１ページだって飽きさせない。スピーディーにも、１コマ１コマ味わうようにも読めると思うけれど、できれば導入からエンディングまで、初見で時間を忘れて全巻一気読みをしたかった。今でも十分に高評価なんだろうけれど、完結してからあらためてその真価が注目され、多方面に展開することになるのでは。

日本経済新聞編集委員 / 天野賢一

■「私の仕事は、物語を書くことではない、次のページをめくらせることだ」と、ある有名な小説家は言ったそうです。フィクション、ミステリーの価値は、第一に極上の時間つぶしにある、のでしょう。しかし、貧乏症な私は、時間つぶしだけじゃなく、なにか、思いもよらなかった価値に、気が付きたいのです。殺人事件とタイムスリップというとてつもなく先が気になるミステリーの王道に惹かれているうちに、いつの間にか、善行と悪行、本来明確に分かれそうなものが、まったくあやうく、変わらなく行われてしまうかもしれないのだ、という恐ろしく口を開けている日常の罠に、気が付かされるところまでたどりついています。そして、最後、待ち受けている結末が、手触りは伝わってくるのに、明確な像はまだ見せられないまま、気にされるこの状況。リアルタイムで続いているマンガを読む快感、ここにあり。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

■ 毎回読ませる展開。中毒のように続きが気になります。早く読みたいと思わせる展開が実に巧い。文句なし。多くの人を唸らせること間違いない。

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西良昌

■ サスペンス的な盛り上げ方がこんなに腹立たしいとは。続き、続きは !?

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

■ 巻数が続くほどに深まる謎。終着点は果たしてあるのだろうか？そして犯人はいったい誰なんだ！？気になる！とても気になる！昨年もノミネートし第２位を獲得、その実力は十分！今年こそは…

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋修一

■ 上質のミステリをマンガという媒体で上手に表現するとこうなる！という一作だと思います。

明文堂書店金沢野々市店 1F フロアプランナー / 木村俊介

■ まるでミステリ小説を読んでいるようなハラハラドキドキ感。次の展開がまったく読めなくて、早く先が知りたくて待ちきれない。一気読み必須の面白さ。

主婦 / 安田奈緒美

■ 面白いテーマで最新刊が出るまでの間が歯がゆかったのですが、やっぱりこいつが犯人か !? と一番怪しいと思っていた人に確信が来ていて、さらに次巻が楽しみでならないのです！

女優・ナレーター・講師 / 結城しおり

■ 不思議とサスペンス物は好んで読まない自分なのに、気がつけばストーリーにすっかり引きこまれている自分に超ビックリ !!!!!! すでに多くの評価として語られているとおり、実に練りに練られたマンガなんだと素直に思います。だってサスペンス物食わず嫌いの自分でも、しっかりと味わえちゃうぐらいだからねー

凸版印刷株式会社 / 紺野慎一

■ とにもかくにも先が気になる漫画！ここ 2 年間で最も先が気になり続けている漫画だと言い切れます。無駄な描写もなく、それでいて終わりも見えないのが嫌味なく、むしろたまらなく楽しい漫画です。読んでいる方は、まるでアドベンチャーゲームの世界に引き込まれたかのような感覚にされる漫画です。没入感 NO,1 ！

デザイナー / 佐藤優

■ トリッキーな設定、フックの多いストーリー、あざといまでのヒキの強さ、しかしテーマは前向きで骨太。

朝日新聞記者 / 小原篤

■ 結末を待たなくても今間違いなく面白いんだから推してみる。

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 営業管理部 / 大山敏樹

■ 巻数がすすんで、新展開になってもなお、まだ全貌が見えないこの感じ。続きが気になる度でいえばダントツな王道サスペンス！！どうすんだろうなこの先…

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

■ すごくよく出来たタイムトラベルミステリー。読み終えた後、深夜にトイレに行くのが本当に怖かった。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

■ 主人公が過去へ戻れる能力を持つ本格タイムリープもの。結構細かい設定をしっかりと打って行かないと矛盾が生じてしまう難しい題材に挑戦し、見事に成功していると思います。一巻が完全な導入巻となっており、二巻からの映画を見ているかのようなドキドキ感が凄いです！毎巻色々な過去へ飛ぶ度解けて行く謎、点が線に繋がって行く…。読み止まらない作品です！

バイイングマネージャー / 日吉 雄

■ そもそも個人的にループ物、タイムリープ物は大好物であります。8 回くらいくりかえしてもいいよ！幾つかの殺人事件が折り重なっていくし、時間も過去に飛んでまた戻って…と複雑そうですが、物語の構成がしっかりしてるので混乱しません。楽しい！！

メガマソ / 涼平

「BLUE GIANT」石塚真一

選考員コメント・1次選考

■ 中学生から大人までぐっと熱くなれる漫画だと思います。仙台弁もグッド！

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

■ やはり力のある作家さんだと思います。青さと若さと落ち着きが共存。さすが。

ライター / 芝田隆広

■ 音楽漫画で表現が非常に難しい。大成する作品が少ない中、この作品は作中の人間関係をうまく織り交ぜながらその世界を描き出せている。素晴らしい！

本と文具ツモリ / 津守晋祐

■ 僕は JAZZ が好きであるそんな JAZZ 好きな僕の目に飛び込んできた「BLUE GIANT」と言うタイトルはある意味挑戦的なタイトルでなはいかと言う印象であった。そんな思いの中読んでみいたが、純粋に音楽が好きで JAZZ が好きで出来上がった「BLUE GIANT」である事が伝わってきた。純粋に音楽好きが、好きな思いを描いたからこそ「BLUE GIANT」が描かれたのであろう。

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部大介

■ 真っ直ぐで底抜けに明るい主人公が直向きに頑張る姿に心打たれます。歳を取るにつれて、小賢しくなり、そのような努力がなかなかできなくなってしまうことも多いと思うのですが、真っ直ぐ真面目に頑張るってことはやはりとても素晴らしい。とことんまで頑張って続ければ、何者かには必ずなれる。このマンガは読むたびにそう思わせてくれます。

システムエンジニア / 廣瀬公将

■ 電車の中で読んでいたら、２回電車を乗り過ごしました。それくらいに夢中！天才ってことの説得力がスゴイと思います。

bar 図書室　店主 / 岡部愛（のん

選考員コメント・2次選考

■ 自分的には断トツでこれです。

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

■ ミュージシャンのマネージャーをやっていますが、彼らの努力を間近で見ていると、表現者としての才能はもちろん、努力の才能も必要なことに気付かされます。芸術家ってきっと皆そうなんですよね。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

■ 一つのことに没頭する姿にいつの間にか自分もサックスをはじめたような感覚に。

カメラマン / 平沼久奈

■ 数多くある楽器演奏モノの中でもダントツに面白かった。昔、自分自身が扱っていた楽器とカブったってのが大きいのだが、なんだろう、この楽器が奏でる音楽そのものに対する熱が伝わってくる感じ。非常に好きだ。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田淳

■ ジャズというなじみのないジャンルでしたが、非常に面白かったです。音をどのように表現するのかが難しかったと思いますが、ジャズが聞きたい！と思わせてくれるほどうまく表現されていてハマりました。幅広い年齢層にオススメできる面白い漫画でした！

株式会社スマイルアクス　営業大臣 / 岡村光徳

■ 熱があるマンガはやっぱりいい！主人公の「いい人」感が、わざとらしくないのがいい。「持つ者」が「持たざる者」を置きざりにして（闘って勝つとかではなくて、闘う前から圧倒的に決まっていること）どんどん階段を駆け上がっていくのは、残酷で、でもぞくぞくするほど気持ちがいい。

漫画ライター / 門倉紫麻

■ 僕は JAZZ が好きであるそんな JAZZ 好きな僕の目に飛び込んできた「BLUE GIANT」と言うタイトルはある意味挑戦的なタイトルでなはいかと言う印象であった。そんな思いの中読んでみいたが、純粋に音楽が好きで JAZZ が好きで出来上がった「BLUE GIANT」である事が伝わってきた。純粋に音楽好きが、好きな思いを描いたからこそ「BLUE GIANT」が描かれたのであろう。

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部大介

■ これを読んで、その後 TSUTAYA でジャズの CD を借りました。読者の 1 行動を変えてしまう、しかも小学生じゃなくて妙齢の女性の 1 行動を変えてしまうマンガという時点で、やっぱり尋常じゃない。何がすごいかというと、もちろん絵なので、音は聞こえないわけで、文字と絵を見て、その音の熱量を想像しなければならないのですが、ぐっと胸に迫るものがあります。ただまっすぐな主人公が、自分のしたかったけどできなかった生き方をしている気がして、力と勇気を与えられます。また、新しい音楽への興味の扉を開いてくれるという点でも、とても影響力のある作品だと思いました。

アニマックス広報 / 西尾美里

■ これからの展開に期待しています！

有隣堂店売事業部仕入販促グループ係長 / 徳永あけみ

■ ジャズという世界はあまり詳しくないが、この作品を読むと熱い音楽の世界だなという情熱を感じます。トランペットを河原で吹くという今はまったく見なくなった姿ですが、その姿にはかっこよく見える何かを感じます。作中でてくる登場人物が、主人公の事を語るシーンが度々でてきますが、これがどのようなつながりを持つのか楽しみです。

デザイナー / 平沼寛史

■ 音の表現がすばらしい！題材である音楽と、マンガに真摯な姿勢で向き合っているのが分かる傑作！

会社員 / 佐藤誠

■ 紙面から音が聴こえてくる、そんな気にさせる描き方はさすがの貫禄。「大人のオシャレな音楽」ジャズの心地よさ、味わい深さが感じられます。何より、主人公宮本大に関わる大人達がとてもいいです。主人公をそれぞれの距離感から育てていく感じで、ひとりひとり生き生きしてて、安心して読めます。毎巻末の、おそらくは主人公がビッグネームになってから録った風のインタビューページは必見。彼らの思い出の中にあるエピソードにグッときます。とにかく作品自体が心地いいです。

衆議院議員政策秘書 / 三葛敦志

■ この主人公ならどんな壁（理論とかスケールとかアドリブとかスウィングとか）も飛び越えて（壊して？）いきそう。トランペット好きなので、ラッパ吹きも出してください。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

■ やはりうまいです。堂々とした面白さ。アツいんだけど落ち着いて読むこともできるしっかりした作品。

ライター / 芝田隆広

■ こういうマンガが読みたかった！と叫びたくなるような、とてもとても熱い作品です。紙の上から熱気や音がビンビン伝わってくるようですし、ジャズを聴くということに興味が湧いてきてしまいました。

Books アイ茗荷谷店 / 野口　忠義

■ 『岳』の時も思いましたが主人公から元気をもらえるマンガはいいな -、と改めて思いました。主人公がやりたい事に対して真摯に向き合うその姿勢と姿はもっとオレもがんばろ！って思っちゃいますもんね。なにより、めんどくさがりな僕がジャズに興味をもって YOUTUBE で検索させたその熱量はすごい！またコミック巻末のボーナストラックがこのマンガの良さをさらに引き出していてそこもすばらしい！ナイスアイデア！

恵文社バンビオ店　店長 / 宮川元良

■ 天才であっても努力が葛藤の末に自分の目指すものに近づけるストーリーに感動する。主人公のこれからが楽しみな作品。

自営業 / 小野ゆうこ

■ ジャズの音に込められた情熱や熱さを文字で表現するのはものすごく難しいであろうに、気付いたらその文字と画で涙を流していました。エネルギーがあふれてくる作品です。この漫画の持つパワー・躍動感がたまらない！感動！！！１位にするかとても悩みましたが、これからがさらに楽しみだし来年もかなりの確率で大賞に期待させていただきます！！

フリーアナウンサー / 松尾翠

■「紙から音は出ない」って、１巻の巻末のおまけ漫画で描かれているんですけど、そんなことはない、私にはサックスの音がこれでもかとばかりにきこえてきましたよ。全くジャズにくわしくもなんともないんですけど、石塚先生の作品にでてくる人たちの、桁違いなレベルの「魂の熱さ」にあてられてしまって、なんだか自分も楽器が弾きたくなるような、なにかがんばらなくっちゃいけないような、そんな気持ちにさせられる作品なんですよねー。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

■ 一人のジャズプレイヤー、ヒーローの物語。毎回読み終わった後にアツくさせられます。そして周囲の人間が優しさがまた嬉しいです。変な話ですが、成功していると思われている描写のおかげで、ドキドキ感がいい意味でないです。一方でどう成功していくんだろう、というドキドキ感がいい意味であります。普段の生活でストレスにさらされているいま、矛盾した言い方ですが、こうして成功者の、ヒーローの物語はある意味平穏に、安心して、その波乱万丈なドラマにのめりこめることが出来るので、娯楽作品として素直に楽しんでいます。

COMIC　ZIN　商業誌部門責任者 / 塚本浩司

■ 面白くないはずがない設定のマンガがあるとしたら、これなどが真っ先に該当するだろう。東北の仙台に暮らす男子高校生が、ジャズで世界一のプレーヤーになるという設定。どうやって、どんな演奏で世界一になるのか。そもそも世界一のジャズプレーヤーとはどんな存在なのか。展開への興味、完結への期待が浮かんで仕方がない。　実際、そんな設定を持った石塚真一の『ＢＬＵＥ　ＧＩＡＮＴ』は無茶苦茶に面白かった。読めば、少年が成長していく過程を描いたドラマに引きずり込まれ、熱量を持って描かれるジャズのプレー場面に、音楽なんて聞こえて来ないにも関わらず、何か奏でられその渦中に放り込まれたような感覚にさせられる。流石は『岳　－みんなの山－』第１回のマンガ大賞を受賞したマンガ家だけのことはある。　部活動ではバスケットボールをやってそれなりに活躍しながら、プロになれる訳でも大学にスポーツ推薦にいける訳でもない宮本大が、卒業を前に選んだのはテナーサックスを吹いてジャズのプレーヤーとして世界一になることだった。唐突でもなければ意外でもない。大は中学生のころに友人に連れて行かれた先で耳にしたジャズの生演奏に打ちのめされ、その音楽がいったいどんなジャンルなのかも分からないまま、ジャズだと言われてＣＤを聞き、自分でもジャズをやりたいと考えて、兄に頼んで結構高額なテナーサックスを買ってもらっていた。　それを、バスケットボールに勤しんだ高校の３年間、平行するように持って歩いては、毎日毎日河川敷の鉄橋の下なり、人気の少ない土手へと行って、気の向くままに吹き鳴らしていた。理論なんて知らないし、楽譜も読めないし、吹き方なども超我流。それでも練習量だけは半端なかったようで、ＣＤで聞いて耳から入ってきた音楽を、自分なりにどう再現するかを一所懸命にやってやっていた。音程をなぞるだけでなく、聞こえてくる音楽から漂うパッションまでも引き写そうとしていった果て、拙いながらも大は、優れたプレーヤーの音楽を、全身から放てるようにはなっていた。　そこに運動選手としての肺活量も乗って、とてつもなく大きな音を奏でられるようになっていた大が、そのパワフルで思いの乗った演奏を大勢の大人たちに認められ、導かれていくというのが今のところのストーリー。読んで浮かぶのは、音なんてまるで聞こえて来ないマンガという表現であるにも関わらず、ページから音があふれ出し弾け出してくるということだ。　絵の表現力とストーリーの展開力で二次元というメディアのハンディを吹き飛ばし、むしろ二次元だからこそ必要とされる想像力を喚起させて、鳴り響く大音のジャズサウンドへと読む人を引きずり込む。いずれとてつもない名いプレーヤーになっていく大だけれど、そこへと辿り着くまでにあとどれくらいのページを重ねるのだろう。その間にどれだけの“名演奏”を読ませてくれるのだろう。楽しみで仕方がない。　ジャズに関する知識も吸収できそる点も嬉しいし、ひとつのことに打ち込んで、徹底的に追及していくことで突破していく姿に触れられるのも楽しみどころ。何をやっても自分はだめだと思いがちな昨今だけれど、大だって最初は音楽の知識があった訳ではない。３年間のひたすらな練習があって、そして強い肉体があって、誰よりも深いジャズへの思いがあった。それが腕前を上げさせ、理論を学ぶ機会を与えて一流からさらに上へと続く道を駆け上がらせた。　思いだけなら誰だって抱ける。それを持続させさえすれば、何かしら道は開ける。そう信じたくなるストーリーが、『岳』にも増した感動と驚きを、読む人たちに与えてくれるだろうことは確実。だから読むしかない、“ＢＬＵＥ　ＧＩＡＮＴ”が誕生する、その瞬間まで。

書評家 / タニグチリウイチ

■ 前戯もなく突然に始まり、荒ぶる音の奔流に飲み込まれ流される快感というか。ポピュラー音楽を扱ったマンガは主人公が音楽を始めるまでのところにもう少し時間（ページ）を割くケースが多いように思うのだけれど、この作品はもう、主人公の性格描写とか人生を決める音との邂逅とかうまくなる過程とか、そういう物語の説明的な要素はぜんぶすっ飛ばして、気がつけば延々ライブというか、もう無限のアドリブパートが展開し続けているという怒濤ぶりが素晴らしい。これがジャズ的エクスタシーというものなのでしょうか。主人公の迷わなさ加減といったら、ストーリーマンガの常道（？）をあえて踏み外してしまえという作者の強い意志を感じたりもする。ロックとは違う、屈折を突き抜けたところにある屈折のなさ、フィジカルな音楽愛を描く、勢いのいい音楽まんが。それでいて、音楽の黒木おばちゃん先生との学園祭の共演（３巻）をはじめ、周囲の大人たちとの音楽を通じた交流のエピソードを積み重ねることで、若い主人公の才能を浮き彫りにさせるという、これは熟練のストーリーテリングの技にいちいちぐいと引き込まれるんだ、これが。

日本経済新聞編集委員 / 天野賢一

■ 圧倒的にリアル。主人公が現実に存在しない人物だなんて思えない！

公務員 / 東くるみ

マンガ大賞2015 ノミネート作品

月刊少年マガジン / 講談社

「ボールルームへようこそ」竹内友

選考員コメント・1次選考

■ 競技ダンスを題材にした漫画。競技ダンスに無知でも元々興味がない人でも興味を持たせてしまう面白さ (私はこの漫画を読んで実際にプロの方のダンスを観てきました (笑)。ダンスシーンの躍動感のある描写と迫力、ダンサーの表情、読んでいて胸が熱くなる。ゾクゾクする。自分を奮い立たせたい時に読みたい漫画。

シンガー / 山野井千佳

■ すでに７巻なので最後のチャンスかと思い一票。絵柄、演出、キャラクター、セリフ、何もかもが高水準。スポーツとしての競技ダンスを究めれば究めるほど「カップルの一体感とは何？」というテーマに行き着く。恋愛要素がほとんどないのに、ダンスシーンが身もだえするほどエロい（よい意味で）のが大好き。誰も描いたことがない世界を描く作者の手腕は、高く評価されるべきです。

読売新聞東京本社　編集委員 / 石田汗太

■ 一気にまとめて読むことに醍醐味を感じられる作品。単行本がまとまってきたので一気読みをすすめたい。

自営業 / 小野ゆうこ

■ まさに少年誌の王道を行く、『はじめの一歩』的成長物語マンガ。モチーフは少年誌からは少し縁遠い社交ダンスだが、主人公が決して「器用ではない」ものの、ある種の「才能を持ち」、「前に進む」主人公はいつの時代も心を通わすことのできることを教えてくれる。これまでのところ、ゆるやかなテンポで進んでおりますが、たまに物語のテンポをグッと上げていただけると一読者としてうれしゅうございます。

編集者 / 松浦達也

■ 競技ダンスもの胸アツマンガ！ダンスシーンの臨場感は半端ないです！ダンスを始めたばかりの素人だけど、キラリと光るものがる、、、的な、ザ・王道ストーリーでありつつ読ませる！とにかく画面の構成がすばらしい。流れるように読めて、本当にダンスの躍動感が伝わってきます。

三省堂書店そごう千葉店 係長 / 内野智未

■ 肉体／心理描写が圧倒的。

ライター / 縣丈弘

選考員コメント・2次選考

■ 読むと元気がみなぎってくる。競技ダンスの魅力を二次元の中でもよく表現できている。主人公のみならず、ライバルや脇役へも愛着が湧いてきて、今後の展開も楽しみである。

うすいまりこ鍼灸治療院 / 碓氷麻里子

■ とにかく勢いがすごい！次から次へとページをめくりたくなる。彼らの成長に今後も期待！

女優・ナレーター・講師 / 結城しおり

■ 社交ダンスの世界は華麗なイメージとはうらはらな激しい競技。躍動感と色気を感じさせるダンスシーンにドキドキします。でてくるキャラみんながどんな風に成長していくのか楽しみです。

主婦 / 紺野泉

■ 巻数も揃い、今がまさに読み時＝旬って思える作品 !!!!!!! 紙面から沸き立つほとばしる熱さに、気持ちがグイグイと揺さぶられます。読まないと本当に損するからねー

凸版印刷株式会社 / 紺野慎一

■ 「社交ダンス漫画なんて興味ないよ」なんて言う人や読むかどうか迷っている人がいるなら、とりあえず一度読んでみろ！と自信を持って薦められる漫画。

シンガー / 山野井千佳

■ 競技ダンスを通じた主人公の成長に引き込まれていく。日常に高い目標があることの意義を改めて感じさせてくれる作品。

自営業 / 小野ゆうこ

■ ヘタレ男子だった主人公が、ひょんなことから足を踏み入れたのは競技ダンスの世界。思わぬ才能を発揮し、瞬く間に成長していくのはある種、王道とも言えるストーリー展開ですが、興味深いのはパートナーである女性の踊り手との関係。リードし、リードされ、ぶつかり合って成長していく。その熱量に引き込まれ、揺さぶられる。なんだかパッとしない気分のときも、読んでいるだけで元気になれる。そんなエネルギーに満ちた作品です。

馬場企画 / 島影真奈美

■ とにかくスピード感！そして読んでいるこっちもそのスピードに巻き込まれていって呼吸が苦しいです。笑

カメラマン / 平沼久奈

■ 競技ダンスのマンガです。ボールルームなんて言葉も知らないよ、という人でも大丈夫。マンガを読み進めていくうちに、ダンスをまったく知らなかった主人公と一緒に、少しずつ競技ダンスの面白さがわかっていきます。絵に躍動感があり、とくにダンスのシーンを読み終えた後は、自分が踊ったわけでもないのに足の裏が熱くなっているような気がします。

大学図書館司書 / 堀江千秋

■ 会場に充満する選手たちの熱や汗が伝わって来ます。登場人物達がとにかく魅力的なので、それが踊るんだからたまらんですよ。

バンドマン / ＴＡ－ＳＨＩ

■ 序盤、この作品のこういうところが好きだ／面白い、と感じていた部分を、最近も感じることができるかというと、少し違った楽しみ方になっているとは感じている。けれど、この不思議なアツさは、他の作品では得られない感情なんじゃないだろうか……と思いもする。すごく普通なようで、すごく独特な作品だな ?、と。

ミュージシャン／他 / 杉本善徳

■ 肉体そのものの表現力が素晴らしい。

ライター / 縣丈弘

■　泣けるなぁ。アツいなぁ。

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

■　社交ダンス習いたくなる。

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

■　ダンスを知らない人が読んでも、文句なく楽しめる。作品から熱量が感じられる。

まんたんウェブ副編集長 / 河村成浩

■　自分にはなにもないと思っていた少年がのめり込むものを見つけて努力と才能でその道を駆け上がる、そんな王道少年マンガはついついページをめくる手も汗ばむってもんです。久しぶりに通して読んでテンションがあがり台所でターンをしたら、左手の甲のよこっちょを椅子の背もたれの部分にぶつけアザができました。それぐらいおもしろい作品ということだと涙目になりながら改めて思いました。

恵文社バンビオ店　店長 / 宮川元良

■　この熱さ、躍動感、表現力、妖艶さ、そしてスポーツ独特の熱血と努力。素晴らしい表現力で、マンガ大賞に推薦できる最後のこの機会にやはり選んでしまいました。もっともっと読者を増やしたい作品。

三省堂書店海老名店 嘱託社員 / 近西良昌

■　昨年の時点から比べ、今年の選考期間中の内容ですごくプラスアルファがあるという感じでもないですが……。そろそろ何かしら賞を受賞しても良い時期かとも思います。

ライター / 芝田隆広

■　このマンガを読むときの感覚は、マンガを読む時の感覚というより、スポーツをしている時の感覚に近い気がします。それほど、このマンガのダンスシーンの臨場感はすごいのです。私はダンスは全く知らないし、踊ったことなどもちろんないのですが、そんな私にも、ダンスを踊っている主人公の情熱や喜び、ダンスを愛する心といった、主人公の感情が強く押し寄せてきて、自分が踊ったような気分になります。心に熱い炎をともしたい人にお勧めのマンガです。

システムエンジニア / 廣瀬公将

「イノサン」坂本眞一

選考員コメント・1次選考

■ 昨年は二次選考に残らなかったので今年こそ！

大日本印刷 / 佐々木愛

■ ヨーロッパ貴族の豪奢すぎる暮らしと、毎日の食べものにすら困っている平民たちの侘しい暮らし。その両方が色や匂いを伴って表現されている筆致に圧倒される。裕福さゆえに退屈している貴族と貧しさゆえに娯楽に飢えている平民のどちらもが楽しみにしている残酷な処刑を提供するサンソン一族の苦悩と成長が、心象表現を含んで描かれていて読み応えがある。フランス革命に近づいてきて、物語が佳境に入ってきた。

アニメガ新宿マルイアネックス店 / 小田真弓

■ 7巻まで進んでも、圧倒的な作画とストーリーの緊張感は保たれたまま。巻数的に推薦できるのは今年で最後になりそうなので、思いっきりプッシュします。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

■ 細密な描写に定評がある作者が描く18世紀フランスの刺繍やレースの模様にまず目を奪われるけど、構図についても要所要所で手が止まってしまい舐めるように紙面を見ている自分に気付くこともしばしば。死刑執行の場面なども出てくるのでアニメ化などは困難だろうが、ぜひともフルカラーの愛蔵版を出して欲しい。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

■ フランス革命の裏側で生きた処刑人一族を凄まじい画力でもって描き出す。その圧倒的な世界観をご堪能頂きたい！

本と文具ツモリ / 津守晋祐

選考員コメント・2次選考

■ もはやガラパゴス化した読者を圧倒する絵柄の進化で見るフランス革命期の絢爛とグロテスクも見どころながら、読んでいて興味をもつのはやはり人間の心理や根源を描こうとしている点だ。なんだか凄いものを読んでいる、という稀有な体験に目も脳も嬉し泣きする作品。読もう。

往来堂書店コミック担当 / ミキユウタ

■ マンガの面白さと画力は関係ない、と思っていますが、この作品に関しては圧倒的な作画なくして語れません。人間賛歌を主軸に置きながら、キャラクターはド級のクセもの揃い。このギャップもたまらないです。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

■ 細密な書き込み、そしてオノマトペを使わないなど、描くにあたっていろいろなハードルを設けているはずなのにそれを様式美にまで高めてしまう圧倒的な迫力。一次選考の時にも書きましたが、いつの日か色のついた愛蔵版で読めないかと期待してます。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

■ グロテスクなだけの表現は数多ありますが、この作品のグロテスクさは、美しさを感じます。歴史の中で、その時代時代のある一面が、現代では信じられないような残虐さを持っている場合がありますが、当時の人たちもまた、そうした残虐な事が好きだったわけではなく、ただその行為を誰かがやらなければならないものとしてあったのだと思います。この作品に出てくる人々がどのような過酷な人生を送るのか最期まで見届けたい、最後まで読みきりたいと思える作品です。

会社員 / 林礼春

■ 孤高の存在感が半端ない。漫画の革命を目の当たりにしてる感じです。

PENICILLIN / HAKUEI

■ 読むのがつらい作品。前半、あまりに残酷なシーンが続くので本当に嫌になるほど。しかし、骨太なストーリーと美しい描写が絶品。衝撃がいつまでも残るので、体調のすぐれない人、元気のない人には向かない。

うすいまりこ鍼灸治療院 / 碓氷麻里子

■ 昨年のお正月に友人から勧められて読み始めたのですが、その日中に全巻揃えてしまうくらいハマりました。絵柄とか、すこしグロテスクな内容とかは人を選ぶと思うのですが、当時の生活感や耽美な感じがまた良いのです！最新刊は序盤がどっちの方向へ行ってしまうのだろうかという、宇宙的な広がりの展開になっていて…、ちょっと (苦笑)。

女優・ナレーター・講師 / 結城しおり

■ ルイ 16 世をはじめフランス革命期の処刑人シャルル―アンリ・サンソンは、差別に苦しみつつ死刑廃止を目指します。処刑という行為の恐ろしさ、疎まれながらも重んじられるという二律背反に揺れる時代背景も随所に見られます。本作品は描写が残酷ですが、だからこそ残虐な死刑はこのままでいいのか、との問いかけにも通じます。ヒトコマヒトコマ隅々まで丁寧に描かれたその美しさは、マンガ文化の愛好者には勧めずにはいられません。本作品の原作である『死刑執行人サンソン』（安達正勝著）を読むと、更に主人公の思いを感じられます。

衆議院議員政策秘書 / 三葛敦志

■ とにかく、ものすごい吸引力だった。1 巻からゆっくりと物語は始まり、登場人物が増えていくに従ってどんどん密度を濃くして、読み手を巻き込んだままぐんぐんスピードを上げていく。もし 1 巻だけ読んで続きをどうしようかと躊躇った人がいれば、ぜひ 5 巻までは読んで欲しい。この物語はそこからが本番だと思う。ムッシュー・ド・パリとして見事な手際を見せる執行人シャルルは、自分の代で死刑執行人をなくしたいと考えているという。そんな彼が生きているのは、もうじきマリーアントワネットが輿入れする時代のパリ。今後面白くならないわけが無い。時代が彼らに何を要求していくのかを、今後も見続けようと思う。

啓文堂書店本部 / 山川美香

■ ゴリゴリの描き込みが凄い。「絵を眺めるだけ」のマンガにはならず、読者を引き込むフェティッシュな魅力もあるのは長所。

ライター / 芝田隆広

■ 五感すべてを精緻な絵によって表現している。

サウンドデザイナー / Juvenile

■ 数奇な運命の史実漫画！比喩表現もすごい！絵がうまい！グロさもあるので、読者によって、好みが分かれるかも

Hair Make Lounge tetote / tetote 代表 力丸真

■ １巻ラストの斬首に失敗するシーンは、鮮烈で、あまりにもリアルな処刑で思わず何回も読み直してしまった。

LIBRO ecute 大宮店 店長 / 伊藤晃

■ 正直、絵柄で避けていた部分はあるんですが、読んでみたらかなり面白かったです！時代物 (?) を読んだ経験があまりなかったので新鮮でもありました…マリーが本当に好きです…。

AKIHABARA ゲーマーズ本店 書籍担当 / 岡田はる花

■ 読みながら、ギロチンが苦痛の少ない処刑装置として作られたことを思い出した。ベルばら世代にも読んで欲しいような、読ませたくないような……。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

■ ノミネートされなかったら絶対に読まなかった作品。グロそう、重そう、どんよりしそう、の印象そのままの作品だけど、その根幹のストーリー、設定、思考、人間の性の描写が凄かった。騙されたと思って読んでみて、という意味で推します。

WEB デザイナー / 河本 智芳

■ 作風に慣れるまで、随分と時間を要しました。けれど、なかなか知る機会のない内容をマンガという媒体で知ることができることは、純粋に楽しいです。描写の細かさが、よりリアルに知識欲を満たしてくれる個性溢れる作品だと思います。

ミュージシャン／他 / 杉本善徳

■ フランス革命を血で染めた実在の処刑人。生涯で刎ねた首は３０００個以上。それなのに本人は熱心な死刑廃止論者で、敬虔なクリスチャン……。これほどの（おいしい）ネタが、小説でも映画でもなく、マンガ作品として（しかも日本で）描かれるというのが、まずすごい。　しかも作者のチャレンジはとどまることなく、無垢な兄シャルルに異様な妹マリーをぶつけて、愛と死をめぐる物語はヒートアップ。さらにさらに、男装の処刑人マリーに従卒アンドレを配し、マリー・アントワネットに絡ませるとは……椅子から転げ落ちそうになりました。いったい、どこまで行ってしまうんだ！　正直、この賞の候補でなければ読むことはなかったでしょう。狂気すら感じさせる絵の密度は、華麗と気持ち悪さが紙一重。目をそむけたくなる描写のオンパレードも、まったくこの賞向きと思えないが、１票投じずにはおれません。この後も買い続けます。

読売新聞東京本社　編集委員 / 石田汗太

■ 圧倒的な画力と、歴史的な知識をもって描かれた漫画。いやもう、漫画の域を超えてもはや芸術作品とも言えるほどの画力。登場人物の心象風景と、身分制度に縛られた現実世界の重苦しい雰囲気が心に迫ってきます。主要な登場人物以外にも民衆の息遣いが感じられて、自分がまるでこの時代のフランスに存在している気にすらなるほど。自由とは？平等とは？そして処刑人サンソンがフランス革命のときにどんな人物になっているのか？とにかく続きが気になります！

三省堂書店そごう千葉店 係長 / 内野智未

■ 池田理代子さんの「ベルサイユのばら」、よしながふみさんの「執事の分際」「ジャックとジェラール」、萩尾望都さんの「女王マルゴ」を読んだひと、全員におすすめ。特に過去「ベルばら」で読んできた、あのひとも、このひとも、この美しきムッシュードパリの手にかけられるのかと思うと……なんという悲劇でしょう。私血にまた別のベルサイユの側面を魅せてくれます。最高に美しい画力にもうっとりです。

お菓子研究家 / 福田里香

■ 尖ったラインナップが多い今回のノミネート作品の中でも一層異世界ぶりが際立っていたと思います。引き込まれました。

明文堂書店金沢野々市店 1F フロアプランナー / 木村俊介

「僕のヒーローアカデミア」堀越耕平

選考員コメント・1次選考

■ この作品は面白いことはもちろんですが、単純に売れる作品以上に支える、今後のマンガ業界を支える作品になってほしいと思っています。つまりワンピース、進撃のような誰もが知っている、マンガって面白い、と大人にも、海外の人にも知ってもらえるようなすごい作品になってほしいと思っています。そのためにもマンガ大賞を取ってほしい。話題になってほしい。話題になることで、それだけの責任を感じて、もっともっと面白い作品にしてほしい、なってほしい、そして自分はそれを応援する一人になりたいと思っています。少年漫画の王道ともいえる少年の成長物語。なぜ少年が強くなろうとするのか、その一歩を踏み出せるのか、しっかりと丁寧に、そしてアツく語られていて、引き込まれます。そして話のテンポが早い！出し惜しみなく、展開がつぎ込まれていくストーリーにますます月曜日が待ち遠しくなります。まさにその名の通り「個性」を持つキャラ、学校と言う舞台なだけにいろんなキャラが出てきて、仲間との描写がまた魅力です。努力！友情！！勝利！！！　これぞジャンプ！主人公のことだけでなく、本当に成長が楽しみな作品であり、これからも読み支えていきたいです。

COMIC　ZIN　商業誌部門責任者 / 塚本浩司

■ 今年、心を掴んだコミックは多々あれど、その中から、選ばなければならないというのは苦渋の選択です。　漫画の面白さは甲乙つけられるものではないと知りながらも、その中で選ぶとしたら、この１冊をお薦めします。　『僕のヒーローアカデミア』　今現実に〝夢”を素直に信じて真っ直ぐ向き合ってる人って一体何人いるんでしょうか。その〝夢”も途中でスレざるを得ない現実の歪みに涙を飲む経験をした人が何人いるでしょうか。　綺麗で空想的で非生活的で少年少女の理想のような「夢」など現実には存在しないんだ、ということを知ったのは、一体いつでしょうか。「何故マンガを読むのか？」友人がボソっと言いました。「マンガにはここにはない“夢”があるから、それがあるから生きていけてるんだと思う」誰にも邪魔されないキラッキラの綺麗な“夢”。現実に悪態付きながら、無いと知っても追い求め、心に灯を灯すのは実際“綺麗事”だなんて、まったく人間とは我儘な生き物だなぁと自嘲したものです。「〝僕アカ”読んだ後、無性に元気が出て、夜なのに走りに出ちゃいましたよ」そういって笑ったマンガ好きのお客さんの笑顔が､私は忘れられません。「少年マンガ」とは何か。いや､「マンガ」とは何か。「僕アカ」には、その答えの一つがあると思ってます。

JACK 鷲津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤沙織

■ 「特異体質」を持つ者が多い中、「個性がない」主人公がヒーローになることを夢見る。アメコミ風な世界で主人公が成長していく、王道な少年漫画なのに、今後の展開がすごく楽しみな作品。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

■ これもヒーローと日常という一見相反する物を並べる意外性を描いてると見せかけて、読んでみると超直球の少年マンガで、読むと単純にスカッと出来るのが気持ちいい。

医師 / 岸本倫太郎

■ 不運の作者堀越氏の渾身の力作。ようやく、王道ジャンプマンガの代表者が新たに追加された。

株式会社スタジオフーズ / 小林智之

選考員コメント・2次選考

■ 堀越先生のマンガはジャンプデビューからずっと読んでいたのですが、ついに時代が追いついた！という感じで感慨深いです。ビジュアル的にもインパクトあるキャラがわんさか登場するわ、キメの絵の迫力もすさまじいわで、堀越先生が培ってきたスキルがすべて一方向に開放されたような、気持ちの良い少年漫画です！次代のジャンプ看板マンガに育ってくれるよう応援してます!!

株式会社アニメイト / 岡ノ部亭 真泰

■ こんな漫画待ってた！という作品でした。最近はあまり見なかった学園×ヒーローものという自分の好きなジャンルだったというのもありますが、個々の能力や友情、そして悪との戦い…今後の展開からも目が離せない！続きを楽しみにしてます！

株式会社スマイルアクス　営業大臣 / 岡村光徳

■ くたびれた大人になった今、マンガに求めるのはやっぱり「前向きな力」とかそういうものです。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口靖彦

■ 熱い！泣ける！またまたジャンプらしい王道漫画がまた出てきました！（ちょっと展開がナルトっぽいかも？！）内容も濃いので何度も読み返せます。まだ巻数も少ないので期待が膨らむばかりです。

デザイナー / 佐藤優

■「よし、今回も面白かった！」毎週、読んでいて思っていることです。自分にとってこの作品はただ面白いだけじゃなく、これからのマンガ界を支える作品になってほしいと思っています。なので常に面白い作品であり続けてほしいと思っています。読者として、作品に対して緊張感を持ち続けたいと思っています。そして堀越先生は毎週僕らの期待に、いや期待以上の作品を読ませてくれています。すごい作品ですし、すごい作品になってほしい…！いろんな期待と、アツい思いを込めて、この作品を 1 位に推薦いたします！

COMIC　ZIN　商業誌部門責任者 / 塚本浩司

■ 一次と二次と投票させていただきます。ヒーローアカデミア最高！

JACK 鷲津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤沙織

■ 勇気を出して行動するのは時にとても怖いものです。失敗するかもしれない、もしかしたら死ぬかもしれない、自分が行動してもなにも役に立たないかもしれない。人より能力の劣る主人公の頭には、自分のような凡人と同じように、色々な逃げるための言い訳が浮かびます。でも、この主人公は絶対に逃げないのです。迷い、恐れながらも、困っている人を想い、勇気をもって行動し、少しづつ憧れのヒーローに近づいてゆきます。その姿は、勇気を出して行動することは誰も最初はうまくできないけれど、葛藤を乗り越えて行動するということを何度も何度も積み重ねることによって、できるようになっていくものだということを伝えようとしているように思えます。このマンガを読んだ後は明日はもっと勇気をもって行動しようとちょっと前向きになれるような気がします。いつかヒーローになりたいなと思っている人に是非読んでもらいたいマンガです。

システムエンジニア / 廣瀬 公将

■ 王道ジャンプ漫画が久しく出てない中やっとキター！これは、アニメ化ゲーム化しても問題ない！！

Hair Make Lounge tetote / tetote 代表 力丸真

■ 姉に面白いよと言われながらもそれを無視して週間少年ジャンプで毎週飛ばし読みしていた漫画。ごめんなさい。めっっちゃ面白かったです。ヒーローもの最高です。1巻の主人公の行動に目頭が熱くなりました。毎年面白い漫画に出会わせてくれるマンガ大賞に感謝！

シンガー / 山野井千佳

■ 「特異体質」を持つ者が多い中、「個性がない」主人公がヒーローになることを夢見る。アメコミ風な世界で主人公が成長していく、王道な少年漫画なのに、今後の展開がすごく楽しみな作品。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

■ 普段あまり、ヒーローものを読まないのに、素直に面白いと思えた作品。キャラクターそれぞれの造形やとにかく絵が綺麗で、ワクワク感が半端ない。最近殺人やエロなど殺伐系の作品が乱立している中で、正統派のヒーローもので面白いと思える作品はなかなか見つけられなかったので、素直に面白いし、感動できた作品。今後の展開がとても楽しみ！！

アニマックス広報 / 西尾美里

■ 王道の変化球。ジャンプの底力。さすがです。

医師 / 岸本倫太郎

■ まだ一巻、されどこの面白さはどうしたことか！ずばり今後に期待賞です。

啓文堂書店本部 / 山川美香

■ 少年漫画が好きだ。結局少年漫画を読んでします。夢も希望もないはずのこんなおっさんになっても、やっぱり読みたいんですよ。そして、主人公よりも脇役にも目が行ってしまうんです。それにこの作品はほとんどの登場人物がヒーローかヒーロー志願者。どこのだれもがどんな脇役ですら、最後に踏ん張れるそんな可能性をずっと見せてくれる。希望則です。きっともっと面白くなるぞときたいをこめて。だって、最後まで野崎くんと聲の形とアカデミアで俺の中ではもめたんです。その証拠に評は全作品ちゃんと書いた、、、、珍しいぞ俺。

株式会社スタジオフーズ / 小林智之

■ ヒーローマンガが最近多いが、これぞ王道と言えるものは少ない。ジャンプイズムが集結しているこの漫画は少ない王道作品の中の一つと言えるだろう。なんだか堅苦しいことを言っているがつまりは面白い！この一言に尽きる！今後の展開に期待を込めてこの作品をオススメしたい。

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋修一

■ タイトルからして王道なヒーロー憧れ系かと思いきや、成長葛藤系な作品。話の展開の店舗も良く、どんどん読み進めていける。続きが気になって仕方ない。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田淳

■ これぞ王道少年漫画！ヒーローものということで夢中になって読めました。主人公・出久の、ヒーローになるために必要な能力を持ち合わせなかったことからくる元々の弱さと、それでもなお絶えなかったヒーローへの強い憧れがまぶしいです。また、出久とともにヒーローを目指すメンバーや教員陣も個性的で、他のキャラクターたちの活躍も楽しみです。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

■ アメコミをちゃんと日本マンガに換骨奪胎していて上手い。今後への期待を含めて。

ライター / 縣丈弘

ビッグコミックスピリッツ / 小学館

「王様達のヴァイキング」さだやす/ストーリー協力・深見真

選考員コメント・1次選考

■ 現実に起こりそうな IT 犯罪のリアリティ。ユニークな魅力もイライラさせるところも新鮮な主人公像。

Tokyo Otaku Mode Inc. / モリサワタケシ

■ 是枝くんの不器用な強さが好きです。坂井さんのかっこよさも最高！！

福島県ブックエース上荒川店・コミック担当 / 倉本かおり

■ 扱う題材はサイバーだけどストーリーは思いっきり王道。滾ります！！

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 営業管理部 / 大山敏樹

■ 「パソコン」を武器に、主人公が、徐々に人間らしさも持っていくストーリーに引き込まれます。だが、根底はハッカーとしてしか生きていけない、そんな主人公の次の展開が楽しみ。そんな事できんのかよ！ってつい思います！

デザイナー / 平沼寛史

選考員コメント・2次選考

■ 圧倒的リアリティは。すぐそこにある。

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

■ 毎年マンガ大賞に投票するときは、「普段マンガをあまり読まない友人にお勧めするならどれ？」というのを意識するようにしているのですが、今回はそんな考えを何もかも吹っ飛ばしてしまう作品に出会ってしまったので、王様のヴァイキングを１位に推しました。理屈じゃない、とにかく面白いんですよ！天才ハッカー是枝くんがこれからどんな風に変わっていき、どんな世界を見せてくれるのかを心待ちにしております。

啓文堂書店本部 / 山川美香

■ 強いコンプレックスを抱え、いろんな生き方を選べない主人公。でも、「この道しか無い」と思えるような道を全力で歩めたら、素敵な事だと思いました。自分を最大限に生かす生き方が格好いいです。

教師 / 持丸宏司

■ 続きが楽しみな作品。読んでいてわくわくします。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

■ 厨二の道は王道に通ず。滾る。

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 営業管理部 / 大山 敏樹

■ 登場人物たちは皆、表と裏の顔を備え、善と悪、自由とルールの境界線を行き来しながら、何かを生み出そうとし、何者かであろうとする。ヒリヒリするようなヒーロー像が魅力です。

Tokyo Otaku Mode Inc. / モリサワタケシ

■ 主人公の考えや動きが予想出来ないスリルがあって気が付くとあっという間に読み進めていました。また主人公が成長していく過程に胸が熱くなります。今までにあまりないテーマの漫画だったので新しい世界が開けました。次巻以降も楽しみにしたいと思います。

株式会社スマイルアクス　営業大臣 / 岡村光徳

■ 周りの友人達が意外と知らない、読んでない作品だったけど、面白かった！こういう勢いのある作品にグイグイ持っていかれる感覚はやっぱりマンガならではで、深く考えすぎずに楽しめた。男性に勧めるならコレ。

WEB デザイナー / 河本 智芳

■ １エピソードで区切れば疾走感があり非常に面白いのだが、全体を見ると、物語の最初から「世界の王様になる」というフレーズが頻繁に出てくる割には、「王様になる」という最終目標の山に対して麓の辺りを道に迷ってうろうろして違う山に登っては下山してを繰り返しているような目標の見えないもどかしさがある。善悪のモラルもない子供だった主人公が、エピソードごとにだんだんと人として成長している様はあるのだが、「やがて王様になる」というモノローグが頻繁に挟まれるので、どうしても興味がそちらに行ってしまう。インターネットやプログラム関連の話なので専門用語が続出するが、素人に説明するという手法を使って語句の意味は分からなくとも何をやっているのかが分からなくなる事はない。地味だが、これが上手い漫画は内容も面白い事が多いと思う。ネットを介してプログラムを使ってではあるが、対人相手の騙し合い・知恵比べといった古典的なコンゲームと本質的に変わらない部分があり、ミステリーファンであれば、コンピュータ方面に詳しくなくとも十分に楽しめる一級エンターテイメント漫画です。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

■ 切れ味のいいナイフは、世の中をどう作り変えますか？何年もかかって研ぎあげられてきた刃物が、使い手を得て、そして自ら意思を持ち始めるのは大変にぞくぞくしますね。自分もそんな刃を持っていたら、と益体もない想像を巡らせたりもします。一つだけ不満をあげれば、クラッキングネタがちょっと月並みな気が。

めがねっ娘教団 大司教・教務部長 / 田中海渡

■ 自分の仕事は、多かれ少なかれ、早かれ遅かれ、こんな感じの世界だなあと思ってしまい。変な感情移入傾倒をみせていました。同時期に始まった、『マガツクニ風土記』とヴァイキングはセットで自分の頭の中にあったので、マガツクニが終わった時に、ふっと、ヴァイキングも終わってしまった変な感じがあったのですが、半年ほど前にまた、再燃。是枝の追い詰められている感じが自分のいる立場によく似すぎてて、少し気持ち悪い時期もあったけど、今はどっちに行くのだろうと楽しみに見ております。

株式会社スタジオフーズ / 小林智之

■ 主人公は天才的なハッキング能力を持っているけれど、無力感の塊でもある。とことんバランスを崩したキャラが初めて味方と呼べる相手と出会ったとき、どう変わっていくのか。敵味方入り乱れての攻防に、二重三重に張り巡らされた罠。疾走感をまるごと味わいたい作品です。

馬場企画 / 島影真奈美

■ 人とどう関わるか、関わり合うか、について描いていて、新しいとおもいました。

大日本印刷 / 佐々木愛

■ 既に「第五の戦場」と呼ばれるまでになったバーチャル空間。ISIL が YouTube や Twitter などを駆使していることを考えると、この作品が描いている事は既に現実で起こっていると捕らえざるを得ません。

会社員 / 佐藤誠

■ 個人的には普段あまり馴染みのない世界の話なんだけど、それ故か初めて 1 巻を読んだ時の引きの強さと衝撃が忘れられない。是枝と酒井、ベクトルの違う天才 2 人の破天荒っぷりが見ていてとにかく痛快。巻を追うごとに成長していく是枝が微笑ましい。

醤油製造業 / 小野塚博之

■ 脳の回転が早すぎる人は普通の人から見ると鈍臭く感じてしまうことがあるそうで、それは脳の回転の速さに体がついてきてくれないというのを聞いたことがあります。天才とはそういうことかもしれないなあと思いました。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

「累 - かさね -」松浦だるま

選考員コメント・1次選考

■ 美醜に対する深すぎるコンプレックスを起点に、人間のあらゆる業を掘り下げて描いている力作。己の醜さへの絶望、美しい人間の傲慢さへの憎しみ、外見によって態度を変える他者への軽蔑、舞台上での恍惚…かさねが抱くあらゆる感情が突き刺さる。絵の完成度も非常に高く、今後が楽しみで仕方がない。

アニメガ新宿マルイアネックス店 / 小田真弓

■ こちらも昨年も推薦しました。3 巻で少し話しの展開に不安を感じたのですが、4 巻では新たな登場人物として累と対をなす野菊が現れちょっとまた面白くなりました。お互いの素性を知らず惹かれあう二人の少女が真実を知った時、やはり待っているのは破滅でしかないのでしょうか。できれば累には幸せになってもらいたいです。

派遣社員 / 栗田さやか

■ 天才的な演技ができる主人公が、舞台に立つ喜びを得る・・というと、けなげな美しいストーリーが浮かびそうだが、ここにあるのは「女の業」。美醜問題や、邪魔者を消す、など、目的を達成するために、手段を選ばずに生きていく主人公が、いつか破滅するのか、でも破滅してほしくない、と思いながら読み進める。主人公を悪だと言い切れないのは、やはり女だからなのか。続きが気になる作品。

アニマックス広報 / 西尾美里

■ 怖いのが苦手な私ですが、表紙の美しさに負けて手に取ったら思ってたより怖くなかった！これは女性にたくさん読んでほしいなあ。手に取るきっかけの一つになるといいなと願いを込めて。あと、小説もすごいです（むしろ小説がすごい！）。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

■ 読みながら、その情念で本を重く感じました。やさしいところに逃げこまず、ぶれずに醜さを描ききってくれていっそすがすがしい。こういう漫画は久しぶりです。

WEB デザイナー / 河本 智芳

■ 相手を陥れてまでも女優の道を極めんと活躍する累の姿に、何とも言えない後ろめたいような快感がある。コンプレックスについて触れる作品は多いけれど、より深く本質に近いところをエグッてくる作品。

醤油製造業 / 小野塚博之

■ それぞれの設定はファンタジーだけど、舞台とか、テーマがとにかく良い。主人公が完璧な顔を（時間限定で）手に入れて、元から持つ演技の才能を発揮するのだけど、そこで感じる物悲しさというのが主人公も、またその顔をかすキャラクター（女優など）もどちらもが得なければならない。そんな悲しみが物語全体を包んでいる。

メガマソ / 涼平

選考員コメント・2次選考

■ 禁断のテーマ、容貌の美醜による境遇の差異に取り組んだ意欲作。誰しもが抱く欲望と葛藤を巧妙な設定でえぐりだす作者の手腕は、見事である。舞台演劇を見ているかのようなテンポの良さと構図が素晴らしい。まるで「ガラスの仮面」の暗黒バージョンを見ているような興奮を感じさせる作品である。

弁護士　/　長島・大野・常松法律事務所 / 三村　量一

■ 今回は 14 点と多い中からの選出で、どれもバラエティに富んだ作品が集まってました。その中でも、個人的にはこの作品が一番心にナイフを突き刺されたようなインパクトがあり、恐怖や人のエゴ、女性の怖さなど色々が伝わって来てぐさりと残ったので選出しました。「人は見た目じゃない」という言葉がありますが、只どうしても第一印象というのはまず見て、それを判断する材料に入れてしまいますよね。 実際話したりすると全く印象が変わったりもしますが。男性も格好良くなりたいと思う事はありますが、女性の美しくなりたいという気持ちの強さには全く及ばないと思います。最近では女性ファンが相当数を占める様になったようでメディア化などにも合いそうですね。独特の線が太い印象的なイラストに、それに負けない骨太なストーリーで引き込まれること間違い無しです！

バイイングマネージャー / 日吉 雄

■ 人の顔で生きるというストーリー性は圧巻。顔を借りる側と提供する側の生き方が人間性を帯びていて、作品に惹きこまれました。親と同じ生き方で生きていく累の今後の結末、少しずつわかっていく真実めいたものが気になります。

デザイナー / 平沼寛史

■ 決してハッピーエンドには向かわないだろうと思わせるストーリー展開（むしろハッピーエンドを希望すらしますが）と現実とファンタジー感の程よいブレンド。大好きです。設定がファンタジーでも描かれている人物や物語に説得力があれば魔法のような話もスムーズにしみ込む。素敵な作品。ニナの関わり方が最後にどうなるのか気になります。

メガマソ / 涼平

■ とにかく展開が気になって引き込まれます！

主婦 / 紺野泉

■ 顔の美醜が生活に与える影響、他人に成りすます生活、考えれば考えただけ恐怖を感じずにはいられない。

リブロ池袋本店　コミック売場担当 / 小池由記

■ 相手を陥れてまでも女優の道を極めんと活躍する累の姿に、何とも言えない後ろめたいような快感がある。コンプレックスについて触れる作品は多いけれど、より深く本質に近いところをエグッてくる作品。

醤油製造業 / 小野塚博之

■ １～３巻までもゾクゾクしながら読んでいたのですが、新キャラ登場による４巻の緊張感たるや！ふたりの女性が背負った運命の重さに、胸がつぶれそうになります。どう考えてもハッピーエンドを迎えることが無さそうな、ドロドロしたお話が読みたい方に特におすすめします。（でも、願わくば悲しすぎる結末になりませんように・・・）

伊吉書院　類家店 / 中村深雪

■ 多分この作品の魅力はそのセリフにあるのだと思います。累とニナの言葉に込められた、追い詰められた者の持つ切迫感が、作品に強い緊張感を持たせているように感じます。決してハッピーエンドに終わるとは思われない作品ですが、累と二ナの落ちてゆく先を最後まで見たいと思います。

会社員 / 林礼春

■ 読み始めてすぐにすごい力で引き込まれる。一息つくたびに考え込んでしまう。ただただ可哀想で悲しい話だと思っていたけれどそうでもなかった。強い。

金海堂イオン隼人国分店　コミック担当 / 園田美智子

■ 現代最大のタブーかもしれないこと、美人と不美人を分けて考える事。美人と不美人には差はない、というつもりで生きている私は、こんなに揺るぎなく、美人と不美人にはこれだけの差がある、と考え続けた結果を、作家さんならでは、マンガならではの設定に落としこんで、我々をはらはらさせ続ける。これを読んだ後で、「心がキレイならそれでいい」なんていう常套句を軽々しく口にすることは出来なくなるのですが、まったく同じことなのですが、その精神の高潔さの価値に敏感になってしまうのです。人間の容貌の美醜の価値に、本質的に踏み込みきったこの物語、どう、決着がつくのでしょうか。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

■ 恐ろしい…！美しさへの執念、名声、地位、そして舞台への情熱全部を手に入れることと引き換えに、人としてのものをどんどん無くしていく累とても恐ろしいけれど、引き込まれ一気に読めてしまう！

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

■ 顔が入れ替わる口紅、映画やドラマではなく舞台女優、眠り病、戸籍のないまま育てられた少女、立ちんぼで体を売って生活する、母親の過去を知る謎の男、と道具立てが全て前近代的。昭和初期の伝奇物といった趣がある。陰湿で暗い話なのに、主人公が人ととして悩んだり迷ったりする性根の良い子で、演劇への情熱も真っ直ぐなので、読んでいて嫌な気分にならないのはすごいと思う。主人公の顔も人として不細工というより人外の妖怪みたいなので、作中の扱いはともかく、読んでいる側としては慣れてしまえば愛嬌さえ感じ、感情移入してしまう。偽りで塗り固めた自分を、薄氷を踏むように嘘でごまかして生きる日々は、どう考えても不幸な結末にしかならなそうなので、続きが気になって仕方がない。読みだしたら続きが気になって止まらない漫画です。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

「月刊少女野崎くん」椿いづみ

選考員コメント・1次選考

■ 本当に読んでいると笑いが止まらない。外では読めない。

公務員 / 東くるみ

■ いつ読んでも爆笑。いろいろわざと逆転させた、個々のキャラの立て方が素晴らしい。そしてキャラの性格が全員かわいい。かわいすぎる。ツッコミどころ満載。

主婦 / 安田奈緒美

■ 思わずヒロインの千代ちゃんを応援したくなる作品です。主人公をはじめ出てくるキャラクターはみんなギャップ萌えですね (笑) また絵もとても綺麗で読みやすい所も好感が持てます。四コマとは思えないしっかりとしたストーリーも〇。誰が読んでも面白いと思います。

株式会社スマイルアクス　営業大臣 / 岡村光徳

■ 堪えるのが我慢できなくなるくらい笑いが溢れています。みんな明後日の方向に全力で突き進む感じが何とも言えず、最高です。

教師 / 持丸宏司

■ キャラの濃い高校生たちの繰り広げるおもしろすぎる日常。男子高校生なのに少女漫画家の主人公野崎くんはむしろ普通に見える。重いテーマの漫画に疲れた人に読んでほしい。

リブロ池袋本店　コミック売場担当 / 小池由記

選考員コメント・2次選考

■ 楽しく読めるのが漫画の利点。重いテーマや感動とは無縁（？）に肩の力を抜いて読めるのがコレ！です。

リブロ池袋本店　コミック売場担当 / 小池由記

■ ４コママンガならではのテンポの良さ、魅力的なキャラクターとヒロインの強烈なツッコミで飽きさせない。とにかく笑える、面白い！ アニメ放送後もまだまだ盛り上がる作品で、もっと多くの方に読んでもらいたい。

LIBRO ecute 大宮店 店長 / 伊藤晃

■ 既にアニメになっている作品だが、原作マンガもならではの魅力が凝縮されている。マンガ家をテーマにした狭い世界で、こんなに多様な笑いを見せられるのは驚き。

まんたんウェブ副編集長 / 河村成浩

■ キャラクターみんなとぼけていて、かわいくて面白い！こんなみんながいる学校に通い、放課後は漫画原稿の手伝いしたい！笑

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

■ アニメから入りましたが、コミックも面白いです。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

■ 一巻の頃からこの場に出ていたわけではないので間違いなくアニメ化で株が一気に上がったのだと思います。アニメでは四コマ漫画と気づかなかった人も多かったのでは無いでしょうか？ テンポの良さやノリに勢い含め思わず笑ってしまう作品。落ち込んだ時などに読むと元気が回復します！個性あるキャラクター達が魅力ですね。後ほんのり匂わせるラブコメ要素も期待感があって良いです。頑張れ千代ちゃん！

バイイングマネージャー / 日吉 雄

■ 特殊な状況にアクの強い面々を配し、その交錯でネタを増幅させる " 王道 " をラブコメ四コマで成功させた職人芸。キャラクター造型や作画を含めて、実はかなり技巧的な一作。

書評家 / 福井健太

■ 男性目線でも読みやすく、また短い時間に読んでもフフフとなる作品。男はみんな野崎くんのポジションうらやましいと思う…あと千代ちゃんけなげでかわいい。

メガマソ / 涼平

■ これだけ多くのキャラがいながら、それぞれのキャラ造形に全く嫌味のない、飽きの来ない内容にただただ感服です。現実にいたらそれはそれはムカつくだろうなあというキャラも多々いますが (前○さんとか…)、それも含めて許せて愛せるキャラ同士の関係性が愛しく思えます。恋愛ネタがメインになりながらも、全く暗くならない、どんなときでも笑って読める、キャラもの 4 コママンガのひとつの到達点のような作品です！

株式会社アニメイト / 岡ノ部亭 真泰

■ 聖おにいさんを初めて読んだときと同じ衝撃。意外！その組み合わせ！！ヒロインの女の子それでよいのか！？と思いつつ勢いあって楽しそうだしまぁいいか！と思ってしまいました。読んだ後元気になれる作品

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川 ゆかり

■ ４コマだからでしょうか、次々に畳み掛けられるネタに笑いを堪えられません。

教師 / 持丸宏司

■ 安心の爆笑コメディ！誰一人キャラが立ってない人が居ない。細やか！こんな素晴らしい爆笑コメディ読んだの初めてでした。終わって欲しくないな ?。密かに剣さん（宮前 剣）が好きです！

主婦 / 柴 架衣

■ 4 コマらしくテンポよくオチて、単純に楽しく読ませていただきました。また出てくる連中がみんな（一部除きますね）いいヤツなのがまた作品が愛しくなりますね。友達になりたい連中です。疲れた日常を送っている中でこういう頭を和まさせてくれる作品には本当に癒されます。あとやっぱり少女マンガ出身の作家さんらしく、絵が魅力的なのもいいですね。

COMIC　ZIN　商業誌部門責任者 / 塚本浩司

■ 安定して面白い内容。笑いでヒーリング。

公務員 / 東くるみ

■ ギャルゲー友人キャラ友田くんの話が大好きです。野崎くんが描いた漫画を読んで頭を抱える剣さんはもっと好きです。そして、前野さんは一周回って清々しいと思います。

JACK 鷲津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤沙織

■ こんな高校生活やってみ。。。たいような、、たくないようなw

カメラマン / 平沼久奈

■ 漫画家モノというジャンルの中で、混同されたり真に受けられたりと匙加減の難しい出版関係事情ですが、フィクションとノンフィクションの境界をハッキリとさせつつ、質の高いコメディに落とし込んだセンスが決めてかと。お仕事モノとギャグを両立させるキャラの立ち方やエピソードの取り扱いと、読者にかける負荷のコントロールにより気軽読みすすめ、かつ知りたいとという要求に応えた快作ではないかと。

住職・ライター / 蝉丸 P

マンガ大賞2015 ノミネート作品

月刊コミックガーデン / マッグガーデン

「魔法使いの嫁」ヤマザキコレ

選考員コメント・1次選考

■ チセとエリアス、少女と人外の愛は、見ていてとても心地良い。魔法使いとして成長していくチセを、ずっと応援したくなる。

LIBRO ecute 大宮店 店長 / 伊藤晃

■ ファンタジーだけど、ゆっくりとした世界観に惹かれる。いろんな賞を受賞しているが、まだまだ広めたい！

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

■ 絵の荒さは若干きになりますが、ストーリーと世界観が気に入りました。読む前はもっとＴＬ系みたいな話なのかと思っていましたが、そうではなくじんわりとくる切ない話とか魔法使いのなんとなくきな臭いところとか、この先の展開が楽しみな作品です。

派遣社員 / 栗田さやか

■「売れてるから読まなくてもいいかなあ」と思った天邪鬼ですが、絵に惹かれて手に取ったら止まらなかった！すみません、大好きです！！確かにちょっとお話が判り難いところもコマ割が気になるところもあったりして何度も読み返したりもしたけれど、でもそれら全てひっくるめて、楽しさの方が遥かに上回ります。ファンタジーって、夢を見る／読むってこういうこと！

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

■ 今年一番繰り返し読んだ漫画です。各所で話題になっていましたが、それも頷けます。ストーリーもイラストもど真ん中過ぎて何度読んでも飽きない作品です。人外と少女の立ち姿の麗しさと言ったらもう。魔法使いとその嫁 (兼弟子)、末永く幸せであれ。

AKIHABARA ゲーマーズ本店 書籍担当 / 岡田はる花

■ 魔法がある世界の存在感がすごい。世界が綿密に構築されている。今は嫁というより弟子だが、嫁という言葉の題名のインパクトは素晴らしいと思う。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

■ 絵柄、世界観、この先の展開でどう化けるのか。コミックを読むまでと読んでからでは印象の違うマンガでした。弟子から夫婦へ。なぜあのタイミングで現れたのかという魔法使いとの出会い。そして、思いの外現代的なマンガでした！

デザイナー / 平沼寛史

選考員コメント・2次選考

■ チセとエリアスの二人の関係がもどかしくて、ずっと見守りたくなる。今後もこの二人が、どんな世界を私たちにみせてくれるのか、楽しみでならない。

LIBRO ecute 大宮店 店長 / 伊藤晃

■ お茶目な人外はときめく！あと泣きました。素敵で、大好きです。

金海堂イオン隼人国分店　コミック担当 / 園田美智子

■ うおぉぉぉぉ！人外じゃ？！人外様じゃ？異類婚姻譚様じゃ？！！！昔から大好きなジャンルだけど、この手の漫画って少ないんですよ。世界観の表現や設定に凝りすぎて難解な内容になったり、魔法の戦いに傾いたりするのに！！とってもバランスがよい漫画と思いました。あと、主役二人のほんわかする愛がいいなぁ。少女漫画とちがい恋のライバルやどろどろした三角関係は必要なし！たとえ種族の差があろうとも、価値観の差があろうとも相手をけなげに思いやる愛があればなんとかなる！それが異類婚姻譚の王道ぞ！世界観にとっぷり引き込まれつつ、二人の恋を応援したい作品

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川ゆかり

■ ファンタジーだけど、おとぎ話のようで、ゆっくりとした世界観に惹かれる。いろんな賞を受賞しているが、まだまだ広めたい！

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

■ 1 次でも選ばせていただきましたがまほよめはやっぱり面白いです！チセとエリアスの関係がたまりません…！キャラクターの魅力が強く、読めば読むほどエリアスが好きになること間違いなしです！続きがすごく気になります…！

AKIHABARA ゲーマーズ本店 書籍担当 / 岡田はる花

■ 地味に人外モノを推していた身としては、これぞ！という雰囲気を纏った良作で、イギリスや魔術など伝奇部分の緻密さから匂い立ってくる、濃密な魔の世界を想像させつつ、世界観や説明は無駄なく会話や仕草に織り込まれており、シナリオは王道を踏まえた異類婚とくれば、この手のファンにはたまらない作品であり、魔は細部に宿るものであるというのを遺憾なく表現した逸品だと思います。

住職・ライター / 蝉丸 P

■ 薦める…と言うと、ちょっと語弊があるかもしれません。いや、マンガ大賞のコンセプトは解っています。でも、薦めると言うより、私の「大好き」を見てください！という心境になる作品なんですよね。と、良い大人がこんなことを書くのもちょっと恥ずかしいのですが。いいとこどりのファンタジー。拙い部分も解り難い部分もあって、でもたぶんそれは、こどもの頃の自分が児童書を読んで夢見たいびつなファンタジーの原型と似てるのです。どこか破綻しているのに力強く、訳がわからないのに惹かれる心地よさ。それらが全て、ここに詰まっています。もう一度、小さい頃の夢を観たい方にオススメです。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

■ 丁寧に描かれた世界観や設定など、個人的にツボなことが多く…とにかく好きなのです。チセとエリアスが幸せになるように見守りたい。

主婦 / 紺野泉

■ 今、友人知人に感想を一番聞いてみたいのがこちら。自分では大変に王道な魔法使いモノだと思っております。常世の理と外れつつも人と交わり、そして心の赴くままに心理を探求する。ああ、そんな魔法使いに私もなりたい。

めがねっ娘教団 大司教・教務部長 / 田中海渡

「宝石の国」市川春子

選考員コメント・1次選考

■ 美しくもグロテスクな世界観と、哲学的で謎めいた物語。なのに、少し懐かしい感じがするのは何故でしょう。誰も思いつかないような、突き抜けたオリジナリティに圧倒されます。

大学図書館司書 / 堀江千秋

■ とにかく毎回の「宝石」たちの戦闘シーンが圧巻です。「宝石」、かれらを狙う「月人」の起源に迫る謎や、さまざまな出来事を通じて成長を続けていく主人公フォスフォフィライトの姿など、今後のストーリー展開から目が離せない作品です。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

■ 実はこの作家さん、ずーっと気にはなっていたものの手に取ったのはこれが初めて。いやー衝撃的でした。だって絵が動いてみえる（ような気がする）んですもの。それぞれのコマはたしかに「絵」なんですが、なぜだか読んでいると作品の世界にどっぷりハマッて、色の洪水でおぼれそうな錯覚があります。とにかく新鮮！

三省堂書店そごう千葉店 係長 / 内野智未

■ この作品にも作者のテーマは健在だ。そもそも有機物にとって、あるいは無機物にとって、ひいては宇宙の森羅万象にとって食事って何？という問いかけを感じます（わたしが勝手に）。

お菓子研究家 / 福田里香

■ 言葉にならないくらいよいです

大日本印刷 / 佐々木愛

選考員コメント・2次選考

■ とにかく綺麗で見ているだけでうっとりしてしまいます！単行本表紙はまさに宝石…！ビジュアルから入りましたが、個性的な宝石たちが動き回る様は面白いの一言に尽きます。脆くて弱い、主人公のフォスフォフィライトが強くなろうと奮闘する姿はついつい感情移入してしまいました。

AKIHABARA ゲーマーズ本店 書籍担当 / 岡田はる花

■ マンガだからこそ、SF 設定だからこそ伝えることが出来る、気持ちや感情が、愛らしくあふれ出てくる、自分にとっては最高の宝石のようなマンガ。

書楽 阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田充

■ デビュー以来の市川春子の想像力の輝きがストレート詰め込まれたファンタジー。

マンガ研究 / 会田洋

■ 圧倒的に美しいですねえ。

大日本印刷 / 佐々木愛

■ 美しすぎます！独特の世界観とテンポで描き出された、戦う宝石たちと彼らを襲う月人たちの戦い。硬質な残酷さが、悲しいと同時に美しとすら思ってしまう。白黒なのに色がついて見えるほど。市川春子先生の「理系」っぽさ、ある意味オタク的な部分が一本筋が通っていてゆらぎない！だからこそ説得力のあるこの「宝石の国」の世界に読者ものめりこめるのだと思います。

三省堂書店そごう千葉店 係長 / 内野智未

■ 美しくもグロテスクな世界観と、哲学的で謎めいた物語。初めて読んだにもかかわらず、少し懐かしい感じがするのは何故でしょう。誰も思いつかないような、突き抜けたオリジナリティに圧倒されます。不思議と、同じシーンを繰り返し何度も何度も読んでしまいます。

大学図書館司書 / 堀江千秋

■ 設定が秀逸。まだまだ明かされていない部分も多く、登場人物の説明も不十分だが、それでも主要人物はしっかり性格を描けているし、陸・海・月の対立軸から人間を描く感じも新鮮である。

弁護士　/　長島・大野・常松法律事務所 / 三村量一

■ 幻想的ながら、一本筋の通った SF 設定とオリエンタリズムを混ぜ合わせた奇作であり、開始からグイグイと話に引き込んでいく、グループの中で異質であるという主人公を軸に、それぞれのキャラが抱える葛藤や欲求を浮き彫りにしていく丁寧な筋立てに感服しました。あと、僧職的には月人のデザインにハートをわしづかみされ巻きました！

住職・ライター / 蝉丸 P

■ 市川春子さんの作品はどう逆立ちしても市川春子さんにしか描けない、唯一無二の宝物のような世界だということをあらためて感じさせてくれる作品。どんどん変化していくフォスから目が離せません。それと表紙が美しすぎて、全巻並べて飾っておきたいくらいです。

伊吉書院　類家店 / 中村深雪

■ 時期としては、もう少し話が展開してから…という気もしますが。クオリティの高さは間違いなし！「理解」しようと思わず、身をゆだねて浴びるように読むと、吉！

漫画ライター / 門倉紫麻

「ドミトリーともきんす」高野文子

選考員コメント・1次選考

■ この本の面白さを文章で表現するのは大変難しい。科学を漫画で、しかもやさしくわかりやすく解説するのだが、とにかくユニーク。斬新。まったりとした母と子の独特のテンポ。いつまでもこの世界に浸っていたい。

主婦 / 安田奈緒美

■ わ？すごい！　最高でした。昨年、新刊合わせでラジオにご出演されて、前作の「黄色い本」で自分を出しすぎたので、いままでで一番客観的に主観にならないように描いた的なことをお話されたのがとても印象的でした。私はむしろ、作者がいままででもっとも自分の願望を丸出しにだだ漏れにした、「渾身の科学者萌えの MY 同人誌☆」に読めたのです（ごめんなさい）。ともきんすの家主の女性（＝ヒロインの立ち位置、と読めた）は、夫不在で小さな子供を抱えた母で、それぞれの部屋に男性の素敵な科学者が住んでいて、でも彼らとは特に恋愛関係にはならなくて、一定の距離感を保ったまま同居して、平穏におさんどんをして、ちょっとした科学の不思議に見舞われつつ暮らす……ってまさに、ある種のひとにとっては、新手の恋愛シュミレーションゲームっていうか、むしろその関係性と立ち位置って夢ですよね、ああ、わかります！萌え～って読んでしまったのです。だけど、じつは私が感じたのと真逆の思考でこうなったんですね、ととても驚きました。その自我のありかたも含めて天才です。

お菓子研究家 / 福田里香

■ 刊行当時、本書の出版にかかわりがある立場だったために、あまり大きな声は出せないが、やはり高野さんの単行本が出たのは「事件」でしょう。とにかく、ペンの選び方からトーンの張り方、吹き出しの配置まで、何もかも完璧に計算しつくされた画面作りはすごいの一言。絵が少し昔に戻ってかわいくなったのもうれしい。

読売新聞東京本社　編集委員 / 石田汗太

■ 発売以来、じわじわと認知度を上げてきている " まぎれもなく面白い "。……が、科学フィクションエッセイ、どんなジャンルに入れていいのかわかりませんし、好き嫌いもあるとは思います。だがこの科学エッセイ（風）マンガをマンガ大賞 2015 の選考員のみなさんがどう評価するのか知りたい一心で票を投じさせていただきます。

編集者 / 松浦達也

■ 軽妙洒脱。楽しい。そして 1 コマ 1 コマが美しい。紹介されている科学エッセイも一緒に紐解きながらゆっくり味わいながら読むのが良いかも。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

■ 高名な科学者たちを下宿住まいの学生に描き、彼らのエッセイを紹介するユニークな読書指南コミック。高野文子にしか作れない世界がここにはある。

書評家 / 福井健太

選考員コメント・2次選考

■ 別格。軽妙洒脱。1 コマ 1 コマが美しい。科学エッセイも一緒に紐解きつつ、ゆっくり味わいながら読みたい。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

■ 難解で、ちょっととっつきにくいこの作品に票を入れるのは、賛否両論あるとは思う。でもこれは、理系の学者たちの言葉の表現の豊かさに、マンガ家として対抗しようとしている感じの意欲作。この意欲はマンガを絶対に進化させるはず。

書楽 阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田充

■ 科学と聞くと身構えてしまうレベルの文系人間ですが、その出発点は世界に対する素朴な「なぜ？」の気持ちなのかも。子供のころの純粋な知的好奇心をもう一度抱かせてくれる、絵本のような漫画でした。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

■ 漫画の可能性を軽やかに拡げてみせる才人の筆遣いに感服。独創的なクリエイターはたくさんいても、柔らかさと説得力のある創作はさほど多くはない。

書評家 / 福井健太

マンガ大賞非ノミネート作品

全作品名・選考員コメント掲載

「逢沢りく」ほしよりこ

■ 14 歳の少女の繊細な気持ちがゆっくりと解けていく笑って泣けて温かい気持ちになる作品です。

有隣堂店売事業部仕入販促グループ係長 / 徳永あけみ

■ ほのぼのしてないーーーw中学生のりくちゃんとパパとママ。みんな自分のことばかり考えていて優しくないのだけど周りの人たちのお陰ですこしづつ変わっていくりくちゃんに釘付けです。全然早くないスピードでの変化が凄く心にきた。ちゃんと紹介したいのにうまく文章で伝えられないのがもどかしいので是非読んでみてください。

カメラマン / 平沼　久奈

■ 久々に漫画界に現れた、パーフェクトな孤高の美少女。最後の疾走シーンは永遠に心に残りそうです。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

■ 「これネーム？　これからペン入れ？」（失礼）と見まがうような真っ白な画面ですが、読んでいるうちに生き生きと人物が動き出し、ありありと声が聞こえ、豊かな色彩が現れて、ページを繰る手が止まらなくなる魔法のような作品。ちょっと稀有なマンガ体験であり、この表現形式がまだまだ「枯れてない」ことを思い知らされます。

読売新聞東京本社　編集委員 / 石田　汗太

「IDOROLL　アイドロール」筒井大志

■ ミュージシャンの夢を絶たれた女の子、一乃がアイドルとして新しい道を歩み始める物語。かわいらしい絵柄とは裏腹にリアルでスポ根全開のアイドル漫画です。汗まみれになって現実に立ち向かう少女たちの姿の美しさと言ったら…。また、作中に登場するオタク・ヨシくんにかなり共感できます。ドルオタだったら確実に共感しちゃいます。好きな台詞は「世界はそれを「アイドル」と呼ぶのだッ !!! 異論は認めるが !!」です。沁みます。アイドルは二次も三次も熱い！！！一乃は俺が推す！！

AKIHABARA ゲーマーズ本店 書籍担当 / 岡田はる花

「AWAY　アウェイ」萩尾望都

■ 萩尾望都版「お召し」。もうそれだけで読まなくてどうする！

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

「アキンボー」下吉田本郷

■ ありえない設定なのに随所に散りばめられたあるあるが何故かストーリーを身近に感じさせる「アキンボ」悔しいけど面白いのです

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部　大介

■ アキちゃんが凄く可愛いです。アキちゃんを拾ってくれたおじいさんも、何だか素敵な人で、飼われている犬が小憎らし可愛くて、どのキャラクターも、何だか愛しい。ホンワカホンワカします。この先が凄く気になります。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

「亜人」桜井画門

■ 圧巻、帽子の佐藤。いよいよ不死者同士の戦いが始まる。

弁護士　/　長島・大野・常松法律事務所 / 三村　量一

「あそびあい」新田章

■ 「タブー」っぽいことをひょうひょうと描いてくる感じがいい。クール。誰も言わないけど本当のところどうなのよっていう、ね。どっちに転んだとしても、自分に正直であるってことはいいことだと、わたしは思いますよ。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

「ACCA13 区監察課」オノ・ナツメ

■ オノ・ナツメ先生らしい、個性的な世界観、登場人物のキャラ、食べ物がいいです。

Hair Make Lounge tetote / 力丸　真

「あとかたの街」おざわゆき

■ あまり知られていない戦時下の名古屋を舞台にした話です。徐々に悪化する絶望的な戦況の中でも家族のきずなや、日常を大切にたくましく生きる主人公の姿が美しいです。厳しい状況であればあるほと、日常を保つこと、身近な人とのつながりを大切にすることが、人間として正気を保って生きていくのに大切なのではないかと思わせられたマンガでした。

システムエンジニア / 廣瀬 公将

■ いま、この作品を世に問う意義は大きいと思う。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

「あなたのことはそれほど」いくえみ綾

■ 上手というにはあまりにもすばらしすぎる絵と、息詰まるように、あやなすように展開する物語。音も無音もひやりとした冷たさも、湿度も痛みもはっとする手触りも苦さも熱さもそこにはある。いくえみ綾のマンガは総合芸術。その世界に時間を忘れていつまでも浸っていたい。あなたのことは「それほど」何なのか。溺れるほどの激情なのか、無関心に似た悪い感情なのか。年齢上めのダークな寓話。

日本経済新聞編集委員 / 天野賢一

「アニウッド大通り」記伊孝

■ 80 年代の暖かさと懐かしさが堪りません。ほのぼのとした話が多い中、たまにググッと心に突き刺さる回があって読み応え十分。

醤油製造業 / 小野塚博之

「あの娘にキスと白百合を」缶乃

■ 表紙のヒキが抜群の 1 冊。華やかさとかっちりさが共存したような缶乃さんの絵は 1 ページ目から引き込まれること間違いなし。秀才・白峰さんが天才・黒沢さんに振り回されつつもなんだかんだ面倒を見てあげる様子は微笑ましく、ふたりの関係がこれからどんなふうに変わっていくんだろう？というのが気になって 3 巻の発売が待ちきれません。黒沢さんに振り回される白峰さんをずっと見ていたいですね。

AKIHABARA ゲーマーズ本店 書籍担当 / 岡田はる花

■ 百合がデフォルトな世界観の作品はもっといろいろあっていいと思いました。

マンガ研究 / 会田洋

「アホガール」ヒロユキ

■ ギャグマンガ低調の次代、奮闘している。いつ読んでも元気になれる。

まんたんウェブ副編集長 / 河村成浩

「甘々と稲妻」雨隠ギド

■ とにかくつむぎちゃんが可愛いです。食事のシーンは本当に美味しそうに食べるので読みながら思わずニヤニヤしてしまいます。また、親子の絆や恋愛展開（？）にもキュンとします！続きが非常に楽しみな作品です。

株式会社スマイルアクス　営業大臣 / 岡村光徳

「アマリリス」福島鉄平

■ 　まず最初に思った感想が「友人が喜んで買うだろうなぁ…毒のあるストーリーといいショタ絵といい、彼女の本棚に並んでそうだなぁ…」といったものでした。　まだ存在を確かめたわけではないのですが、訪れた時に見つけたら、素知らぬ顔で「わ～これ、好きなの～？（笑顔）」と散々感想聞いた後に「実は私も」と付け加えたいです。絵がとにかく可愛い上に、ぎゅっと凝縮されたお話ひとつひとつが魅力的です。　何より、はしばしから滲み出てくる、何度もすり潰して一周回りきったような暗闇が堪らない中毒性を醸し出してます。　屈折してるけど、どこまでも純粋で、嫌にならないユーモアな登場人物達。　多分、彼らと友達になれたら、楽しいだろうなぁと思います。

JACK 鷲津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤沙織

「あめつちだれかれそこかしこ」青桐ナツ

■ 「flat」青桐ナツ先生の新連載はすてきなおじさまと男子学生のお話。でもちょっとだけ普通じゃない。すこしふしぎ。そしてやっぱりあったかいようなせつないようなストーリーで好きです。

金海堂イオン隼人国分店　コミック担当 / 園田美智子

「アリスと蔵六」今井哲也

■ このマンガの何が好きなのか、正直なところ言葉にできないのだけれど、毎巻読み終わると、ぼんやりと優しい気持ちになっている自分がいます。決してほんわかしているだけの話でもないですし、むしろそういうシーンの方が少ない気もするのですが……けれど、読み終わった後の不思議な感情が、これをオススメさせている気がします。

ミュージシャン／他 / 杉本善徳

「あるいとう」ななじ桃

■ 神戸を舞台にした物語。やっぱり地方ものはいいなぁと思う。絵を見ながらその土地に思いを馳せる楽しさ、あたかも本当にそこに住んでいるかのように登場人物を想像する楽しさがたまらない。地域活性のためにもなるし。それにあるいとうは悩んで悩んで前に進んで行く主人公がとてもいとおしくて大好きだ。読みながら一緒に心の葛藤や成長を味わえる。

フリーアナウンサー / 松尾　翠

「アルテ」大久保圭

■ 貴族という身分から一転、絵描きの弟子になって、初めての経験や様々な出会いから悩み、強くなっていくストーリー。絵も非常に書き込まれていて世界観に引き込まれます。

デザイナー / 平沼寛史

■ 高級娼婦、最高です。仕事がんばろう。

WEB デザイナー / 河本 智芳

■ ルネサンス期のフィレンツェで画家として自立して生きようとする少女の物語。当時の女性の立場の弱さが物語の主題として描かれており、深みがある。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

■　ルネサンスを題材にして、女性の目線で、その時代で戦っているのが斬新。

まんたんウェブ副編集長 / 河村成浩

「あれよ星屑」山田参助

■　確かな画力と相当調べたんだなと思わせる時代考証、そして練りこまれたストーリーが秀逸です。子供たちの表情がとってもいいな～。

ホビー系会社勤務 / 畑中 瀬路奈

■　戦後混乱期モノはあまり好きではなかったのだが、これはなぜか続きが気になる。敗戦の空気感。現代にも続くなんとも言えない空気感をうまく表現してくれている。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田淳

「飯田橋のふたばちゃん」原作 / 横山了一・作画 / 加藤マユミ

■　ものすごい内輪ネタですが、マンガ好きなら「わかるわかる！」と言ってもらえる内容です。なにより擬人化が秀逸ですし、ヤバいネタをぶち込んでくる挑戦的な姿勢が最高です！

Books アイ茗荷谷店 / 野口　忠義

「磯部磯兵衛物語～浮世はつらいよ～」仲間りょう

■　初めて作品に触れたときから、「やられた！」と感じました。浮世絵風な絵柄に奇想天外の設定、子どもから大人まで楽しめるギャグの数々。なのに、ときにしっかりとした歴史設定に裏打ちされたストーリーとなったり。江戸時代の日常をさらりと紹介する手法も鮮やかです。これぞマンガの醍醐味！老若男女の多くの皆さんに、是非手にとっていただき、マンガのおもしろさを再発見していただきたいと思います。読まないと、処しますよ！

衆議院議員政策秘書 / 三葛敦志

■　社会人になると、とても短くて、インパクトがあって、そして面白くて、癒しがある漫画、というのがとてもありがたいです。磯兵衛はまさにそれ。処す？処す？や頭、高くない？ＬＩＮＥスタンプも重宝。ツイッターやＳＮＳではやるワードテンプレになりそうな予感。

アニマックス広報 / 西尾美里

■　さすがに対象年齢から外れてきてしまい、あまり目を通さなくなった少年ジャンプのなかで、唯一毎週楽しみにしてます。大人も子ども心に返る、すばらしいアホさ。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

「いちえふ」竜田一人

■　東北大地震からもう少しで４年。積極的に複数のメディアから情報を学ぼうとしなければ、一部の意図によって福島の現状がねじれ伝わってしまうことも少なくないようです。比較的読みやすいマンガという手法で、実際に現場で働いていた作業員の立場から福島第一原発の今を知ることができるのはとても重要な事ではないか？と考えます。

会社員 / 佐藤誠

■　原発。そこで働く苦労。を、重苦しくなく描いた作品。『今の勤め先、いろいろルールが多くて大変』位のノリなので、読む方も身構えずに読めます。

リブロ池袋本店　コミック売場担当 / 小池由記

■ 知りたくても知る由もない。みんな知りたくない素振りすらしている。そんな福島第一原発の「現状」を現場作業員という視点からほぼ誇張なく伝えているであろう作品。日本在住する人は必読の書！

本と文具ツモリ / 津守晋祐

■ 読まれるべき漫画だと思います。

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

「いとしのムーコ」みずしな孝之

■ ６巻を発売し、ますます面白くなっていくこの漫画。設定の新しさもあっての面白さ？と最初はおもってたけど、ますますムーコと、こまつさんの愛が深まってる気がするなー。最近、モコちゃんという柴犬としりあって、よくモフモフさせてもらってるのですが、犬って本当に表情あるよなーって感じる。ますます犬好きになってしまう一冊

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川ゆかり

「インベスター Z」三田紀房

■ 今の世の中、何が本質的に不思議かというと、ひとつは「投資」でしょう。ほとんど冗談ではないか、と思えるような金額の話が当たり前のように語られ、主婦や学生が簡単に儲けた！という話を聞き及ぶ一方で、破滅の話もちらほら聞く…！まぁ、「気にはなるけど、自分がやるものじゃない」みたいにして殆どの人が横に置いてあるものじゃないでしょうか。それを、三田紀房さんらしく事実をギリギリまでシンプル化して絞り込んで、短文で「ぐっ！」と読ませる。逆に舞台装置には架空の部活や幽霊的みたいなものを導入して、投資、という複雑であやしくもある話を、シンプルに伝えるために運用する。日本が戦後復活したのは、運が良かったからだ！とか、強い強い。大学の学費を投資で贖おうとする母子家庭の女子高生とそのお母さん、とか、あってもいいけどまだマンガに登場していないモチーフを登場させることも含めて、とっても、エキサイティングです。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

「ウィッチクラフトワークス」水薙竜

■ 一巻から応援しております作品。good アフタヌーンが創刊されたときにこの作品は特に画力、ストーリー共にずば抜けていたのを記憶しております。今一冴えない主人公多華宮君と今まであまり居なかったパーフェクトなヒロイン火々里さんの「魔法」という存在に翻弄されながらも二人で抗っていく。現在刊行中の巻では徐々に二人の過去も明らかになって来て更に面白さに深みが出てきました！ヒロインが滅茶苦茶強くて引っ張ってくれる学園ファンタジーが読みたい方には特にお薦めです！

バイイングマネージャー / 日吉雄

「ULTRAMAN」清水栄一、下口智裕

■ もともとウルトラマンを見てない人が楽しめるかはわからないが、オリジナルから引き継ぐ部分／変える部分のバランスが絶妙。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口靖彦

「ＳＫ８Ｒ’Ｓ」トジツキ　ハジメ

■ タイトルの読み方は『スケーターズ』。その通り、ありそうで無かったスケボー漫画です！とにかくスケボーのシーンがかっこよくて、勢いがあって、読みながらずっとワクワクしています。スケボーについても詳しく解説がしてあって、初めてスケボーに触れる人も置き去りにされること無くこの世界にハマれます。

伊吉書院　類家店 / 中村　深雪

「狼の口　ヴォルフスムント」久慈光久

■ 今年こそ一気読み大推奨。代官の揺ぎない悪っぷりが凄い。積もり積もっていく恨み辛みが凄い。剣戟が凄い。西洋甲冑が凄い。これだけ凄惨な歴史を描いておいてどこか清々しいのが凄い。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

「大きい女の子は好きですか？」愛染五郎

■ みーんな俺の嫁にしたいぐらい魅力的なヒロインたちが…、今年３度目のコメントですが、これまた魅力的なヒロインというかおっぱいが素晴らしい作品。男子主人公総受け、女性上位エロコメ。いやあ、大好きです！スカっと何も考えずに楽しめる、どこからでも楽しめるまさに娯楽作品として一級品の出来です！ただし女子にはちょっとオススメできないことご容赦くださいw

COMIC　ZIN　商業誌部門責任者 / 塚本浩司

「All You Need Is Kill」原作＝桜坂洋　作画＝小畑健

■ 桜坂洋の長篇ＳＦを（ハリウッド映画化に合わせて）さすがの画力でコミカライズした " 職人仕事 " の佳作。

書評家 / 福井健太

「おしえて！ギャル子ちゃん」鈴木健也

■ ギャルの主人公ギャル子とその周りの人々の学園生活を描いたマンガです。前半は軽い下ネタが多いので、そればかりなのかなと思いながら読んでるとそうではなく、どんな人とも分け隔てなく接する気のいいギャル子の性格がみえてきます。その性格でいろんなタイプの人を結び付けてゆく。特に、主要キャラの三人が仲良くなるきっかけのエピソードに感動しました。こんな子が近くにいたらどんなタイプの人も楽しく学校生活を送れるんじゃないかな。

システムエンジニア / 廣瀬 公将

■ ギャル子ちゃんがたいへんかわいかったので。

ライター / 芝田隆広

「おしゃべりは朝ごはんのあとで。」秀良子

■ 本編もおいしそうでたいそう面白いのですが、巻末の謎の生物と男性が共にごはんを食べるお話がなんだかとてもツボに入ってしまい何度も巻末だけ読みました。

恵文社バンビオ店　店長 / 宮川元良

「乙女戦争 ディーヴチー・ヴァールカ」大西巷一

■ フス戦争をテーマにするとは誰得かと思ったのですがおもしろいです

大日本印刷 / 佐々木愛

「おもいで金平糖」持田あき

■ 一粒食べれば願いを叶えてくれるという金平糖。食べた人は少しの間過去に戻り、恋や悩み事を乗り越えていきます。成就しない恋の話も多く、恋に限らず失った大切なものが必ず戻ってくるわけではないのですが、どれも深い愛情が伝わってくる短編集です。

Books アイ茗荷谷店 / 野口　忠義

「お前はまだグンマを知らない」井田ヒロト

■ 久々に立ち読みで笑って買いました。グンマの知られざる姿にお笑い。ちなみにグンマ県民に聞いたら黙認とのこと。神奈川県も作ってほしい

会社員 / 金子幸恵

■ グンマ、それは最後のフロンティア。日本人としていかがなものかレベルで、なんかいろいろおかしい。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

「お前は俺を殺す気か」シギサワカヤ

■ こういう環境になら殺されたいですー。どんな環境？と思ったら是非読んでみてくださいませ。

めがねっ娘教団 大司教・教務部長 / 田中海渡

「お慕い申し上げます」朔ユキ蔵

■ 正直に言うと、作品冒頭のエロにグッと来て読み始めたわけですが、この作品には「生きる」ってことがつまってます。仏教は学問だなんていいますが、この作品は堅苦しさなんかこれっぽっちもなく、学ばせてくれます。何度も涙を堪えました。ほんとは泣きました。

シンガーソングライター / 谷澤智文

「俺とヒーローと魔法少女」九段そごう

■ 新刊で入荷したコミックの表紙を見ておもしろそうと思い読んでみたら、地元センサーが作動しました。作者さんが鹿児島の方なのか今とても気になっています。魔法少女かわいいです。

金海堂イオン隼人国分店　コミック担当 / 園田美智子

「俺物語！！」河原和音／アルコ

■ 今までの少女漫画とは一線を画しつつも、甘酸っぱい展開はしっかり残す…名作じゃないでしょうか！恋愛エピソードはもちろん、友情エピソードや親子の絆も描かれる…笑いあり、たまにホロッときてしまう。そんな作品です。

株式会社スマイルアクス　営業大臣 / 岡村光徳

■ 大好き。

朝日新聞記者 / 小原篤

■ とにかく、主人公のルックスがぜんぜん少女マンガ的じゃなくていい。それなのに、1 話読んだら、良さが読者にストレートに伝わるのもいい。甘酸っぱいのがいい。無駄なハラハラも少女マンガにしてはすくない（1 話ごとにはあったりするけど）もいい。

メガマソ / 涼平

「orange」高野苺

■ 一時はどうなるかと思いましたが移籍できてよかったです。

マンガ研究 / 会田洋

■ 連載の休止でもう続きが読めないかもと思っていたので、連載の再開＆待望の 3 巻発売は本当にうれしかったです！そして 3 巻目にして、新たな展開！月並みな感想ですが、続きが気になって目が離せません。せつなくてもどかしい恋愛面だけでなく友情の描き方も丁寧で、何度も胸が熱くなりました。少女マンガの枠を飛び出した、大人も楽しめる青春ＳＦマンガです。

伊吉書院　類家店 / 中村　深雪

■ 未来の自分から届いた手紙に促され、まもなく死んでしまうはずのクラスメートを救おうと時間の流れに逆らう高校生たち。地方都市の１０代の日常（放課後、週末、部活、夏祭り……）をみずみずしく描きながら、大人になった将来の自分に後悔をもたらした悲しい経験を倒叙で語ることで、目が離せない緊張感が生まれている。とてもむずかしい物語運びになりそうだけど、破綻しないで終幕まで読み進ませてほしい。

日本経済新聞編集委員 / 天野賢一

■ 青春、恋愛、SF など様々な要素が盛りだくさんで満足度が高い！もちろん絵もかわいい。続きが気になる…。

公務員 / 東くるみ

「カオスノート」吾妻ひでお

■ 柔軟なスタイルで " 吾妻ひでお " のナンセンス体験を綴る『不条理日記』系の新作。今回はジャンルの要請やパロディからも自由だ。

書評家 / 福井健太

「賭けグルイ」河本ほむら／尚村透

■ ギャンブル狂いな女子高生の話。作中に出てくるオリジナルなギャンブルの設定がしっかりしていて面白いです。実際に痺れるギャンブルをした事がある人程アツく読めるのではないでしょうか。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「カツシン～さみしがりやの天才～」吉本浩二

■ マンガの完成度もさることながら、関係者への丁寧な取材力がすばらしい。誰でも読めるマンガであるのも見事。

まんたんウェブ副編集長 / 河村成浩

「かつて魔法少女と悪は敵対していた。」藤原ここあ

■ 基本は４コマ漫画でギャグでラブなんですが、１巻のラストでうっかり泣きそうになりました。藤原先生の描く女の子はすばらしい。魔法少女かわいいです。

金海堂イオン隼人国分店　コミック担当 / 園田美智子

「蟹に誘われて」panpanya

■ 前作で衝撃を受け、今作で完全に惚れた、惚れました。

Tokyo Otaku Mode Inc. / モリサワタケシ

■ 漫画を好きでよかった。panpanya は、唯一無二の世界に連れて行ってくれる。知らない街に来たような気分になって、心が解放される。是非 panpanya の世界を感じてほしいです。

シンガーソングライター / 谷澤智文

「彼女のカーブ」ウラモトユウコ

■ 女性のみみたぶや足、髪の毛など各パーツにスポットを当てた連作ですが、「女性の身体ってやっぱ芸術的だよな〜！」と読後にしみじみと思いました（笑）

ホビー系会社勤務 / 畑中 瀬路奈

「からかい上手の高木さん」山本崇一朗

■ 俺も高木さんに振り回されたい！思わず中学生に帰りたくなる隣のあの子が気になる思春期万歳なラブコメ。この甘酸っぱさはまさにサンデー！サンデーで育った自分にはたまらない一冊です。

COMIC　ZIN　商業誌部門責任者 / 塚本浩司

「がらくたストリート」山田穣

■ 漫画もいいけど他にもいろいろ楽しいことあるよね、と思わせてくれる少し不思議漫画。もっと続き読みたかった。

ライター / 縣丈弘

「カリュクス」岬下部せすな

■ 命令のままに流され、動く軍人気質な主人公沢村は、ある時『花の少女』と呼ばれるナデコと出会う。 花の少女とは種子から少女のみに寄生する病気を持った女の子の総称で、本気の恋をするとつぼみが発芽し草木を使った能力を使えるようになる。だが、花が咲いてしまうとその少女は寿命を迎え、苗床となる。そんな数奇な運命の中、出会ってしまった主人公とナデコの不器用ながらも一所懸命恋をする姿に胸を打たれる作品です。

バイイングマネージャー / 日吉雄

「かわうその自転車屋さん」こやまけいこ

■ 坂の上にある一見カフェに見える自転車屋さん「ストラーデ・ビアンケ」店長のかわうそさんがとにかく可愛い。パンク修理をする時にも小さいの桶の中ででびしょびしょになりながら作業したり、噴水の中で泳いだり。カフェに集まるお客さん達と一緒にほのぼのしつつ自転車に詳しくなれるおすすめの一冊。

主婦 / 戸田仁美

■ 文字通り、かわうそ店長がやっている自転車屋さんのお話なのですが、ここのカフェ（中でカフェもやっている）のパンケーキとピザが強烈に美味しそうなのですよ！特に山岳パンケーキ超級（10 枚重ね）はいつかチャレンジしてみたいー！ところで、上に書いた『超級』ってなんだと思います？これは自転車レースで最上級に難易度の高い（つまりは険しい）山岳区間のことを言います。そう、店長のやっている自転車屋さんは、ママチャリからロードレーサー、クロスバイクやリカンベント（寝そべって走る自転車）の取り扱いまでがあるのです。こやま先生自身が自転車に乗っている方なので、一般の人にもわかりやすく色々な自転車の話が描かれていて、またマンガとしてもとても面白いという、一冊で二度美味しいマンガなのでした。自転車に興味のある方は、ぜひ手に取ってみてください！

啓文堂書店本部 / 山川美香

「「ガンダム」を創った男たち。」大和田 秀樹

■ 『あの時代』を切り取った。『まんが道』ならぬ『ロボットアニメ道』熱い。

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

「機械仕掛けの恋」業田良家

■ ロボットと人間とのオムニバスストーリー。人間よりもロボットに感情移入してしまう。ロボットを通して人間の残酷さや身勝手さを見事に描いている。

うすいまりこ鍼灸治療院 / 碓氷麻里子

「ギガントマキア」三浦建太郎

■ 三浦建太郎の超画力が炸裂する SF 冒険活劇、そう、こういうのが読みたかった。『ベルセルク』がいまひとつ迷走してる今だからこそ、勢い良く始まって小気味良く終わるこのマンガが楽しいのかもしれない。2,3 年に 1 冊ぐらいのペースで単行本出てほしいなあ。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

「機動戦士ガンダム サンダーボルト」太田垣康男

■ 何を書いてもガンダムになるガンダムを。何を書いても太田垣康男マンガになる太田垣康男が描いたワンアンドオンリーなめぐり逢い。

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

「キヌ六」野村亮馬

■ 前作『ベントラーベントラー』より描写もストーリーも荒っぽいがこれはこれで。サイバーパンク漫画の秀作。

ライター / 縣丈弘

「今日のユイコさん」秀河憲伸

■ ユイコさんはちょっと面倒だけどかわいい・・・ではなくて、ちょっと面倒だからかわいいのだと読んでいくうちに気づきます。譲れないものも恋した相手なら譲れてしまうということを知ってしまう、そんな感じがいいと思います。

会社員 / 林礼春

「今日の漫画」史群アル仙

■ 昭和 89 年感？長編読んでみたい！

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 営業管理部 / 大山　敏樹

「ギャングース」肥谷圭介／ストーリー共同制作 鈴木大介

■ 暗いテーマを扱っているのに、自分の力と知恵だけで生き抜いていく少年たちの姿に元気づけられる。犯罪の手口はすべて実在、ということで、とてもリアル。あっという間に読み切るスリル。主人公カズキが決して見た目はよくないのに、かっこよく見えてきます。

アニマックス広報 / 西尾美里

■ 強く生きる少年達のストーリー…と言ってしまうと綺麗に聞こえますが、生きるために犯罪者をターゲットに叩く痛快さに引き込まれます。実話を元にしている部分が多いので、世の中の怖さを感じつつ…次の巻を楽しみにしてしまいます。

株式会社スマイルアクス　営業大臣 / 岡村光徳

「球場ラヴァーズ　～だって野球が好きじゃけん～」石田敦子

■ 球場に行って、ヒットにエラーに一喜一憂して、勝ったら喜んで、負けたら悔しがって。ああ、久しぶりに球場に行きたくなりました。いろんな感情にくるくるまわって、そうしながら生きていくのが人生なんですねぇ。球場のスタンドから巡る人生劇場、お勧めします。

めがねっ娘教団 大司教・教務部長 / 田中海渡

「きょうのスー」マツダユカ

■ かわいい絵で、『かわいい、かわいい』と読み進めていくと結構内容はヘビーです。身近なのによく知らないスズメの世界がよく分かる、かもしれない。

リブロ池袋本店　コミック売場担当 / 小池由記

「銀河パトロール ジャコ」鳥山明

■ マンガ大賞にふさわしいかどうか分かりませんが、鳥山明の真骨頂に触れられたのが嬉しく一票。今さらですが、自分は鳥山明のファンだったと再認識しました。

医師 / 岸本倫太郎

「銀盤騎士」小川彌生

■ フィギュア漫画であり、その王子様さながらのイケメン主人公・心くんが、実はアニヲタというギャップある設定萌え！小川先生の描く男の子が好きすぎて困っちゃうんです。たまりません ??。

フリーアナウンサー / 松尾　翠

「喰う寝るふたり 住むふたり」日暮キノコ

■ 長年付き合いつつ同棲しているカップルの心情を両方の視点から書いていて面白くてもどかしい。男女どっち主体なのかで話の感じ方が違うのが面白いのだけど、あぁ自分もこんな感じなんだろうなと、そしてお互いの立場に立てれば案外喧嘩は減るのだなぁと感じさせられるマンガです。

カメラマン / 平沼　久奈

「くーねるまるた」高尾じんぐ

■ なんてこともない。なんでもない。すてきな日常の食卓。お腹すいた。

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

「クーベルチュール」末次由紀

■ 「クーベルチュール」はイケメン兄弟がやってるチョコレート専門店。チョコレートが溶けるように、心のわだかまりもとけて幸せになるそんなお話。

主婦 / 紺野　泉

「クジラの子らは砂上に歌う」梅田阿比

■ 見えてきた世界の厳しさに戦慄している。分かってきた運命の残酷さに慟哭している。第１巻で想像されたとおりだったと、砂の海を行く泥クジラに暮らす者たちの正体が明らかになった第２巻。時を隔て、その運命を座して受け入れ、滅びることを厭わない老人たちの諦めを、年若い少年たち、少女たちは決して認めようとはしなかった。敵によって子供たちが殺され、泥クジラを導いていたリーダーも殺されてしまい、そして敵は未だ止まるところを見せずに攻撃を続ける。戦っても勝てず、反撃の芽すら摘まれた未来に見えるのはひたすらな絶望。それでも少女たち、少年たちは生き残るために、自分たちの価値を認めさせるために戦い続ける。さらなる悲劇に見えながらも、続く第４巻以降、逆転の未来はあるのか？　クジラの子らの運命は変えられるのか？　練り上げられた世界設定の上で繰り広げられる、罪を贖い理解を求め、過去を振り払って未来をつかもうとあがく者たちの物語。竹宮恵子の『地球へ…』、萩尾望都の『スター・レッド』に匹敵し、あるいは超えて行きさえもするＳＦコミックだと断じたい。

書評家 / タニグチリウイチ

■ 圧倒的な描き込みと、閉塞的だが魅力が多い泥クジラの世界。吹き荒れる砂嵐のような展開だった１巻のラストの衝撃は未だに忘れられない。今一番続きが気になる作品です。

LIBRO ecute 大宮店 店長 / 伊藤　晃

■ 重苦しい話が続きますが、世界観の設定や物凄く広がっていきそうなストーリーの虜です。

バンドマン / TA-SHI

「グッドナイト」南Ｑ太

■ 初めて読んだ時の衝撃が忘れられません。暗い穴に落ちていくような、もがいているような…そんな感覚に陥りました。子を持つ母親だけでなく、いろんな人に読んでもらいたい一冊です。

ホビー系会社勤務 / 畑中 瀬路奈

「くまみこ」吉元ますめ

■ 世間知らずの巫女と、しゃべる博識な熊・・・のボケ（巫女）とツッコミ（熊）の間の取り方が上手い (笑) ネタは真新しくなのに、なぜか笑ってしまう。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

■ 限界集落まっしぐらの山村にはご神体の喋るクマと、そのクマに仕える巫女の少女が…と意味深な導入から、都会に憧れる機械音痴で情報音痴の女子中学生と妙に世慣れたクマという対比がおりなす田舎コメディ

住職・ライター / 蝉丸 P

「海月と私」麻生みこと

■ 読めばふらりと旅に出たくなること請け合い。辺鄙な海辺の宿にひとり落ちついて、ほっと一息落ちついて、平凡な、でも「ここだけの」海をただ眺めたい。そんな気分になる佳品。現実にはまず出会えないハイダウェイ、理想の宿を舞台に展開する、じんわり効く質のいいホームドラマのような連作。くったり疲れている時、眠る前の深夜、手もとの明かりだけで読んだら安眠剤になりそう。実際、なった。

日本経済新聞編集委員 / 天野賢一

■ ストーリー実によく出来た漫画です、一級品！

Hair Make Lounge tetote / 力丸　真

「軍靴のバルツァー」中島三千恒

■ 舞台は架空の世界ではあるが、近世欧州の政治や軍事をよく調べて物語として消化し再構築されている。すごい。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

■ こちらも昨年に続いて推薦させていただきます。描写の細かさと、フィクション具合のバランスが絶妙に良いのでしょうか、変にシラケないで読み続けることができています。そして、単純にカッコいい（笑）

ミュージシャン／他 / 杉本善徳

■ やっぱりおもしろい！美しい絵と重厚な人間模様。まるで本当の近代史を読んでいるような興奮！

会社員 / 佐藤誠

■ プロイセンをモデルにした緻密な舞台設定や、詳細な軍事知識を元にした頭脳戦、複雑な人間関係、テンポのよいストーリー、とにかくスマートでカッコいい主人公と、ぐいぐい読ませる要素がたくさんです。読み終える度に、続きが気になります。

大学図書館司書 / 堀江千秋

「クリームソーダシティ」長尾謙一郎

■ サウナ的な漫画です、一生本棚にあると思います打ち切り理由が「謎の権力から圧力がかかってる」っていうのが本当かどうかわかんないけど、わかんなくてすきジャンル：サイケ

所属：スピードスターとキングレコード、肩書き：歌手 / 後藤まりこ

■ とある権力により、打ち切りにされたなんてニュースも上がっていた今作。というか帯にも書いてあった笑長尾謙一郎作品には毎回度肝抜かれますが、今作は更にひとつ先にイっちゃったような…。

シンガーソングライター / 谷澤智文

「GROUNDLESS」影待 蛍太

■ 紆余曲折あって単行本化！戦場に立つことになった奥様が優秀なスナイパーとして、生きていくお話。登場人物が多彩にストーリーを感じさせ、読み手に次が気になる作品だと思います！

デザイナー / 平沼寛史

「GREEN WORLDZ」大沢祐輔

■ 植物と巨大昆虫に支配されているという非現実的な世界なのに、しっかりして丁寧な描線で描かれることで、凄くリアルで現実感のある物語になっている。その丁寧さは人物造形にも反映されていて、ひきこまれる。

医師 / 岸本倫太郎

「月影ベイベ」小玉ユキ

■ 伝統芸能「おはら」を題材に「あ？何でそうなっちゃうのっ！」と地団駄を踏みたくなる程切なく甘酸っぱい想いがたくさん詰まっている「月影ベイベ」。それぞれの想いは伝わるのか！？

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部　大介

■ 男女の機微、不器用な主役 2 人のもどかしさ、ヒロインの母の秘密などの伏線がちりばめられており、次が気になる作品。男女問わず楽しく読める。

まんたんウェブ副編集長 / 河村成浩

「ケンガイ」大瑛ユキオ

■ 読んでいて心がヒリヒリした。変わり者である白川さんの成長過程とか作中で描かれていない部分が多くあり、3 巻で終わってしまうのが残念と思う一方で、実生活もこうやってなにも解決してないような感じで続いていくわけでこっちの方がかえって現実的かもしれないなんて思った。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

「幻想ギネコクラシー」沙村広明

■ 沙村広明さんのすごさは、コメディから残酷な、荒唐無稽のＳＦのような話、そしてアクションなど、新しい作品をよむたびに違う顔が見えるということ。耽美な絵とハードな話だけが共通点。エログロがＮＧだと厳しいけれど、大丈夫であれば、一気にその世界にはまってしまう。最近グロ描写の多い漫画が多くて、そのグロさに必然性がなかったり、軽いものも増えてきたかもしれないけれども、沙村広明さんの作品は、いつもガツンと重い。

アニマックス広報 / 西尾美里

「健康で文化的な最低限度の生活」柏木ハルコ

■ タイトルは生活保護の根拠となる憲法第 25 条第 1 項の条文です。区役所の新人職員としてケースワーカー（生活保護担当の職員のこと）となった義経えみるの目を通して、生活保護を巡る赤裸々な現状が描かれています。かなり踏み込んだ描写や表現が多々ありつつも、それが軽く流されていく様子がいやにリアルで、引き込まれます。生活保護制度に様々な議論がある中で、職員の目線からの描写は考えさせられることが多いのではないでしょうか。これからの展開を期待しています。

衆議院議員政策秘書 / 三葛敦志

■ 社会派の「くさみ」がついつい覗いてしまってもおかしくないテーマを取り上げつつ、カケラもそうはならず、読み手の興味をそそるストーリーマンガらしいおかしみを忘れない。それに引かれて読み進めるうち、時代の空気がちゃんと立ち上がる。柏木ハルコならではのちょっとあか抜けない女子の造形が、主人公の区役所の新人職員とぴったり。生活保護がマンガの題材になるとは思わなかった。マンガの可能性はまだ広い。

日本経済新聞編集委員 / 天野賢一

「絢爛たるグランドセーヌ」Cuvie

■ バレエを通した少女の成長ストーリー。奇をてらうことなく素直に読める作品

自営業 / 小野ゆうこ

■ 本格的なバレエ漫画だけど読みやすくて楽しい。男女問わずオススメ！

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

■ 久々に出た本格ダンスマンガ、といってもバレエで幼少の方が主役ですが、少しずつ踊りの楽しさを知って行くところが丁寧に書かれていて踊りたくなります。作者の方は本当に踊りが好きなんだろうなぁ

会社員 / 金子幸恵

「コウノドリ」鈴ノ木ユウ

■ すごいテーマ。目からウロコ。人間って産まれてくるだけでとんでもなくドラマティックなんだなって、あらためて思いました。

PENICILLIN / HAKUEI

■ 妊娠・出産をテーマに新しい命とのかかわり方を考えさせられる作品。シビアでもありながら、熱く、ユーモアもある。男性誌での連載というのも一味違う。

うすいまりこ鍼灸治療院 / 碓氷麻里子

■ 産婦人科医が担っている領域をこの作品を通じて知ることができた。考えさせられる作品

自営業 / 小野ゆうこ

「孔明のヨメ」杜康潤

■ 三国志と経済マンガを合体させた新境地。やや読み手を選ぶが、ぜひとも読んでほしい。

まんたんウェブ副編集長 / 河村成浩

「刻刻」堀尾省太

■ 時の止まった世界での物語に幕。緻密なプロットと突き詰めた心理描写が凄かった。

ライター / 縣丈弘

■ 時間停止ファンタジーもの。ストーリーも画も良い。８巻で完結したので、是非読んでみて欲しい。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田淳

「孤食ロボット」岩岡ヒサエ

■ とあるチェーンの定食屋が独身者用にポイント賞与としてプレゼントされる孤食ロボット。かわいくて、口うるさくて、少し切ない。読後感は心の端が少しだけギュッとなるものでした。

主婦 / 柴 架衣

■ 手間暇かけて自炊して、誰かと食べるご飯はやっぱり美味しい。食事について向き合う時間に、じんわりとします。うーん、あんなロボットがいたら欲しいかも。

教師 / 持丸宏司

■ ひとりぼっちの食卓に寄り添ってくれるかわいくて、小生意気な世話焼きオカンのようなロボットの物語です。なんだか疲れたなというときも読んでいるうちに、じんわり暖かくなって、まあ、明日もがんばりますかという気分になれます。ごはんがおいしくなる一冊です。

馬場企画 / 島影真奈美

「五色の舟」漫画・近藤ようこ、原作・津原泰水

■ ひとつの軸線に、異形の者たちが日々を精一杯に、懸命に生きていく姿が描かれる。女形として評判を取りながらも、その道から足を洗わざるを得なかった男に、小さな体にとてつもない力を秘めた少年に、背骨が歪んでかしいだ体を持った少女に、訳あって親から柳行李に入れられたまま捨てられた少年と、そして新しく加わった見た目は普通の女性が、川縁に浮かんだ舟に家族のように暮らしながら、四方を行脚し、その身体に備わったそれぞれの特質を売りにして、観客から見料を頂く。すなわち見世物の一座。奇異な目で見られ、日常の暮らしから遠ざけられながらも、虐げられることなく、見下されもしないで生きていられるその状況が、あらゆる異質を排除し、見下して虐げがちな現代にあって、どうにも愛おしいく映る。生きるに辛い時代だったからこその、誰もが生きていられることに飢えてた、その感情が連帯を生んだのだとしても、今また同じように不穏な時代に生きながら、誰かを見下げて生きていなけれ、ば平静が保てない人の心の荒み何なのかと考えさせられる。そして、もうひとつの軸線に、あり得たかもしれない可能性への憧憬が描かれる。“くだん”と呼ばれる謎の生き物を媒介にして、あちらへと、或いはこちらへと切り替わった人生が幸福であればあるほど、捨ててきた人生の辿った悲惨が浮かんで身を苛む。これで良かったのか。逃げずに今を良く変えるべきではなかったのか。そう感じさせられる。大戦末期というひとつの時代を舞台に、ＳＦ的な設定を交えつつ、異形の愛が通い交わされる暖かさを描き、支え合い生きていく美しさを描いた物語。原作の異端を、柔らかくて丹誠な近藤ようこの筆が、巧みに膨らませてそう描き切った、文字通りに傑出した、歴史に刻まれるべき漫画作品だ。

書評家 / タニグチリウイチ

「ゴーゴーダイナマイツ」小池定路

■ みーんな俺の嫁にしたいぐらい魅力的なヒロインたちがチームになっていく過程が丁寧に描かれて、ますますヒロインたちが魅力的に感じます。まだ踏み出したばかりの彼女たちですが、どう成長していくのか、本当に楽しみでこれまた次号が毎回楽しみです。あ、あと自分、たぶんチア服好きなんですよね。最近気が付きましたw

COMIC　ZIN　商業誌部門責任者 / 塚本浩司

「この音とまれ！」アミュー

■ 箏を題材にした青春漫画。心が温かくなる。何度読んでも泣ける。話もわかりやすくて読みやすい！はず！キャラが魅力的！やっぱり仲間って良いもんだなぁと感じる作品。

シンガー / 山野井千佳

■ 喜怒哀楽がすぐ顔に表れる初々しさにグッときます。頑張っても上手くいかない事があるけど、挫けずに支え合って生きるまっすぐさ、ひた向きさ。なんというか、青春って感じです。

教師 / 持丸宏司

「コンプレックス・エイジ」佐久間結衣

■ リアルなコスプレイヤーの心理描写。共通のコミュニティに属する居心地が良いが面倒な人間関係を的確に描く。共感できる点も多々あり、おすすめ。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田淳

■ １巻で読んで「うおー！」ってなりましたまじめ＆完璧主義の女の子に読んで欲しい的な気持ちで投票おもしろいです

所属：スピードスターとキングレコード、肩書き：歌手 / 後藤まりこ

■ 主人公たちが熱中しているコスプレのみならず、「他人におおっぴらにできない (と自分で思っている) 趣味」に熱中している全ての人に読まれるべき作品。楽しくて好きなことを、なぜ人に知られたくないのか。なぜ悪いことをしているわけではないのに後ろめたいのか。なぜ仕事と分けているのに非難されるのか。それが正しいか間違っているのか、賞味期限があるのか否か、決めるのは誰なのか。向き合ってもイタいことばかりだけど、目を逸らせないので、傷だらけになりながら読み進めたい。

アニメガ新宿マルイアネックス店 / 小田真弓

「ご注文はうさぎですか？」Koi

■ この可愛さ世界へ届け！可愛さを追求する四コマがあっても良いと思います！アニメ化で知った方も多いと思いますが、まだまだファン募集中です。自分の周りでは女性の方でも嵌った人もいらっしゃいます。 ほんの少しファンタジーが入っている所もまた魅力の一つです。

バイイングマネージャー / 日吉雄

「ザ・松田　超人最強伝説」平松伸二

■ この漫画に言葉はいらない！「いんだよ、細けえ事はッ！！」って言いたくなる漫画です。正に漫画的展開ッ！スカッとして笑いたい時に。

株式会社スマイルアクス　営業大臣 / 岡村光徳

「さくらの園」ふみふみこ

■ SF 的設定がうまく登場人物たちの可愛さや萌えを際立たせてる。

書楽 阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田充

「３０センチスター」北野詠一

■ バンドもの。音楽描写が特に優れているわけではないが、青春漫画として面白い。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

「山賊ダイアリー」岡本健太郎

■ 「猟師がマンションに住んでいて、ベランダで鳩を解体している」「罠を仕掛けるには免許が必要」「ミドリガメは食べられるが亀のニオイが凄い」「ヌートリアは意外とおいしい」とか、もう、次々と我々の想像を軽々と超えてくるこの大名作ルポマンガ 1 ページごとに驚きがやまないわけですが、最新刊では、リアルな猟の危険さが描かれてて、このディティールがたまらなく痛い…！！コメディの中で語られる真実が、一番ぐっとくるのは、なぜなんでしょうねぇ。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

「SHIORI EXPERIENCE ジミなわたしとヘンなおじさん」長田悠幸 / 町田一八

■ ジミヘンに取りつかれたパッとしない主人公が期限までに伝説残さないと死んでしまう・・・なんて、超ストレートな設定！とにかく明快で分かりやすい！ 分かりやすいから素直に読めるし素直に楽しめる。 今季、一番当たり前のことが当たり前のように表現されていてストレートに楽しめた漫画です。

デザイナー / 佐藤 ユウ

「じこまん」玉井 雪雄

■ ロードバイクに対する偏愛が凄まじ過ぎる。正に「じこまん」。でもその感覚が羨ましくなって、うっかりロードバイクを買ってしまいました。

PENICILLIN / HAKUEI

「14 歳の恋」水谷フーガ

■ 「14 歳」とぃう絶妙な年齢設定にまずは萌。読んでいるとニマニマとハラハラが止まらなくなります。二人の青春に恋い焦がれてしまう作品。自分の娘にも、こんな初恋してほしいわぁと思わずにはいられない。

うすいまりこ鍼灸治療院 / 碓氷麻里子

「死にたがりと雲雀」山中ヒコ

■ 寺子屋を開くいわくありげな浪人朽木と一押し込み強盗を働いた父親をもつ幼い少女雲雀。真っ直ぐな心持ちに救い救われ、迷い傷つきながらも日々生きていく江戸、下町の人情話

主婦 / 戸田仁美

■ 読む度に、2 人にはぜひぜひ幸せになってくれないと困るなー、と思っています。胸がぎゅうっとなる。

恵文社バンビオ店　店長 / 宮川元良

「死役所」あずみきし

■ 最初読んで思ったのは「シックスセンス」という映画です。　多分、頭が陥没しつつも、飄々とした佇まいの登場人物達が、この映画を連想させたのだと思います。死後の処理がお役所仕事だったら、というチャーミングな発想と、暗くなりすぎないストーリーと絵が非常にマッチしてます。　悲惨な死因を持つというより、現実にありそうで、ワケアリな死因の人達が、死役所を通って、新しい世界へ旅立つのを見送るのですが、いつしかミステリアスで淡々とした世界にのめり込んでしまいました。　どこか温かくユーモアで食えない人達に、事務的に見送られて旅立つのは、きっと心穏やかだろうなぁと。　死因に納得出来なかったり、身内に会いたくなったり、怖くなって逃げたり、そういった感情を抱くのは、私もきっと同じだろうな、死役所の人達も「またかよ…」ってウンザリするんだろうなぁと思うと、お仕事お疲れ様です、って言いたくなってしまったりして。　そして、 死役所通るんだったら、死後もそんな怖くないかな。　そう、思ってちょっと心が軽くなる気がしました。

JACK 鷲津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤沙織

「重版出来！」松田奈緒子

■　業界ものとして水準を超えた。もはや主人公なしで読者を引き込む。

弁護士　/　長島・大野・常松法律事務所 / 三村　量一

■　仕事に悩めるすべての人に。読んだ後、明日も頑張ろう！と思える作品。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

■　売れるマンガは愛されている。でも、愛されるような魅力的な漫画を作るのは、生半可な事じゃない。体を壊すまで働いたり、夢を諦めたり、人生をかけて漫画と向き合っている姿に胸が熱くなります。

教師 / 持丸宏司

「春風のスネグラチカ」沙村広明

■　この人の作品は、傑作『無限の住人』を除くと、えぐ過ぎたりエロ過ぎたりおふざけが過ぎたりと、非常に推しにくいのだが、こんなに真面目な作品も描くんだ！(失礼）と驚愕した一冊。歴史に材をとりながら、どんでん返しの連続というミステリー構造も見事で、小品ながら実に中身が濃い。それでいてちゃんとエロくて変態なのも素晴らしい。

読売新聞東京本社　編集委員 / 石田　汗太

■　1933 年のソヴィエト連邦を舞台として、湖畔の別荘に住む 2 人――車椅子の少女と寡黙な青年の運命を描く歴史ロマン。重厚なストーリーと率直な " あとがき " の配合もこの著者らしい。

書評家 / 福井健太

「純愛イレギュラーズ」新堂エル

■　二話目の「a 乳牛 life」にガツンとやられました。と言ってもエロ描写じゃなく、乳牛についての解説が。確かに視点を変えたら（というか変えなくてもちゃんと知っていれば）その風景はこう見えるよなと、まるで人の眼を借りたような気持ちで読みました。読んでいる途中に思わず正座して読み終えたマンガは初めてです。あと、牛乳が飲みにくくなりました。うーんうーん。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

「女ふたり原付で東日本縦断して水曜どうでしょう祭りに行って来た！」カワサキカオリ

■　どうバカ必見のエッセイコミック。カワサキ先生の行き当たりばったり感がステキ過ぎます。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「女子かう生」若井ケン

■　なんというか、世の中の男性が勝手に想像する女子校生（not 女子高生）なんだろうけど、僕も男性なので文句一切ありません。セリフなしで進む、可愛さのカタマリ。

メガマソ / 涼平

「就職難！！ゾンビ取りガール」福満しげゆき

■　前から好きだった福満先生。ついに本領発揮！？もしゾンビが世界にあふれていたらという想定の上で一番リアルな実践的ゾンビ漫画といえるのではないだろうか。(個人的に思っているだけだが) 日常と非日常のバランスがとても良い。とにかく面白い！

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋修一

「女郎ぐも　日本ふしぎ草子」戸田誠二

■ 衝撃的でした。日本昔話が、戸田さんが描くとこんなにドラマチックになるのかと。感動しまくりました。とにかく沢山のかたに読んでいただきたい本です。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

「少女終末旅行」つくみず

■ いわゆる終末世界もの。非日常的な状況の中、登場人物の日常が展開される空気感が良い。何の説明もない廃墟と軍装が想像力をかきたてる。続刊が楽しみ。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田淳

■ まさに終末という言葉が合う冷たく固く無機質な町の景色。一方で少女ふたりは丸くとても柔らかそうに描かれている。パースを強くきかせた静かな画面に収まったこのくすぐったいコントラストがひと目で読者をつかむ。

往来堂書店コミック担当 / 三木雄太

「昭和元禄落語心中」雲田はるこ

■ 落語は独りで正座したまま複数の登場人物を演じ分ける。姿勢を変え、顔付を、声色を、仕草を変え、全く違う人格を演出する。画と台詞で無限の表現ができるマンガという様式は、場面によってキャラクターの顔や体型をいくらでもいじることができるため、落語をネタにするうえではある意味ズルい部分もあるかもしれない。が、この作品はそういったマンガの持つ表現の幅の広さをフルに使って、落語の魅力や凄みをたっぷりと伝えている。この作品の真骨頂はやはり落語根多のシーン。見開きにあるコマというコマは、根多を披露しているキャラのアップで埋め尽くされる。しかしそれは単調なものではなく、キャラの表情の変化はもちろん、画の描線やフキダシの形、コマの大小で落語の緩急が表現されており、キャラの息遣いや高座の匂いまでもが感じられるような、エキサイティングな画面になっている。そういった表現の手腕ももちろんのこと、主人公の師匠「八代目 有楽亭八雲」の恐ろしいほどの存在感も、大きな魅力。危うげな初老の男性ながら、漂う色気、高座に立つと豹変する名人っぷり。既刊 6 巻のうち、現状で半分以上の尺を八雲師匠の過去編で占めているため、もはや正主人公を食う勢い。彼が落語を続ける理由、ただのチンピラでしかなかった主人公「与太郎」を弟子に取ったわけ、そして本作のタイトル「落語心中」の意味、その辺が過去編に濃縮されている。余談だが、私のごとき落語素人からすると、登場人物たちの使う江戸ことばが堪らなくカッコイイものらしく、知らず知らずのうちにしゃべり方が感染ってしまっていたようで、上司に喋り方を注意されることがこのマンガを読んで以降、増加する傾向にある。用法、用量を守って読み込むのが良いであろう。

株式会社アニメイト / 岡ノ部亭 真泰

■ 進むも退くも地獄の瀬戸際で助六が切った啖呵。素晴らしい飛躍、納得の着地。お見事でした。

朝日新聞記者 / 小原篤

■ どんどん盛り上がる人間関係！幸せなことと哀しいことを繰り返しながら、人々が敗戦後の日本で生きてゆく様子が、落語を通して描かれている面も魅力的。マンガを通して、過去 (伝統) と現在 (変革) が混ざり合って、新しい未来が作られようとする過渡期に立ち会えている。独特の艶のある線で描かれる世界と和装にのめりこんでしまう。

アニメガ新宿マルイアネックス店 / 小田真弓

「新黒沢 最強伝説」福本伸行

■ 前作もすごいけど、今作のほうがすごい！

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

「真人キエッタ」鳥飼仁

■ 古代中国をモチーフとした国々とその国家間の戦争に介入する仙人たち、というまま見られる設定ながら王道少年マンガとしての絵の力が非常に強かった。戦争を盤面上のものとして読ませる感じも痛快。残念ながら 2 巻完結と駆け足になってしまったが、次回作でのリベンジが期待される作家。

往来堂書店コミック担当 / 三木雄太

「死んで生き返りましたれぽ」村上竹尾

■ 瞳だけの絵に衝撃。マンガは、こんな描き方もあるのか！と目からウロコが落ちました。

朝日新聞記者 / 小原篤

■ 健康って…健康って…奇跡なのかもしんない。再検査じゃなかった喜びをこんなに噛みしめたのこのマンガのせい。さよならタマちゃんと一緒に並べる感じ。

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 営業管理部 / 大山　敏樹

■ 生きていることと生きていくことは違うのだなと、改めて感じた。意識がはっきりした途端、見ている風景（絵）が変わる。これは本人でなければ描けないこと、絵でなければ表現できないことだと思う。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

■ 闘病記だけれど、むしろ闘心記といったほうがいいかもしれない。作者の心の葛藤があまりにも赤裸々で壮絶。生と死、絶望と希望、周囲のひととの交流。だんだんと自分を取り戻していくさまに、胸を打たれた。

主婦 / 安田奈緒美

「スティーブ・ジョブス」ヤマザキマリ / ウォルター・アイザックソン

■ まず、モチーフが分かりやすく興味を沸かせますが、他にもあるジョブスの漫画と異なるのは良い意味で”嘘”が無いこと。だって絶対友達にも上司にもしたくないですもの（笑。 よく言う偉人はまるで神か何かのように言われがちですが、こうまで人間臭すぎると逆に偉人てみんなこんな感じだったんじゃないの？なんて思ったりして。一時同じ時間生きた偉人を知れるのもいい機会と思います。

デザイナー / 佐藤 ユウ

「スティーブズ」うめ

■ あのひとの見ていたものを見たい、近づきたい、と思うなら必読の一冊。これからが楽しみ。

Tokyo Otaku Mode Inc. / モリサワタケシ

■ うめ印全開！熱いセリフとハッタリの効いたコマ割りは健在。リスクテイクって言ってみてー。相変わらず働く人間の心をグラグラ揺さぶってくれます。

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 営業管理部 / 大山　敏樹

「ストラヴァガンツァ - 異彩の姫 -」冨明仁

■ シリアスモードで読んでいると突然すごいギャグを入れてくるセンス、最高です。読み進めながらどうテンションを持っていけば良いのか分からず、思考をブンブン振り回される感じが個人的には大好き。

醤油製造業 / 小野塚博之

「スピリットサークル」水上悟志

■ 1 冊で 1 シリーズ読ませたような凄まじい構成とストーリーテリングは圧巻！

Tokyo Otaku Mode Inc. / モリサワタケシ

「すみれファンファーレ」松島直子

■ 真面目すぎる主人公すみれの恋はやっぱり真面目…。でもその丁寧な思考には大人になってもぶつかる自己との見つめ合いに溢れてます。登場人物もすべていい子すぎる子達なんですが、フィクションなんだからいいじゃない。読んだら心が洗濯できる、そんな漫画です。

WEB デザイナー / 河本 智芳

「セキセイインコ」和久井健

■ 3 巻から面白展開になりました！

大日本印刷 / 佐々木愛

「Z」相原 コージ

■ 人間の醜い部分が剥き出しだったり、純粋な愛情が実を結ばなかったり、救いがないはずのに何か光みたいなものを期待してしまう変な作品。

PENICILLIN / HAKUEI

「セトウツミ」此元和津也

■ ただただ関西の男子高校生が放課後ダベってるマンガ。それなのになぜだか何度も読み返してしまいました。疲れたとき、悩んでるとき、、、これを読んだら「まぁいっか！」となる、ような気がします。ギャグだけどもほんのり青春テイスト。時間を無駄にすごせるのって、それこそ若者の特権ですよね〜。（遠い目）

三省堂書店そごう千葉店 係長 / 内野　智未

■ 男子高校生二人の熱くない青春。学生時代、とくに何にも熱中しなかったけれど、くだらないことを延々話した友達はいた、という人はきっと共感できるはず。主人公たち以外のキャラクターも、いい味出してます。

大学図書館司書 / 堀江千秋

「千年万年りんごの子」田中相

■ 読者が結婚しているかどうかで感想が変わるかもしれないが、個人的にはめちゃくちゃグッときました。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口靖彦

■ 土地の風習に引き裂かれる夫婦…ってなことを書くとメロドラマみたいだけど、描写がていねいなのでそんなこと感じなかった。夫婦間の愛情の細やかさ、そして土地に伝わる風習の不気味さなどが絶妙な配置で詰まっていて、読んだあとに全 3 巻という短さに驚いた。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

■ 昔の日本には不思議な力をもった神聖なものが今よりたくさんあって、当時の人々は恐れと憧れを抱いてそれら共存していたように思います。このマンガはそんな時代にお見合結婚した二人を軸にした物語です。受け入れざるを得なかった関係や、神聖で恐ろしいものから与えられた呪いの中で、徐々に心を通わせて、恋人になり、夫婦となる過程がとても美しいです。

システムエンジニア / 廣瀬 公将

「戦闘破壊学園ダンゲロス」横田 卓馬 (著), 架神 恭介 (原著)

■ 異能学園バトルといえば最近多くなってきたジャンルではあるが、この作品は一味違う。肝心の能力がみんな面白いのだ。男性のキンタマにウイルスを仕込ませて爆発させたり、カレーの辛さを自在に操ったりと、こんな能力ありなのか？と笑ってしまうものが多い。そんなキャラクターを、能力を見事に作者は操って、壮絶なバトルを演出させた。番長グループと生徒会グループの抗争を描く本作だが、戦争となれば誰がいつ死ぬかは分からない。ご都合主義が無いのもまた緊張感があって良かった。

LIBRO ecute 大宮店 店長 / 伊藤　晃

「SOUL CATCHER(S)」神海英雄

■ 週刊少年ジャンプ⇒少年ジャンプ NEXT ！への移籍連載という異例の経歴をたどった、吹奏楽部マンガ。「人の心が見える」不思議な感覚をもつ主人公が、心を揺さぶる音楽を奏でるために、吹奏楽部の指揮者を目指す物語。人の心が見えてしまうせいで人間不信になっていた主人公の神峰クンが、自分の力が人の心を救うこともできる、と気づくのが物語の始まりで、そこからは吹奏楽部各パートにあるわだかまりや人間関係のほころびを、相手と正面からぶつかっていくことで解きほぐしていくというのが大まかなストーリーとなる。…とかいうと割と良くありそうな話なのだが、決して神峰クンが上から目線で人に説教をするだけとか、そういうシンプルな話ではない。人生の大半を人の心の悪い部分をみて育ってしまっただけあって、基本的に神峰クンは人が怖い、ビビリである。しかし、天才サックス奏者の同級生、刻坂クンと運命的な出会いを果たし、誰かと「人の心を掴んで動かす演奏」をすることを知ってからは、人との関わりから逃げていた自分に決して戻るまいと、膝を震わせながらも必死で人と関わろうとしていく。このマンガは少年漫画であり、バトルマンガでもある。戦う相手は悪者でも化け物でもなく、「同じ部活の仲間」。神峰クンは心が見える目を持っているが、魔法の武器や必殺技があるわけでもない。敵は、冷ややかな目で見られたり、どなられたり、自分の頑張りを無視されたりという、この上なくリアルで怖い技で攻撃してくる。それを「怖いけど、それでも人とちゃんと関わる」というスタンスと工夫で乗り越えていく様は、凡百な超能力バトルモノの何千倍もワクワクさせてくれるのだ！今のジャンプコミックスの中で、「友情・努力・勝利」をもっともよく体現している作品なのではないだろうか。

株式会社アニメイト / 岡ノ部亭 真泰

「その女、ジルバ」有間しのぶ

■ ふとした瞬間に年をとるのが怖くなったり、すでに年を重ねてしまったことにしょんぼりした気持ちになることがあります。でも、この作品を読むと、そんな悩みや戸惑いが案外ちっぽけなもので、年をとるのも楽しいもんだなと思えてきます。作中に登場する高齢ホステスの面々のひとことひとことは含蓄があったり、なかったりするけれど、生きてきた女の強さに満ちていて元気づけられる一冊です。

馬場企画 / 島影真奈美

■ 自分の居場所を見失っている 40 歳の主人公が見つけた場所は高齢の女性たちが働く BAR だった…。回を重ねる毎に主人公の新の魅力が増して行きます。生きていくために、誰かのために、何が出来るのか、考えながら読んでいます。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

■ 有間しのぶさん、もともと好きだけど、この作品はモンキーパトロール以来の傑作に思えます。辛いことも多いけど、助けも多いってのは幸せなことなんだなあとしみじみ。小さな幸せがたくさんあって、じんわりほっこりする作品。大好きです。

主婦 / 柴 架衣

「高台家の人々」森本梢子

■ 主人公木絵ちゃんのすばらしい妄想ぶりにいつも笑ってしまいます。読んだあとのほかほか感が心地よいです。

福島県ブックエース上荒川店・コミック担当 / 倉本かおり

■ 主人公の妄想が牧歌的で癒される…。少女マンガの王道的ストーリー展開も良い！

公務員 / 東くるみ

■ ただの少女マンガだと甘く見て、電車の中で読んだりするのは、要注意！吹き出します。主人公の妄想がなんともぶっ飛んでいて、かわいく、面白い。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

■ 「人の心がよめる兄妹たちの話」と書くと、大概ドロドロしたものを思い浮かべそうなものですが、この作品に関してはほぼ皆無といっていいほどそんなことはなく。正確にいうならば「人の心がよめる兄妹たちが、凄まじい妄想癖のアラサー女子との交流をはかる」といったところでしょうか。人間の想像力の「可能性」を感じざるを得ない。恋愛にかなり障害のありそうな能力にもかかわらず、それとうまくつきあっている兄妹たちの雰囲気がすごく気持ちいい。笑えてじんわりできる作品とはこういうものをいうのだな、と。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

「だがしかし」コトヤマ

■ 一言でいえば「駄菓子紹介ギャグ漫画」。田舎の駄菓子屋を継がされることを全力で拒否しつつ漫画家を目指す主人公鹿田ココノツ。そこになぜか（本当に、なぜか）都会的雰囲気を持つ美少女枝垂ほたるが来て、ココノツを跡継ぎにすべく、実在する様々な駄菓子の魅力を紹介する、というお話。ココノツの父とほたるのボケっぷりが微笑ましく、スナック菓子のように軽くいただける作品です。ノリは安永航一郎さんのキャラに近く、ドヤ顔･決めポーズですっとぼけたセリフをのたまうところは懐かしさすらあります。

衆議院議員政策秘書 / 三葛敦志

■ 懐かしの駄菓子を題材に、ひなびた田舎の駄菓子屋を継ぎたくない主人公と、なんとしても店を継がせようとする謎の美少女という駄菓子コメディ。最近では久しぶりの気合いの入った目力がある作品

住職・ライター / 蝉丸 P

■ 意外とありそうでないジャンル。「駄菓子」をテーマにした作品。僕らが子供の頃いつも通っていた駄菓子屋。その個々の商品にスポットをえらい勢いでぶつけてくる少女。そして、それを冷静に見る少年。駄菓子屋に行きたいです。

デザイナー / 平沼寛史

「たそがれたかこ」入江喜和

■ とにかく主人公像が新鮮でした。

マンガ研究 / 会田洋

■ この漫画がヒットしたら、生きづらい世の中がちょっとだけ変わるんじゃないかな、と思うのです。なので激プッシュさせていただきます。たかこさんは今一番ロックなキャラだと思う。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

■ おもしろい！続きが気になるいい漫画です「おかめ日和」の要素と「のんちゃんのり弁」の要素がいい感じに感じられて、しかもちゃんと「たそがれたかこ」してて嬉しかったですキラキラ感ジャンル：フラワーカンパニーズ的な

所属：スピードスターとキングレコード、肩書き：歌手 / 後藤まりこ

■ この漫画を読んで、自分の生活と少し離れた、違う人達が集まる近所の場所が欲しいと思い、気になっていたけどスルーしていたバーに勇気を出して入ってみて、楽しいです。私の現実の行動に影響をくれたので感謝をこめてオススメ。

WEB デザイナー / 河本 智芳

「田中雄一作品集 まちあわせ」田中雄一

■ 奇想あふれる物語で新鮮でした。虫のデザインなども良い具合です。

ライター / 芝田隆広

■ 異形がとことん気持ち悪い。生理的嫌悪を催す。脳がぞわぞわする。そしてその異形っぷりこそが、人間存在に対する強烈なカウンターになっていた。SF だ！

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

■ 目を背けたくなるような異形の虫や異性人が地球にいたら……。 4 編の作品はどれもこの世の終息を感じさせる世界で、人間は、ちっぽけな存在なんだと突き付けられる。 読み終わった時、感動とは少し違う靄が胸の中で漂って、離れられなくなった。そしてまた、読み返してしまう。

LIBRO ecute 大宮店 店長 / 伊藤　晃

■ グロテスクで異形のものの中にある、人の思いの尊さ。

書楽 阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田充

「弾丸タックル」佐藤由幸

■ 久しぶりに「すんげー面白い！」と興奮して読んでいる青春スポーツマンガです。アマレス経験のある作者が描く試合のシーン、技一つ一つの描写には説得力があって、自然と手に汗握っています。

Books アイ茗荷谷店 / 野口　忠義

「ちーちゃんはちょっと足りない」阿部共実

■ たとえば寝る前に宿題を忘れた事に気付いた時、たとえば悪いことをしてしまった所を偶然友達に見られてしまった時。「ああ、明日は絶対先生に怒られる」「お願いだからお母さんには言わないでください神様お願いしますお願いします」そんな風に布団の中で頭を掻き毟りたくなった思い出がある人には、ガツンとくる一冊だと思います。もちろん私も読みながら頭を掻き毟りたくなりました。

ホビー系会社勤務 / 畑中 瀬路奈

■ 僕が漫画家だったらこの人の漫画を読んでしまったら嫉妬に狂ってたと思いますおもしろいですやばいすでも投票するのはちょっと迷いました作者の方がこの作品のイメージがつきすぎたらやだな、、と勝手に思いました、この人の漫画いっぱい読みたいので迷って欲しくないからめちゃおもしろいです

所属：スピードスターとキングレコード、肩書き：歌手 / 後藤まりこ

「地球生まれのあなたへ」馬瀬あずさ　冲方丁

■ とてもとても泣けました。「生きている」って、なんてうれしいことだろうと思いました。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

「父とヒゲゴリラと私」小池 定路

■ 妻を亡くした兄と娘の家へ家事手伝いとしてヒゲの巨体である弟が同居することになり…と、導入からドラマを感じさせ、新しい出会いや失ったモノへの強烈な郷愁など 4 コマで最大限の効果を引き出している良作

住職・ライター / 蝉丸 P

「ちちゃこい日記」サワミソノ

■ 細かいところまで地方都市の中学生の生活感があってグッときました。

マンガ研究 / 会田洋

「ちひろさん」安田弘之

■ ちひろの時から愛読しています。安田さんの描く心の奥のグレーな感じ、感情をぶちまける感じが何か心地よいです。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

「茶柱倶楽部」青木幸子

■ 「日本茶」の広くて深い世界を垣間見せてくれる一冊です。とにかく出てくるお茶がおいしそうでおいしそうで、茶葉を買いに走りたくなるし、マネして入れてみたくなります。時に国境を越えて描かれる、その土地の味、その土地に住む人のエピソードがまた楽しく、行き先を決めない旅に出たくなる作品でもあります。

馬場企画 / 島影真奈美

「懲役 339 年」伊勢ともか

■ 若さに満ち溢れた挑戦的な作品。

書楽 阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田充

「月に吠えらんねえ」清家 雪子

■ 設定も展開もぶっ飛んでそうで実は凄く練られたストーリー、登場人物達が史実とどう絡みながらこれから皆どうなっていくのか、不穏な空気がしますがもの凄くこれからが楽しみな作品です。

バンドマン / TA-SHI

「Dimension W」岩原裕二

■ 世界観にやられました。かっこよすぎるぜ。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

「手紙物語」鳥野しの

■ 萩尾望都先生、市川春子先生の作品が好きな人は、いますぐこの作品集を読むべし！これまでの鳥野しの先生の作品とは一味違う、ジャンルが別の 5 つの作品が詰まっている本なのですが、その中でも特に見事な推理物に仕上がっている『シュレディンガーの恋人』と、涙が出るＳＦ『星の林に月の船』が個人的には大好きですねえ。まるでキャンディボックス、もしくは宝石箱みたいでした。男性諸氏、どうか手に取ってみてくれないですかね。きっと面白いと思うのですが。

啓文堂書店本部 / 山川美香

「デスコ」カネコアツシ

■ スピーディなストーリー展開と、怪しい雰囲気を醸し出す懐かしいようで新しい刺激的な作画。

弁護士　/　長島・大野・常松法律事務所 / 三村　量一

「デストロ２４６」高橋慶太郎

■ 「ヨルムンガンド」シリーズがアニメになって人気となるなら、続くこの作品も同様にアニメになってしかるべきだと思うものの、読めばそれは無理だと分かる。なぜならあまりに容赦がない。第１巻から、殺し屋として育てられた少女２人を南米で買い取ったと同時に、前の飼い主を殺害させる描写があり、日本で殺し屋を続ける少女と激突させる展開もあってと、出てくる少女たちの誰１人として、真っ当と言われる日常を送っていなかったものが、巻を重ねて少女たちが次々に登場して来ても変わることなく、誰もが殺し屋であり、ヤクザの娘で麻薬の元締めであって、そして殺し合いしのぎを削りあいながら進んでいく。そんな世界が、この現実に本当にあるのかは分からないけれど、誰もが日常にシームレスに非日常を持ち込んで、殺し殺される毎日を過ごしている様に、そういう世界があっても不思議はないのかもしれないと思えてくる。街を歩く女子高生が、スカートの中に拳銃を吊り下げていても驚かなないし、オタクのように見える女子高生が、鞄から毒薬を取り出し振りまいても不思議ではない、のかもしれない。最新刊で南米から来た２人の少女の殺し屋たちが主を失い、そして最強ともいえる殺し屋もあらわれどんなぶつかり合いを見せ、そして誰が勝ち残るのか。興味は尽きない。終わるまで。

書評家 / タニグチリウイチ

「デッドデッドデーモンズデデデデデデストラクション」浅野いにお

■ これぞ、浅野いにおさん！という１巻から求めている匂いが充満している作品です。正直、終わり方がもし不明瞭になってもかまいません。こういう作品や匂いが大好きだし、それが支持されている理由かと。おんたんみたいな学生でした、性格のみ。

メガマソ / 涼平

■ 帰ってきた。（いまのところ）明るい（ような気もする）浅野いにおが帰ってきた（うれしい）でもこの見え隠れする平穏の中の不安。不安の中の平穏。どうなるのか（大期待）

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

「天間荘の三姉妹」高橋ツトム

■ 生死の境にある天間荘。ここで現世にもどるかこのまま逝くのかを決めるのだけどそこの町で暮らす人たちは死後の人たち。生死の境をさまよっているたまえちゃんがここで経験するとてもあたたかくそして辛い経験がグサグサきました。高橋ツトム先生の影響されている 2011 年以降の世の中の出来事（地震や原発）のことも心にきます。

カメラマン / 平沼久奈

「天智と天武」中村真理子、園村昌弘（原案監修）

■ 大化の改新、白村江の戦い、中大兄皇子と大海人皇子の確執、と聞けば、古代史ファンのみならずふと歴史ロマンを感じる方もいらっしゃるでしょう。それが､荒々しい｢新説｣であればなおのこと。蘇我入鹿暗殺の乙巳の変（我々の頃はそんな名前はありませんでしたが）にはじまり、権謀術数渦巻く宮廷模様が展開されます。でも、あれれ、中臣鎌足がいない（読者はお分かりでしょうが…）。中大兄皇子のヒールっぷりがたまらず、憎み合いながら惹かれあう兄弟の描写が BL 的なアレだったり、あの人が朝鮮半島に渡っちゃったりと､｢新説｣としてもやり過ぎでは、と思うところもありますが、それが勝者の歴史としてお行儀よく日本書紀に描かれたとすると、なかなか面白いです。

衆議院議員政策秘書 / 三葛敦志

「東京スーパーシーク様！！」さぎり和紗

■ 何も考えずに笑いたい時におすすめ。こんなシークはイヤだ…。でもよく考えるとシークとして間違ってはいない気もする。

リブロ池袋本店　コミック売場担当 / 小池由記

「東京タラレバ娘」東村アキコ

■ こういう題材はいくつも読んでいるはずなのに、なぜにこうも響くのか。近年の東村アキコさんは全てにおいてキレッキレで、彼女の手の中でコロコロと転がされることが喜びです

bar 図書室　店主 / 岡部愛（のん

■ アラサー女子に是非読んでいただきたい作品。痛すぎる！心当たりがありすぎる！・・心当たりがありすぎる！笑

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

■ タラとレバーの擬人化とか、相変わらずフード作家の面目躍如。東京でオリンピック開催のニュースに、すわっと脊髄反射してこの作品が描けるってすごい。１００m 走しながら碁を打ってる感覚か？　それにしても、東村さんは、いつも傑作が同時進行しすぎる。たぶん過去にも、ばらけた票を足したら一番、という年度もあったかもしれないです。「かくかくしかじか」や「メロポンだし！」と今年も票が割れそうな悪寒。「東京タラレバ娘」に入れましたが不安。どうか、票をまとめて足してください！的な懇願。（ちょっと韻を踏みました）

お菓子研究家 / 福田里香

■ リアル過ぎて震えた。私はもう既に結婚していて幸せなはずなんだけど、読み終わった後の読後感は、なんと言うか心がざわついてしょうがなかった。東村アキコさんも、二回目ではあるけど結婚もされていて、可愛い子供までいるのに、何故あんな作品があそこまでリアルに書けるのか？独身アラサーの年収が増える一方の友人は、読み終わった後、立ち直れないかと思ったと申しておりました（笑）

主婦 / 柴 架衣

「東京心中」トウテムポール

■ コイツらの未来がわくわくするほど楽しみです。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

「東伍郎とまろすけ」長月キュー

■ まろすけちゃんが兎に角可愛い。何でしょう ...。お侍さんが、猫に萌えてると、何であんなに可笑しいのか。バンジーもふもふは、衝撃的でした (笑)。笑いだけではなく、感動するところもあるので、ご安心ください (笑)。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

「トクサツガガガ」丹羽庭

■ ディープな特撮オタクである主人公が、世間体を死守しつつ趣味の道を突き進むさまがいとおしい。特撮好きって、いまの 20 代あたりだと絶妙に肩身が狭く、アニメとかマンガが好きな、いわゆるオタクなクラスタの中でも結構マイノリティにあたる。「特撮が好きなだけであって、別にアニメとかには全く興味はない」なんて人もいるくらいで、特撮好き＝オタク＝アニメも好き みたいな早合点をされるのが嫌なためオタククラスタの中でも妙な遠慮が出てしまったりと、苦労しているものらしい。このマンガには、「特撮オタクであると一般人 (便宜上の表現) に思われないための逃げ方」「ファミリー向け施設に行った時の振る舞い方」など、特撮オタクあるあるが満載されている。対象が一般的な知名度のある特撮ヒーローものだけあって、「俳優の○○くんがカッコイイから見てるだけ」「親戚の子どもがおもちゃ欲しがってて…」といった絶妙で生々しいごまかし方が笑いを誘い、昨今妙に流行っているアニメオタクもののラノベやマンガとは一味違った味わいがある。がんばれ仲村さん！特撮大好きな大人のみんなで仲村さんを応援しよう！

株式会社アニメイト / 岡ノ部亭 真泰

■ 「マンガ大賞」というスケール感の作品ではないが、ほのぼの楽しめる。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口靖彦

「独身 OL のすべて」まずりん

■ アラサー独身 OL の毒をコトコト煮込んだ灰汁のようなマンガ（最高に褒めてます）激オモロ。

京都精華大学特任准教授 / ひでつう

「どぶがわ」池辺葵

■ 個人的には孤独死もありだなと未来に希望が持てました。フード描写として、こんなにもきらめくフォアグラはない。

お菓子研究家 / 福田里香

「とりかえ・ばや」さいとう ちほ

■ 古典のとりかえばや物語がこんなにも美麗で、ドラマチックな物語になるとは！ウテナでさいとうちほさんの絵にくぎ付けだった人ならこのストーリーはたまらないはず。

アニマックス広報 / 西尾美里

「ドリフターズ」平野耕太

■ 4巻まで来てなお冴え渡るギャグと血しぶき！（いやいや決してそういう話なわけでは）世界中の歴史の中から有名人を片っ端から集めてきて合戦させてみようぜー！イエーイファンタジィ！あ、ファンタジィならエルフとかドワーフとかも参加させちゃえ！とかヒラコー先生が思ったかどうかはともかく。とにかく、面白いのです……！今、刊行を待っているコミックスの中で一番読むのを楽しみにしていて、また読んでワクワクするマンガがこれかも知れないなあと思っています。昔のマンガが持っていた、未知なる物への純粋な興味と冒険活劇の面白さ。ベルばらや七つの黄金卿とかビルカビンバとかその他もろもろの作品の、直系の子孫なんじゃないのかなあこのマンガは、と、読んでいてふと感じたのでした。血まみれだけど。信長くんはあれだけど（笑）←大好き

啓文堂書店本部 / 山川美香

■ 新刊を書店で見かけて、毎巻展開する物語に嬉々としています。

ネビュラプロジェクト / 小森和博

■ 荒廃した世界観は前作のヘルシングの雰囲気のそれに近いです。面白いのはそこに過去の偉人たちのコラボ企画を組み合わされた点が、ある種お祭り騒ぎのように感じる点です。嗜好さえあえば間違いなく深く楽しめるとも思います。ただし、そもそもマスをターゲットにしていないようにも感じますのでその点はご注意を。

デザイナー / 佐藤 ユウ

■ 去年のマンガ大賞に投票しようと思ったら、まさかの当該年度の単行本発刊なし！　というわけで、2年ぶりに票を投じさせていただくわけですが、あいも変わらず、多少の強引さをねじ伏せてでも読者を納得させるプロットに、深堀りされた人の心理と真理、そして読後感の（ある意味）さわやかなエンターテインメント性。来年出るのか、いきなり終わったりしないかなど不安で仕方がないこともあって、今年も票を投じさせていただきます。

編集者 / 松浦達也

「夏の前日」吉田基已

■ 愛を取るか、恋を取るのか。 美大生の哲生の揺れる心情を、見事に描き切った傑作。 丁寧なタッチで描かれる静かな夏の風景は、ずっと読み返したくなる。多くの方に、この作品を読んでほしい。

LIBRO ecute 大宮店 店長 / 伊藤　晃

■ 毎巻毎巻胸を締め付けられながら読んでました。晶に幸せになって欲しいということだけを願って読んでましたが、読み終わったあとも幸せを願い続けることになりました。またいつか晶の話描いてくれないかなぁ

bar 図書室　店主 / 岡部愛（のん

■ 美大生と美しい年上女性との恋。キャラクター達の表情の変化が繊細に描かれており、ストーリーへと引き込まれる作品。会話のやりとりも粋で、小説を読んでいるかのような作品。

うすいまりこ鍼灸治療院 / 碓氷麻里子

「逃げるは恥だが役に立つ」海野つなみ

■ 「契約結婚」という字面だけ見たらなんだか重いテーマですが、他の漫画には無い独特のテンポとノリでさくさく読めちゃいます。結婚を雇用関係だとわりきるという考え方は、目からウロコです。結婚や仕事、人生の進め方について理屈で解き明かす展開が続くのかと思いきや、主人公二人の恋愛もバッチリ入ってきて少女マンガ的要素も満載！時にすれちがい時に分かち合う恋愛の醍醐味を、知らず知らずのうちに体現している二人にハラハラドキドキ。そして、いくつになっても、恋愛は多かれ少なかれどこかで間違えるものなんだなぁと深くうなずかされます。契約結婚のこの先は、幸せなかたちに落ち着くのでしょうか？答えはひとつではないのでしょうけど、とにかくこの二人の関係がどうなっちゃうのか！見逃せません！

伊吉書院　類家店 / 中村　深雪

■ その「うっかり恋をすっとぼける」感覚へ、遂に時代が追いついた。家事炊飯を仕事として捉えた契約結婚のアイディアは、どこまでも海野節で目が話せません。伯母の百合ちゃん（５０代の高齢処女）の設定も絶妙。これぞ大人の少女まんがです。

お菓子研究家 / 福田里香

「2DK」竹内佐千子

■ おっかけ女子の二人暮らしを描いた作品。ドルヲタ必見？自分がそこまで深くない分感心しながら読んでいます。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「200 年の夜と孤独」松田　円

■ 江戸期に吸血鬼となり、以来おひとりさまを続けて 200 年という吸血鬼コメディ 4 コマ。開き直ってしまえば案外バレないものよ、という痛い人に紛れる主人公もさることながら、垣間見せる永遠の命についての感情が深い。

住職・ライター / 蝉丸 P

「にゃん天堂」うさくん

■ クセのありすぎる登場人物ばかり出てくるのに、読み終わったあとにこの世界から離れるのがさみしくなる、不思議な読後感。

医師 / 岸本倫太郎

「ニンジャスレイヤー マシン・オブ・ヴェンジェンス」余湖裕輝　田畑由秋

■ 忍殺漫画もいくつも出ておりますが、このコンビは素敵ですね。世界観にとてもハマってます。まさにサイバーパンク。ドーモミナサン、めがねっ娘教団です！

めがねっ娘教団 大司教・教務部長 / 田中海渡

「のぼさんとカノジョ？」モリコロス

■ 部屋にいる地縛霊の「カノジョ」とのぼさんがホワイトボードを使い会話をし、一緒に生活していく一度も姿が出てこないのにそのカノジョがとってもかわいく思えてくる。理想的な仲良し同棲生活。カノジョが霊だということを除けば・・次巻で、そのカノジョの謎が明らかになりそうでわくわくです！

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

「ハウアーユー？」山本美希

■ これは重い物語です。読む人を選ぶ作品かもしれません。読む前も、読みながらも、読んだ後も、ずっと心がざわざわしています。悲しい？悔しい？こわい？かわいそう？誰が悪かったの？どこで間違ったの？整理できない気持ちに押しつぶされそうになります。でも、やさしさが残るんです。このマンガに出会えてよかったと、心から思える作品です。

伊吉書院　類家店 / 中村　深雪

「白銀妃」睦月のぞみ

■ みーんな俺の嫁にしたいぐらい魅力的なヒロインたちが…、って 2 位に選んだ作品と同じコメントになっていますが、まあ好きなんですよｗ　やはり魅力的な、性格的な個性もそうですが、民族衣装というか、こういう女の子を描きたいからこの設定にしたんじゃないかというぐらい服装をはじめとしたビジュアルの個性がまた魅力的で、まさにハーレムといえる描写が読んでいてたまらないです。そうマンガのなかで自分がハーレムを持ったようなステキ気分にさせてくれるんですね。いや、素晴らしい♪　マンガを読むのが楽しいと思わさせてくれる作品です。

COMIC　ZIN　商業誌部門責任者 / 塚本浩司

「白馬のお嫁さん」庄司創

■ 遺伝子改造により産む男が存在する近未来。完全に女の子にしか見えない「産む男」達と暮らす男の子の「お嫁さん探し」のお話です。作者の以前の作品を読んだせいか、こんな話も書くのかとビックリします。

バンドマン / TA-SHI

「白暮のクロニクル」ゆうきまさみ

■ 人間てそういう生き物だよね、と何目線かわかりませんが思ってしまう。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

■ ベテランが新境地に挑戦。お役所吸血鬼漫画。

ライター / 縣丈弘

■ 人間と吸血鬼とも間違われる長命種「オキナガ」が共に暮らす現代社会、管理する省庁や役所の手続きなど、フィクションをどこまで現実で規定するかというパトレーバー以来の技巧と発想に優れたサスペンス

住職・ライター / 蝉丸 P

■ 作者のこれまでの作品同様、世界観がしっかり設定されていて、途中でどんどん新たなルールが不自然に追加されていくことがないことが読みやすさを生んでいると思います。加えて今作品は、ミステリとしての面白さがすごい。展開がとても気になる作品です。

会社員 / 林礼春

「ハクメイとミコチ」樫木祐斗

■ ちまちまとかわいい箱庭のような描きこまれた世界とこれまた小さくかわいいキャラクターたち。子供の時に読んでたらきっと山に 2 人を探しに行ったことでしょう。

恵文社バンビオ店　店長 / 宮川元良

■ 和みます、リアルとファンタジーのギャップがいいです。

Hair Make Lounge tetote / 力丸　真

■ 背景が素敵で、いつもため息です。お話は、可愛いです。日本で TV アニメ化してくれないかしら、と心から思う素敵な本です。話に出てくるお料理が美味しそうで、いつも生唾飲みつつ読みます。

有隣堂町田モディ店 / 桶谷佳代

■ 細かい描写に慣れると、世界観に入り込みそれを楽しめる作品。

自営業 / 小野ゆうこ

「働かないふたり」吉田覚

■ めちゃおもしろいですゆるーくポップに「うはは！」となれますゆるい漫画にありがちっぽい、たるい感じはなくて飽きずに読めます好きです

所属：スピードスターとキングレコード、肩書き：歌手 / 後藤まりこ

■ お兄ちゃんと妹が働かないでだらだら日常を送るだけ。　自覚的社会不適合者、いわゆるニートなふたり。　「働かざるもの食うべからず」の昨今のムードの中では眉を顰められてしまうような兄妹ですが、ちょっと待って、と言いたくなるんです　なんせ、アホってすっごい癒される。　疲れた一日の肩の力をふっと抜く効果が絶大です。いいなあ、こんな兄妹がお隣に住んでいたらなぁ、私も夜いい気分で寝れるだろうなぁ、なんて思いながら、倉木さんに替わってもらいたいなぁ～と思いつつ、このマンガが寝る前のお楽しみになってます。

JACK 鷲津駅前ブック館 コミック担当 / 内藤沙織

「はなうた散歩道」朝倉世界一

■ 癒やしです。癒やし。

カメラマン / 平沼　久奈

「はねバド！」濱田浩輔

■ とにかく 4 巻を読んで欲しい。1 巻と読み比べて同じマンガなのかと思うほど桁違いの線、コマ割り、表現力に到達した。最新話を読む毎月毎月が楽しみでしょうがない。

往来堂書店コミック担当 / 三木雄太

「ハル×キヨ」オザキアキラ

■ 「デカ女子×チビ男子」の思春期コンプレックスラブコメのはずなんですが、なんでしょうね、この空気感。コントをみているかのような錯覚。わいわいと楽しい思春期時代を追想している感じがすきなんだなあ、たぶん。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

「ハルロック」西餅

■ 「ドラえもん」しかり、「キテレツ大百科」しかり、「こち亀」なんかもそう。「発明もの」というのは、メジャーで明るいコメディの王道中の王道です。登場人物たちの欲望丸出しの姿は共感せざるを得ないぼくらそのものだし、ギャグマンガ家さんの想像力は愚行の楽しさと客観するとバカバカしさを見せてくれます。でもこれらの発明ものは、22 世紀の猫型ロボットや中川くんの大財力がなければありえない、「ホントはない」モノ。でもこの「ハルロック」にでてくる電子工作品は、Arduino や Raspberry Pi という実際に買えちゃう商品を駆使して、実際に手間の問題その他で作るかどうかは別として、「ホントに作れる」モノ。その「ホントに作れる」ものでも、同じく人間の欲望も愚行も、同じように、いや、むしろ作れるものだからこそ生々しく、明らかになるんですよねぇ。そして、作品当初から「どうしてそんなバカバカしい苦労して作るの？」というところは「そういうものだよ！」と高らかに宣言して、物好きたちの大爆走をカラッとしたテイストで人を食ったコメディが展開する…！「お小遣いほしさについお母さんを自作のスタンガンで倒してしまったけど…」ってどんなセリフですか！ああ、大好き！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

■ 趣味に熱中する人々の姿を楽しく描いているのがいいです。ハルちゃんがわりとナチュラルに鬼畜なのも楽しい。

ライター / 芝田隆広

「パレス・メイヂ」久世番子

■ 架空のメイジパレスに住む若く美しい帝（女性）と、そのおつきの青年との淡い恋心を描いたこの作品を私はずっと愛してきたのですが、巻数を重ねるにしたがってどんどん面白くなってくる……！最初は似て非なる日本国の話だったのですが、3 巻ではロシア皇太子の襲撃事件が発生。それを収めようと動く彰子さま（帝）のカッコよさ！そしていじらしさ。もっとたくさんの人に読まれていいマンガだと思います。どこかで手にとっていただけたらなあと思います。

啓文堂書店本部 / 山川美香

■ 帝に仕える少年を描いた作品。陛下に対して抱く恋心、設定もしっかりしており続きが気になる作品です。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

■ 心を込めて丁寧に仕立てられた服のように、隅々まで面白いです。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

■ 実在の資料を調べて、パラレルワールド的な明治時代をリアリティをもって描いている。公と私、身分差といった古典的な歴史もののシチュエーションではあるが、新鮮に読めてしまう。

丸善書店・ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

「ヒーローカンパニー」島本和彦

■ 現実世界をヒーローがいる世界のギャップを描く作品は最近はよく見るようになったが、この作品が他とは一線を画すのは、キャラクターのどうでもいいいような生活ややりとりを丁寧にギャグにしているところ。ヒーローだからと言ってむやみやたらと熱くならない。でも主人公は正義大好き！このあたりのバランスがさすがです！

医師 / 岸本倫太郎

「人は見た目が 100 パーセント」大久保ヒロミ

■ 2014 年、一番笑ったマンガといえばこれでした。地味な 3 人の理系女子が”オシャレ”を真面目に研究するという題材の面白さもさることながら、たたみかけられる会話の腹筋破壊力がすごかった！美について学べながら、 2 秒に 1 回笑えます！

伊吉書院　類家店 / 中村　深雪

「ヒナまつり」大武政夫

■ 常識知らずの超能力者ヒナと、それに振り回されるヤクザの新田と周囲の人々のドタバタした結果オーライな日常がいいです、あと、イクラが食べたくなる。

Hair Make Lounge tetote / 力丸　真

■ 宇宙からきた超能力少女ヒナに、同居せざるをえなくなりヤクザなのに情けなく振り回される新田を楽しむギャグ漫画です。地球にヒナを追ってきた新たな超能力少女が登場したので、これからどんな一騒動があるのでしょうか。疲れているときに安定感をもって笑わせてくれます。

Books アイ茗荷谷店 / 野口　忠義

「火ノ丸相撲」川田

■ シンプルなのに奥が深い相撲知れば知る程深みにはまる更に言えば侘び寂びの世界も凝縮されているそんな題材だからこそ奥深い面白さが詰まっているのです

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部　大介

「period」吉野朔実

■ 本当にこれで終わりなのでしょうか…とてもさみしい。もっとこの兄弟の物語を読みたかった。吉野さんの漫画は、いつも人間の心理にどんどん踏みこんで、奥へ奥へと潜っていく。まるで底なし沼。心理サスペンスを読んでいるような気にさせられる。次に何が起きるのかが気になって、いつも続きが読みたくてたまらなくなる。続編お待ちしております。

主婦 / 安田奈緒美

「フイチン再見！」村上もとか

■ 最初の女流漫画家・上田トシコ先生の話。こういう方がいてくれたから今私たち女性は当たり前のように仕事を持てるようになったんだなあ。時代を作ってきてくれた女性のパワーや想いは、働く女性に必ず勇気をくれます。必読！

フリーアナウンサー / 松尾　翠

「ふうらい姉妹」長崎ライチ

■ そろそろ評価されてもいいのではないでしょうか！四コマなのにすばらしい

Hair Make Lounge tetote / 力丸　真

「富士山さんは思春期」オジロマコト

■ 最初のほうは富士山さんの大きさと、カンバのエロ思考がこの作品の面白さだったと思うのですが、話を追うごとに絶妙なペースで縮まっていく二人の距離と、それぞれの成長している感じがじりじりさせられて良いです。

会社員 / 林礼春

「フラグタイム」さと

■ 時間を止められる普通の女の子美鈴と、その止まった時間の中で唯一動ける学校の人気者村上さんのお話。1 巻を読んだ時は「美鈴の思いが一方通行で終わるんだろうな…分かってるよ…」なんてふてくされたことをを考えていましたが、まったくそんなことはありませんでした。2 巻で明らかになる村上さんの本質は読みながらドキドキしてしまいます。終盤のシーンでは美鈴と一緒に「村上さんってこんな顔するんだ！」と素直に驚いてしまいました。本当に良い顔してます。よい…。

AKIHABARA ゲーマーズ本店 書籍担当 / 岡田はる花

「flat」青桐ナツ

■ 最終話の秋くんを見て泣きました。終わってしまってさみしいですが、ずっと大切にしたい作品です。

金海堂イオン隼人国分店　コミック担当 / 園田美智子

「フラジャイル」草水敏、恵三朗

■ 王道＆ウェルメイドな医療ドラマ。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口靖彦

■ 岸先生、嫌いじゃないです。

ネビュラプロジェクト / 小森和博

「ブラックジャック創作秘話」宮崎克・吉本浩二

■ 「伝説」を物語の形で読めるのがうれしい。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

「プルターク英雄伝」佐藤ヒロシ

■ 現在手頃な日本語訳がない「プルターク英雄伝」だが、それのマンガ化とはなかなか思い切ったことをするとまずその心意気に心を動かされた。読んでみると地図も多用されていてわかりやすいし、うまくまとまっている。残念なのは 3 巻で終わってしまったこと。ぜひ違う出版社からでもいいので続けてもらいたい。「ヒストリエ」や「アド・アストラ」などと読み比べてみたい。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

「忘却のサチコ」阿部潤

■ サチコのためらいのないところ、目が笑ってないところ、そして食べた後の恍惚。久々に食にばからしく真剣になれるこんな変なキャラクターに目が離せない。彼女は忘却のかなたのさらにその先のどこに行こうとしているのだろうか。話など展開しなくてもいい。このままずっと行き着くとこまで行ってほしい。

株式会社スタジオフーズ / 小林智之

「ホークウッド」トミイ 大塚

■ 英仏百年戦争の戦場を跋扈する傭兵隊長ホークウッドの活躍を描いた中世リアル合戦絵巻。単なるエンタテインメントでなく、史実の裏、実践の泥臭い雰囲気を余すことなく描写されており、これまでの儀礼的な甲冑系マンガをは一線を画す秀逸な作品！

アーティスト / 新井文月

「星くずドロップ」小嶋ララ子

■ なにもかもがかわいい。今年 40 歳になるＶシネマに出てくるヤクザのような風貌の僕はこういう表紙から中身までただただかわいいマンガを読むことに喜びを感じるようになりました。女子が読んだらかわいさ 3 割増しになることでしょう。それぐらいかわいい。

恵文社バンビオ店　店長 / 宮川元良

「魔街の坂」中村哲也

■ シンプルでちょっといい話なファンタジー。戦って大切なものを守るって、それはそれは大切なことです。

めがねっ娘教団 大司教・教務部長 / 田中海渡

「ぼくは麻理のなか」押見修造

■ 「惡の華」の押見修造が描く、人格入れ替わりモノの作品。キモいほどリアルな感情表現。入れ替わった相手が･･･いやネタバレはやめておこう。とにかく面白い。

株式会社アルナシステム代表取締役社長 / 平田淳

「僕らはみんな河合荘」宮原るり

■ このじれったさがラブコメだ！と感じます。

会社員 / 林礼春

「ぼくらの 17-ON ！」アキヤマ香

■ 俳句甲子園を目指す高校生たちが 17 音に乗せて、思いをぶつけあう熱血青春「俳句」マンガ。きっかけは片思いの相手が俳句好きだから、という不順な理由だったり、なりゆきだったり、こじらせていたりとバラバラで、温度差もある。でも、経験者・未経験者という序列や熱量がある瞬間、ガラッと変わったりもする疾走感にワクワクします。作中に出てくる俳句もお楽しみのひとつ。甘酸っぱい青春気分と、凜とした俳句の空気を同時に楽しめ、解釈バトルにうならされる。一粒で二度も三度もおいしい作品です。

馬場企画 / 島影真奈美

「マージナル・オペレーション」原作：芝村裕吏　漫画：キムラダイスケ

■ 原作有りきの漫画ではダントツに面白い！人間を殺しているという実感がなくゲーム感覚で行われる戦争。これが真実なのかもしれない。

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋修一

「マイぼーる！」いのうえ空

■ イラストが可愛すぎて只の萌えコミックだと思われがちですが、サッカーシーンにも凄い気合の入った作品となっております。 萌えて燃えられる女子サッカーコミックス。勿論練習後や試合後のお約束、お風呂シーンも見逃せません！各ポジションの女の子やライバル達も個性的でキャラクターがとても覚えやすいのも良いですね。

バイイングマネージャー / 日吉雄

「MASTER キートン Re マスター」浦沢直樹、長崎尚志（ストーリー）

■ 超名作の 20 年ぶりの続篇。元の水準が極めて高いだけに、軽妙さや緩急が大きく減じられても、年間ベスト級の 1 冊にはなり得ている。

書評家 / 福井健太

■ 待ってました！続編！あれから、２０年たってるはずなのに、変わらずキートンがカッコいい♪

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

■ マスターキートンが大好きだ。どれくらい好きかと言うと、映画館でカップルが「二十世紀少年、超面白かったー。」「いやいや、浦沢直樹はMONSTERでしょ〜。マジ、読んでみてよ。家に全巻あるけどこない？」って会話してたら、心の中で「マスターキートンだろうが！！」と、胸ぐらがっつり掴みたくなるし、どれくらい人生に影響うけたかというと、ヘアピンで、家の鍵を開けるの挑戦したくらいだ。ヨーロッパの政治と内乱の影響や歴史を知ったのもこの本のおかげ。そんなマスターキートンの完全新作。本屋で新刊をみたとき、小躍りする勢いでした。２０年ぶりとのことですが、絵柄もストーリーの雰囲気も、なんというか、同窓会であった友達が、いい感じに年を取ったけど、あの頃と変わってなくて、嬉しいあの気分に似てます。２０年たっても、政治や戦争の残した傷は大きく、新たな問題もたくさん出てきてる。キートンも相変わらず、凄腕だけど、自分の夢の考古学ではなかなか夢がかなってない。　１人の人間の力ではなんとも出来ないことが、なんと多いことか。 でも、知識を武器にユーモアを忘れず、時に少年の様に夢に向かいブレずに進むキートンの姿は、私に勇気と希望を与えてくれるのです。これからの二次元の人生の師の活躍を願わずにはいられない。

米子高校漫画研究部顧問 / 佐川ゆかり

■ 一度完結した昔の人気漫画の続きをいくつか見かけます。本来の、既刊８巻までというマンガ大賞のルールに則ると、その一つである本作品を挙げるのは反則かも知れませんが、それでもいい！と言い切れるくらい、素晴らしい作品です。ヨーロッパの源流を探るという考古学の挑戦をベースに、ときに国家機関を巻き込む陰謀の渦巻く中、日英ハーフの元英国特殊部隊で探偵・学者という平賀キートン太一が人間ドラマを解き明かしていきます。飄々とした仕事ぶりと、家族関係に悩まされ振り回されるギャップがたまりません。たまに続けてほしいです。

衆議院議員政策秘書 / 三葛敦志

「また！女のはしょり道」伊藤理佐

■ 合言葉はズルする為に一生懸命！でも、そんなに一生懸命やっていなかったり、やり過ぎて泣いていたり（笑）真似したいものもほんの少しだけど、ありました。真似したいところがほんの少しっていうのが、このマンガの良いところだと思いますｗ

主婦 / 柴 架衣

「帝の至宝」仲野えみこ

■ 完結しました。とてもときめきました。ラブコメってイイネ…！ときめいて楽しくて元気になれるので、大人も読めばいいさ！

金海堂イオン隼人国分店　コミック担当 / 園田美智子

「水色の部屋」ゴトウユキコ

■ 読むと精神がえぐれます。なんちゅうこと描いてるんだと。ただ、エピソード自体がセンセーショナルなだけで、彼らの心情は、とても、理解できる。自分の闇と強制的に向き合わされているようで、すごくうしろめたい。平成版ロマンポルノな作品が読めたことが幸せだと思う反面、続き読むことでトラウマになりそうだなと、純粋にそう思う。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

■ 冒頭からきっと大変なことになるぞ、と思っていたらやっぱり！ぐらぐらでドロドロの続きはどうなる！？とやきもきしました。しかし著者のゴトウさんは本当にエロが超巧い！エロの空気をマンガからモワーっと出す。音楽マンガから音を想像させるのと同じくらいすごいことなのだと思います。

恵文社バンビオ店　店長 / 宮川元良

「ミトコンペレストロイカ」まん〇画太郎

■ お馴染み（？）のネタだらけで、初めて読むのに知ってることだらけで、不思議だけど、それが当然で……まぁとにかく、いつものソレです。とりあえず、乳首に軟膏塗る話はよ。

ミュージシャン／他 / 杉本善徳

「向ヒ兎堂日記」鷹野 久

■ ひとつひとつのエピソードに心情的なテーマが、読み進めるごとに降り積もっていくような作品。

自営業 / 小野ゆうこ

「昔話のできるまで」山田穣

■ 前作「がらくたストリート」で心をつかまれ、すっかり山田穣さんのファンになってしまったわけだけど、今作もキレてます。「子供はわかってあげない」を好きなあなたにも、是非オススメしたい。

シンガーソングライター / 谷澤智文

「ムシヌユン」都留泰作

■ 「ナチュン」では攻殻機動隊などのサイバーな近未来 SF とはまた違った世界観をしめしてくれた作者だが、今作でもそれは健在。まだ 1 巻しか出ていないけど、沖縄を舞台に繰り広げられる生命感あふれる話運びには期待せざるをえない。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

「メイドインアビス」つくしあきひと

■ 画力の高さ、世界設定の緻密さに脱帽。絵本のようなかわいい絵とは裏腹に結構グロかったり冒険の難易度はばりばりハードモード。だからこそページをめくる度にほんとワクワクする。

醤油製造業 / 小野塚博之

「モトカノ☆食堂」大井昌和

■ 『流星たちに伝えてよ』とか『女王蟻』とか『起動帝国オービタリア』といったＳＦ作品が描ける漫画家だけれど、世間では『おくさん』とか『ちいちゃんのおしながき』とか『一年生になっちゃったら』といった、エロかったりほのぼのとしていたりする作品の人だと思われている大井昌和。どっちもそれだけ描けるのは凄い才能なんだけれど、好みを言うならやっぱりＳＦ寄りの方。そしてこの『モトカノ☆食堂』も、しっかりとＳＦ心を刺激してくれる作品だ。例えるなら『深夜食堂』の宇宙版。小さい島みたいな星にある「もとかの食堂」を尋ねてくる人に、思いの深い料理を出していく、といった話が様々なバリエーションで描かれていく。狭い部屋にいっしょに暮らし、マグロの缶詰がセールだったからと買い込んで料理を作り、食べさせていた彼が姿を消してどこにいったと探した少女の前に現れた彼には彼女がいた。憤り嘆いて密航までした少女だったけれど、捕まりそうになって「もとかの食堂」に入ると、そこに２人がやって来て、そして少女は店の棚にあったマグロの缶詰を使って、料理を元の彼とその彼女に出してあげる。あるいは違法のショーをして回っている女が、「もとかの食堂」で休みながら、娘に昔ラーメンを作ってやったと話してると、官憲がやって来て女を捕まえようとする。ここは食堂だからとたしなめた女主人が、官憲の女に出したのは薄い合成肉のチャーシューとクローン卵の目玉焼きが乗ったラーメン。それは官憲の女が子供の頃、家を捨てて出ていった母親に最後に作ってもらった料理だった。そしてどうなったかは読んでのお楽しみ。食堂の存在と、思い出の食事がつなぐ縁であり、蘇らせる過去。読めばほっこりしてくる漫画。自分ならどんなメニューが出てくるか。ちょっと行ってみたくなったけれど、どうやったらたどりつけるんだろうか、「もとかの食堂」には。

書評家 / タニグチリウイチ

「森野先生とボク」釜本タカシ

■ 女性でロングヘアで眼鏡で２８歳でＳＦ作家。それだけでも奇跡のような存在なのに、出す本のことごとくがベストセラーになって数百万部を売り、文学賞も獲得して海外でも人気というから、存在自体がＳＦとしか言いようがない。そんな森野美幸こと森野先生をヒロインにして、彼女から原稿をとろうとがんばる新米編集者のボクこと相田純一に起こる不思議な出来事を描いていくストーリー。単に奇矯な振る舞いをするだけの女性に見えないこともない森野先生だけれど、関わると待っているのは驚きの日々。ニワトリが生んだ卵にされ、家ごと宇宙空間を飛ばされ、カラスに襲いかかられ赤ん坊の頃に戻され森野先生によって抱きかかえられては落とされたりする。そんな不思議な経験の合間､通っていないように見えてだんだんとつながっていく森野先生とボクとの関係が面白い。上っ面だけのコミュニケーションではない、心のさらに奥底にある原始の衝動のようなもので人は結びついていくのかもしれない。なんてことを思わされつつ、それでもやっぱり厄介な人を相手に、どうすれば仲良くなれるんだろうかと考えさせてくれる。それでいったい森野先生のＳＦはどれくらい面白いの？　読むといったいどうなっちゃうの？

書評家 / タニグチリウイチ

「ヤコとポコ」水沢悦子

■ 次世代のネコ型ロボットマンガ！ポコが健気すぎて泣ける。掲載誌廃刊も泣ける…ゆっこペン商品化求む！！絶対ズボラ飯より射程距離長い作品だと思う！！

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 営業管理部 / 大山　敏樹

■ まず世界観に引き込まれ、ちょっと切ない夕焼けどきのようなお話に、胸がぎゅーっとしました。なんだか昭和を思い出すノスタルジックさがあります。ゆっこペン、私もほしいな。

ホビー系会社勤務 / 畑中 瀬路奈

「夕空のクライフイズム」手原和憲

■ サッカー漫画は多くある中、これほどマニアックなものは中々お目にかかれないと思います。 だからといってマニアにしか読めない内容かというとそんな事もなく、守備 0 攻撃 10 ととても分かり易く楽しく美しいサッカーを目指す監督の元、主人公たちは奮闘して行きます。その監督の娘でコーチでもあるヒロインの雨ちゃんもトレードマークのおかっぱと太股を引っ提げてチーム (特に主人公 !) をサポートします。 果たしてチームの変革は成功するのか !?

バイイングマネージャー / 日吉雄

■ 随所に出てくる小ネタがサッカー好きの心をくすぐる。勝つサッカーより魅せるサッカー！どちらが良いか人それぞれ。楽しんでやるに越したことはないし観客は試合が面白ければ負けても納得するものだ。(個人的感想) きっと著者はこの作品を楽しんで書いている。(個人的妄想) マニア受けで終わってしまうかもしれない。でも楽しんで書いている (個人的妄想) 作品が面白くないはずはない！とにかく読んで欲しい。サッカーを知らない人でもこれを読めばきっとサッカー通になれる！きっと (個人的願望)

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋修一

「雄飛」小山ゆう

■ 現在、次話を最も楽しみにしている漫画です。

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

「湯神くんには友達がいない」佐倉準

■ 友達は必要ないと言いつつ、何だかんだで（無意識に？）周りの人にちょっかいを出している（ように見える）人情味ある湯神くんと、振り回されるクラスメイトたち（というより友達）に、ゆるゆると笑えます。

大学図書館司書 / 堀江千秋

「夢から覚めたあの子とはきっと上手く喋れない」宮崎夏次系

■ 読むたびに気が滅入るが、また読みたくなる世界。

弁護士　/　長島・大野・常松法律事務所 / 三村　量一

■ 流れるようなコマ割りと、独特の感性が心を揺さぶります。

書楽 阿佐ヶ谷店 コミック担当 / 石田充

■ 物語すべてが切なく、愛おしい。著者の「愛」に包まれた短編作品。特に「リビングにて」は不覚にもうるっときてしまった。ずっと手元に置いておきたい漫画。

あゆみ Books 仙台店・副店長 / 土屋修一

「夜とコンクリート」町田洋

■ レイ・ブラッドベリの世界を連想させるハイセンスな短編。収録作品「夏休みの町」は秀逸。

弁護士　/　長島・大野・常松法律事務所 / 三村　量一

■ 四つの短編を収録した作品集。どの話も、日常と非日常のあいだを行ったり来たりしていて、「不思議」のさじ加減がとても絶妙。読み終えた瞬間から、もう一度読み返したくなる作品です。

大学図書館司書 / 堀江千秋

■ このマンガの雰囲気がとても好きです。月の光に照らされているような無機質な世界のなかでゆったりと進むほんのり温かい物語がとても心地よいです。

システムエンジニア / 廣瀬 公将

■ 絵本のような絵柄と切ない余韻がたまらなく好きです。読んだ後ボーッとしてしまうくらい、1 話 1 話の余韻が凄かったです。

バンドマン / TA-SHI

「ラーメン大好き小泉さん」鳴見なる

■ 今年は女性が貪り喰う。姿にやられてるらしい。サチコといい、小泉さんといい。

株式会社スタジオフーズ / 小林智之

「ラチェット・シティ」山下ユタカ

■ 「カッコよさ」が画面に詰まっている。ヤンキー世界に触れたことがない自分にも、この作品がリアルで、血が通ったものだとわかる。昨年『ヤンキーマンガガイドブック』でもインタビューを受け (この記事がまた面白い)、またクラウドファンディングも達成し過去作の続きが読めることになるなど大きな注目を集めている。2015 年は山下ユタカイヤーとなるだろうか。山下ユタカにしか描けないものをもっともっと読みたい。

往来堂書店コミック担当 / 三木雄太

「リィンカーネーションの花弁」小西幹久

■ 前作『素足のメテオライト』にも見られた作者のファンタジー熱が帰ってきた。自分の無才にうんざりしている主人公。現代に引き出される偉人賢人の才能！ そんな規格外どうしの頭脳肉体を駆使したバトル！設定の何もかもに震える。主人公の渇望を凝縮しての一巻のラストは見事。

往来堂書店コミック担当 / 三木雄太

「RIN」ハロルド作石

■ 思春期と不思議なチカラと純粋な心のお話。

カメラマン / 平沼　久奈

「臨死！！江古田ちゃん」瀧波ユカリ

■ 人生という病に効く良薬、劇薬、しびれ薬。箴言集として、懺悔録として、これからも折々に開くことでしょう。完結を祝して。

朝日新聞記者 / 小原篤

「レイチェル・ダイアル」皿池篤志

■ お転婆お嬢様と、偶然拾った二人のイケメン（？）アンドロイドが、日常的などうってことのないトラブルを解決したり、たまにアクションして巨悪を挫いたりするSFコメディ。SFと銘打っているだけありしっかりとした世界観を構築しているが、敷居の高さは全くなく、ボケとツッコミのテンポ良い、ムダ話多めでチャッチャキ進む会話が小気味良く、非常に読みやすい。2014年に発売された2巻で完結巻となる。基本的にはオムニバス形式で話が進み、先述のとおりちょっとした街の珍事から、世界を揺るがす大災害まで、様々なトラブルと関わっていく。この世界でかつてあったらしい、機械の大反乱から立ち直りつつある世界。反乱を起こしたロボットたちは島に隔離され人とは関わらないようにされてきたが、好奇心旺盛な主人公・レイチェルが潜り込んでしまう。そこで出会った不良ロボットのアレックスとマックスを強引に仲間にし大脱出、人を巻き込んで振り回していくレイチェルは、世界とロボットの関係性をも変えていく…というと壮大な感じだが、あまり肩ひじを張らない、あくまでレイチェルとその周りの人たちのボケとツッコミで話は進んでいく。1巻開始時は8歳だったレイチェルは、最終回では22歳。周りのキャラクターたちも成長し、年老いていくが、ロボットであるアレックスとマックスは変わることなく、ずっとレイチェルの傍に居続ける。毎エピソードごとに増えていくレイチェルの年齢表記は、彼女の成長を端的に表しているだけでなく、アレックスとマックスとの絆の深さも感じさせる。その一方で、成長し変わり続けて、いずれは老いていくであろうレイチェルを、アレックスとマックスはどう見つめていくのだろうという、一抹のせつなさも匂わせているのだ。マンガはレイチェルが22歳の時点で終了となるが、きっとそのあとも大小さまざまなドラマが彼女たちを待っているのだろうと思う。もっとレイチェルの冒険を読んでみたいとも思うが、人に聞かせるお話はこの辺でしまいにしておく、というのもレイチェルらしいという気にもなる。

株式会社アニメイト / 岡ノ部亭 真泰

「レストー夫人」三島芳治

■ 作者の12年前の同人誌に同名の作品があって読み比べたりしました。

マンガ研究 / 会田洋

■ 独特のぽつねんとした世界が、商業単行本でも読めてうれしい限り。

ライター / 芝田隆広

「ワールドトリガー」葦原大介

■ 2014年もっとも読み直した作品。新刊がでるたびに1巻から読み直す。しかも何回も。巻を追うごとに設定の細やかさが光り、あの時はどうだっけ、あいつはなんて言ってたっけ…などと確認作業を何度となく繰り返しただけのことはあって、大概の質問には答えられるようになりました。これほどの読み直しにも耐えられるだけのクレバーなストーリー展開、個々の際立ちが半端ないキャラ設定、スケールのでかい世界観、すべてにおいて驚かされることばかり。しかもこれを週刊でやっているとは。なんということでしょう。かつて少年マンガ史上これほど「熱くない」主人公がいただろうか、というくらい平凡なめがねが、この先どう強者たちの中でもまれていくのかが楽しみすぎて死ねない。これほど「読まないと面白さが伝わらない」作品もないなあと。とりあえず4巻まで読んでみればいいと思う。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

■ バトル物と思わず読んで欲しい。少年漫画らしい成長譚でもあります。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

「Levius」中田春彌

■ キャラの造形は、エンキ・ビラルのよう。アメコミ風というよりは、一見バンド・デ・シネと見まごうハイカラマンガ。左綴じだし！而してその実態は、蒸気機関サイボーグによるガチンコ殴り合いバトルなのであった !! ゴリゴリのスチームパンクな設定と、リアル路線の絵柄がやや人を選ぶ分か、ストーリーは明快。戦争で右腕と家族を失った少年が、腕を機械化して、蒸気機関サイボーグによる殺し合い「機関拳闘」の世界でのし上がっていくというもの。その過程で、非人道的な手段で機械化兵を増やして世界各地に戦争を仕掛けている極悪国家「アメジスト」との対決があったり、「アメジスト」によって殺戮マシーンに改造されてしまった悲劇のヒロイン「A.J.」との死闘があったりと、クールな絵柄とは対照的に、手に汗握るアツい物語が展開する。IKKI での連載は終了、今年からウルトラジャンプに移籍して連載再開とのことだが、IKKI 連載分のいわば第一部のラストで、機関拳闘トップランカーがついにその姿を現した。今までのバトルは、基本は「拳闘」だけあって殴り合いがメインの肉弾戦。たまに敵がガトリン具眼を引っ張ってくるくらいだったのだが、このトップランカー、「冥王」の異名を持つクリストファー＝テッド＝エルフィンストン、背中から機械仕掛けの骸骨のような異形の兵器を出現させて、「11 秒間で 2000Km 離れた 8 か所を同時攻撃して敵の軍隊を全滅させる」という Z 戦士も裸足で逃げ出すような化け物っぷりを披露する。これがトップランカーである「グレード 1」のうちの一人にすぎないというのだから、これから先も目が離せない！他にはどんな化け物が出てくるのか、どこまで行くんだ機関拳闘、という期待が否が応にも高まるのである。と、キャッチーな部分だけ挙げてみたが、和製 BD とも言えるような、写実的で映画のような画面作りは一見の価値あり。

株式会社アニメイト / 岡ノ部亭 真泰

■ 独特なコマ割りや描写が、クール（？）です。物語に一区切りで、今後への期待もありつつ、ここまでの加速感も心地よかったです。

ミュージシャン／他 / 杉本善徳

「ワカコ酒」新久千映

■ 女子ひとり酒マンガ。男性読者の支持が高い。「軽く一杯」なライト感じがいいです。

本と文具ツモリ / 津守晋祐

■ このマンガを読んでいると、「ああ、生きてるって素晴らしい！」（注・ご飯が美味しいと嬉しいよねの意味）と心底思います。ワカコちゃんはお酒が大好きで、大好きなお酒に合うおつまみも大好き。よく一人でふらりとお酒を飲みに行きます。私も彼女の背後から（ページをめくりつつ）追いかけていくのですが、とにかくそのつまみが美味しそうなんだ！サザエのつぼ焼きのワタの薀蓄とか（残すなんてとんでもない！）、アヒージョの熱々っぷりだとか、見ていていつも涎が出てたまらなくなるのです。今日も一人でお酒とつまみを堪能しに町へ出るワカコちゃん。また私も一緒に素敵なところへ連れて行ってね！

啓文堂書店本部 / 山川美香

「わたしは真夜中」糸井のぞ

■ 恋愛の絡むマンガで、自分を追い詰めるような描写はもうお腹いっぱいな身からすると、身構えながら読んだら全然優しかった！というこの読み心地は貴重でした。ある意味ファンタジーですが、でもアリだと思います。アリだといいたい。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

「ワンパンマン」ONE/ 村田雄介

■ 読んで字のごとく、ワンパンチで敵を倒してしまう単純明快な漫画・・・と一見出落ち感満載かと思ったらそうじゃあない。そこに至るプロセスとその後の結末は、読む人を良い意味で裏切り続けてくれます。 刊数を増すごとに起こるインフレも 7 巻で天井か？と思わせるあたりも今後に期待大です。

デザイナー / 佐藤 ユウ

■ 中毒？のようなおもしろさ。努力、友情、の世界が好きでそれのアンチテーゼとは分かっているけど辞められない。それにしても番外編多すぎ笑

会社員 / 金子幸恵